

令和 6 年度
多摩区区民意識アンケート調査
報 告 書

令和 7 年 2 月



川 崎 市 多 摩 区

目 次

I. 調査概要	1
1 調査の目的	3
2 調査の方法	3
3 調査の項目	3
4 回収状況	3
5 この報告書の見方	3
II. 調査回答者の属性	5
III. 調査結果	15
1 生活環境の満足度について	17
(1) 多摩区の長所・魅力	17
(2) 住みやすさ	19
(3) 定住意向	21
(4) 区外転居意向の理由	23
(5) 多摩区に対する愛情や誇り	25
2 市政への参加、地域でのボランティア活動などについて	30
(6) 地域活動の状況	30
(7) 行っている地域活動の分野	32
(8) 地域活動をする上で支援を受けたいと思うもの	34
(9) 地域活動を行っていない理由	36
(10) 地域活動への関心分野	38
(11) 地域活動への取組意向	40
(12) 地域活動を始めるために必要な機会や場	42
(13) 町内会・自治会への加入状況	44
(14) 町内会・自治会に加入していない理由	47
(15) 区民と行政が協働して取り組んだ方が効果的だと思うもの	49

3 区役所が推進する主な取組について	51
(16) 多摩区の見どころ	51
(17) 区の観光振興やイメージ、地域ブランド向上を目指す取組の認知状況	53
(18) 地震・風水害などの災害に備えるため、家庭内で現在行っている取組	55
(19) 「地域包括ケアシステム」の認知状況	57
(20) 「地域包括ケアシステム」における自助・互助の活動状況	59
(21) 「地域包括ケアシステム」における自助・互助として行ってみたい活動内容	61
(22) 健康づくり推進のため、重要だと思う取組	63
(23) 日々の健康づくりとして意識していること	65
(24) 高血圧に関する健康状態	74
(25) 近所付き合いの程度	76
(26) 自分と世代が異なる人との付き合いの状況	78
(27) 近所に手助けを頼める人の有無	80
(28) 近所に手助けを頼めると思うこと	82
(29) 「認知症サポーター養成講座」の受講経験と受講意向	84
(30) 知っている3大学関連イベント	86
(31) 「多摩区ソーシャルデザインセンター」の認知度	89
(32) 「多摩区ソーシャルデザインセンター」の取組の認知度	91
(33) 「多摩区ソーシャルデザインセンター」の取組の利用・参加経験	94
(34) 多摩区におけるソーシャルデザインセンターが力を入れて取り組むべきこと	96
(35) 生田出張所の市民利用スペースの認知度	99
(36) 生田出張所がコミュニティ拠点として活用されるために、力を入れてほしい取組 ...	102
(37) 区役所が力を入れて取り組むべき施策	105
IV. 調査票	109

I . 調查概要

I. 調査概要

1 調査の目的

区民が日頃、多摩区について感じていることや、区民の地域活動に関する意識、多摩区役所が推進する主な取組に関する意識などを調査することで、多摩区役所が区民に身近な総合行政機関として、地域の課題解決や、地域の魅力を活かした取組を効果的に推進していくための参考とすることを目的として実施した。

2 調査の方法

- (1) 調査の対象者 …… 多摩区在住の 18 歳以上の男女個人（外国人を含む）
- (2) 標 本 数 …… 2,000 サンプル
- (3) 標本抽出方法 …… 住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出
- (4) 調査方法 …… 郵送法（郵送配布・郵送回収／インターネット回答）
- (5) 調査期間 …… 令和 6 年 10 月 1 日（火）～令和 6 年 10 月 31 日（木）
- (6) 調査委託機関 …… 株式会社 綜研情報工芸

3 調査の項目

- (1) 生活環境の満足度について
- (2) 市政への参加、地域でのボランティア活動などについて
- (3) 区役所が推進する主な取組について

4 回収状況

- (1) 標本数 2,000 票
- (2) 有効回収数 807 票（有効回収率 40.4%）

5 この報告書の見方

- (1) 図表中の「n」（number of case の略）は各設問の回答者数を示し、比率算出の基数である。
- (2) 集計は百分率とし、小数点第 2 位を四捨五入して算出した。したがって、回答比率を合計しても 100.0%にならない場合がある。
- (3) 回答の比率（%）は、その設問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問は、すべての比率を合計すると 100.0%を超えることがある。
- (4) 標本誤差は回答者数と得られた結果の比率によって異なるが、無作為抽出法による場合の誤差（信頼度 95%）は次の式によって得られる。

＜標本誤差算出式＞

$$b = 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差（無作為抽出法の場合）
N = 母集団全体
n = 比率算出の基数（サンプル数）
P = 回答の比率

今回の調査結果の誤差及び信頼の範囲は下表のとおりである。

【例】ある設問の回答者数が 807 人で、その設問中の選択肢の回答比率が 70%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は±3.23 である

＜標本誤差早見表＞（信頼度：95%）

回答比率 (P) n	10%または 90%程度	20%または 80%程度	30%または 70%程度	40%または 60%程度	50%程度
807	±2.11	±2.82	±3.23	±3.45	±3.52
700	±2.27	±3.02	±3.46	±3.70	±3.78
500	±2.68	±3.58	±4.10	±4.38	±4.47
300	±3.46	±4.62	±5.29	±5.66	±5.77
100	±6.00	±8.00	±9.17	±9.80	±10.00

（注）上表は $\frac{N-n}{N-1} \approx 1$ として算出した。

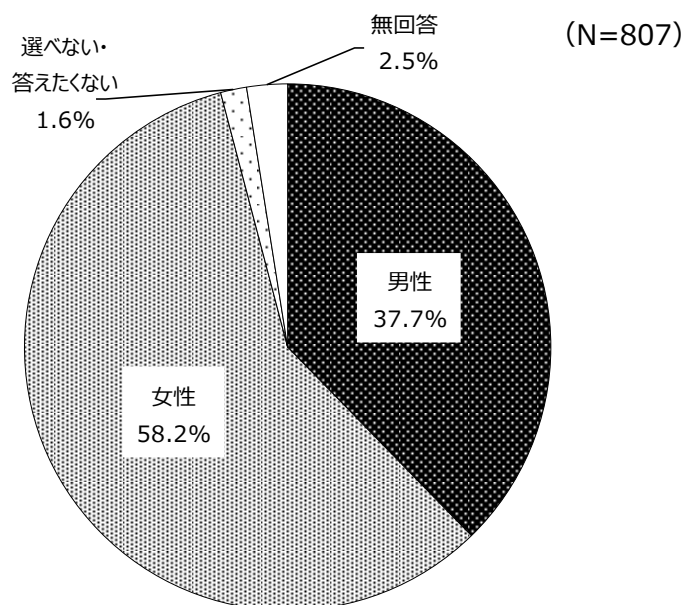
（5）クロス集計時に、基数（n）が小さい数字になる場合は誤差が大きいのので注意が必要である。

（6）クロス集計について、分析の軸となる設問の回答の「無回答」は表示していない。ただし、全体の件数には含めているので、分析軸に表記した回答者数の合計が、全体の件数と一致しないことがある。

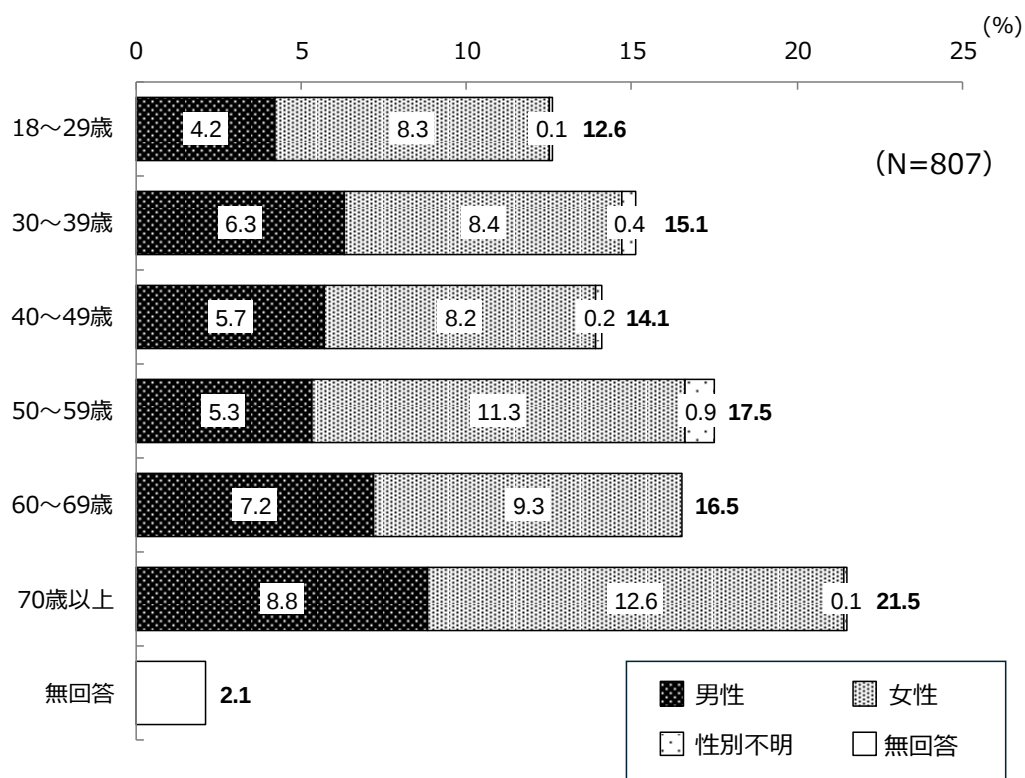
Ⅱ．調査回答者の属性

Ⅱ. 調査回答者の属性

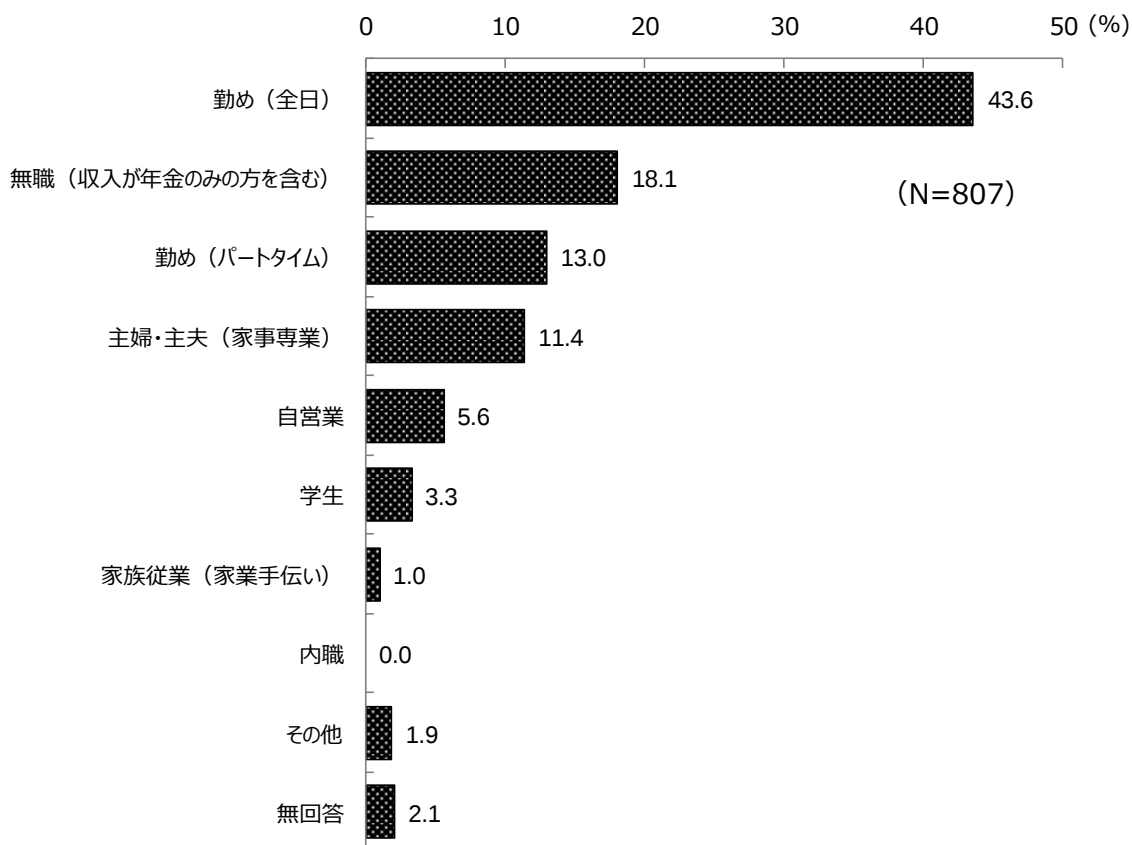
問 30 性別



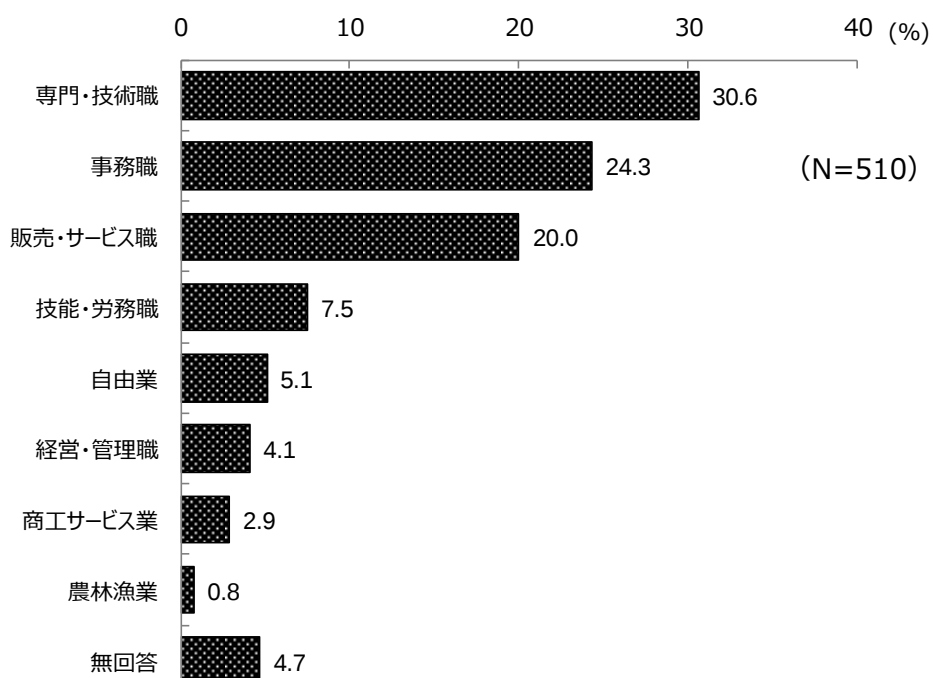
問 31 年齢



問 32 職業

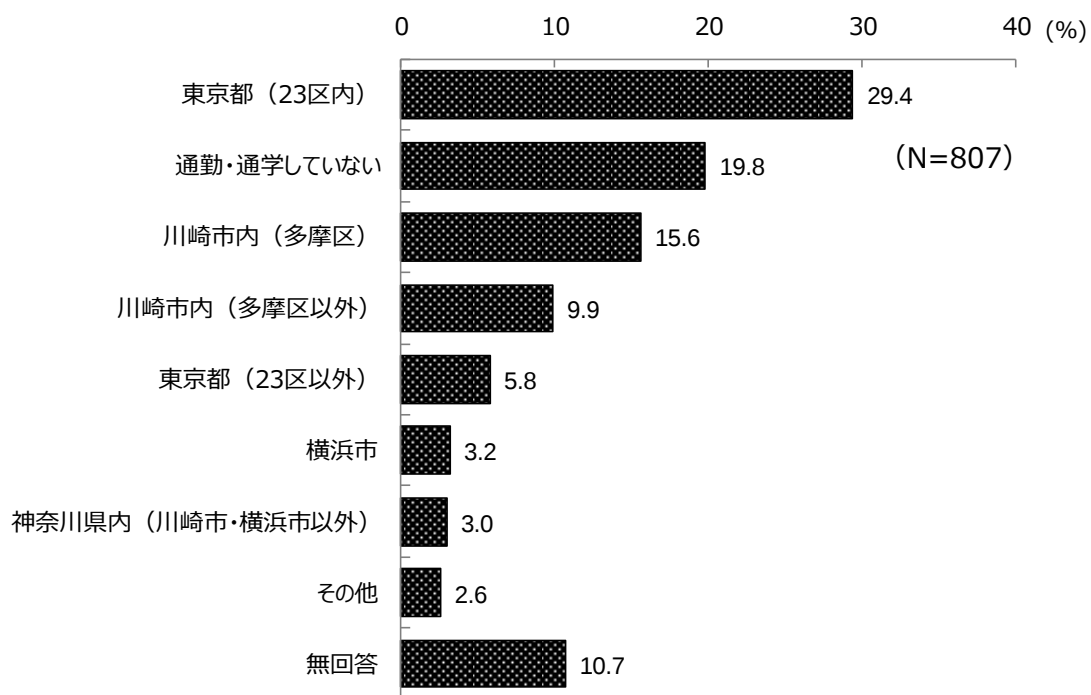


問 32-2 業種・職務

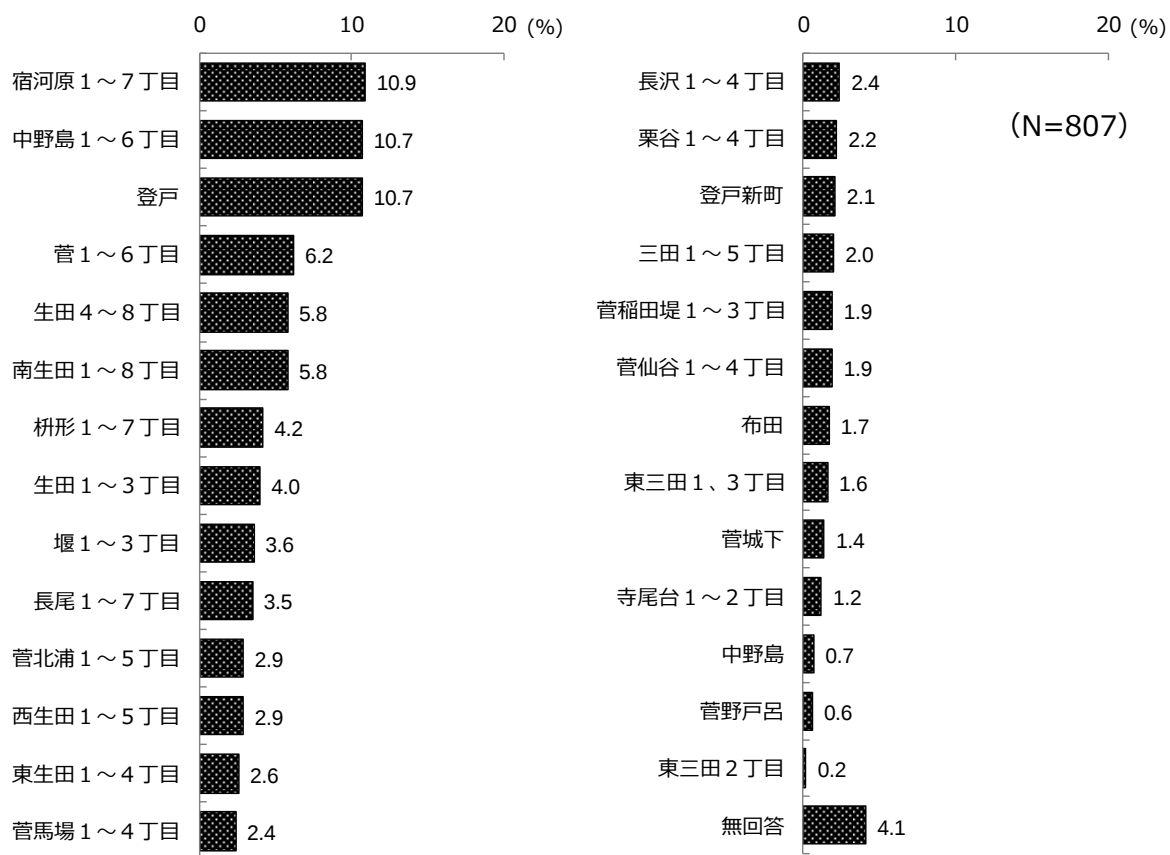


※問 32 で「勤め（全日）」、「勤め（パートタイム）」、「自営業」、「家族従業（家業手伝い）」と選択した人のみ回答

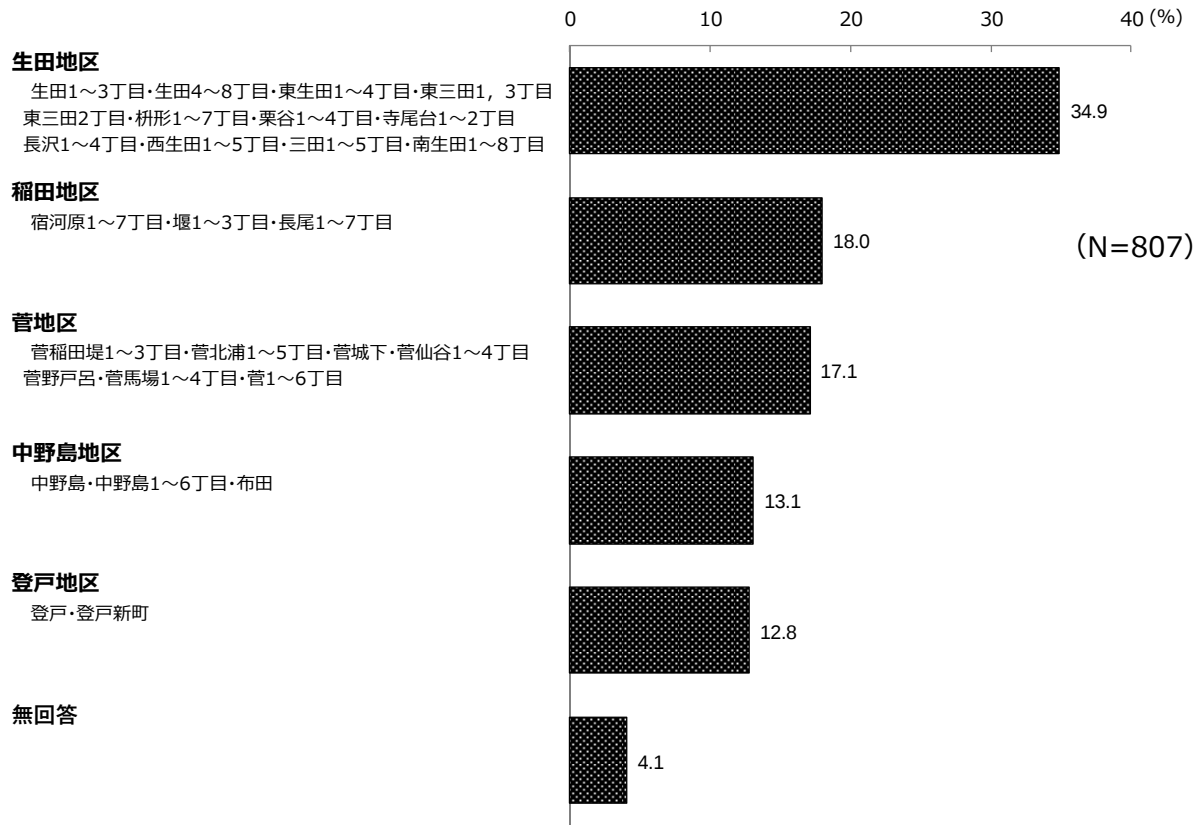
問 33 通勤・通学先



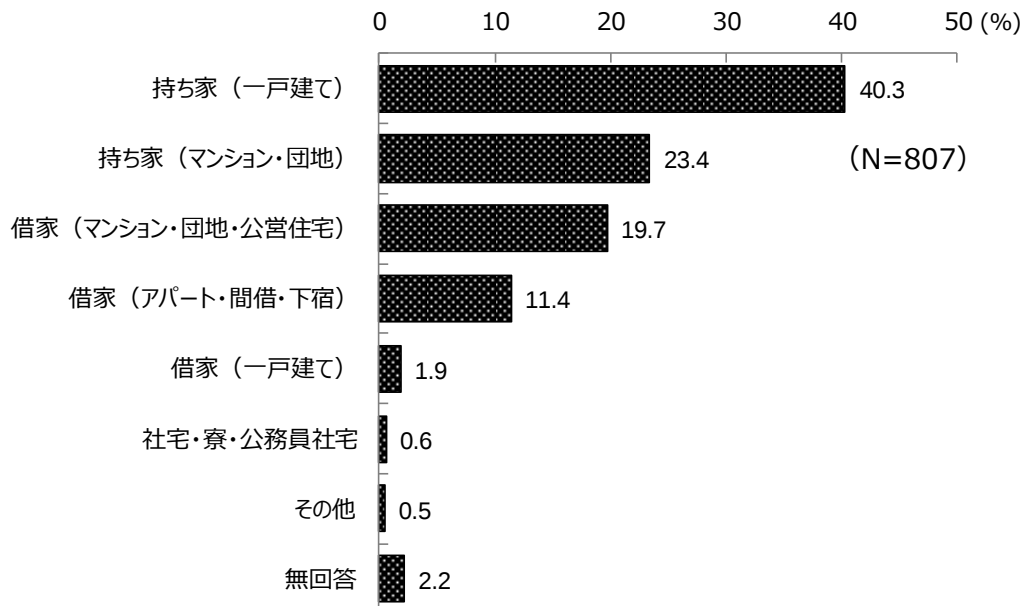
問 34 居住地



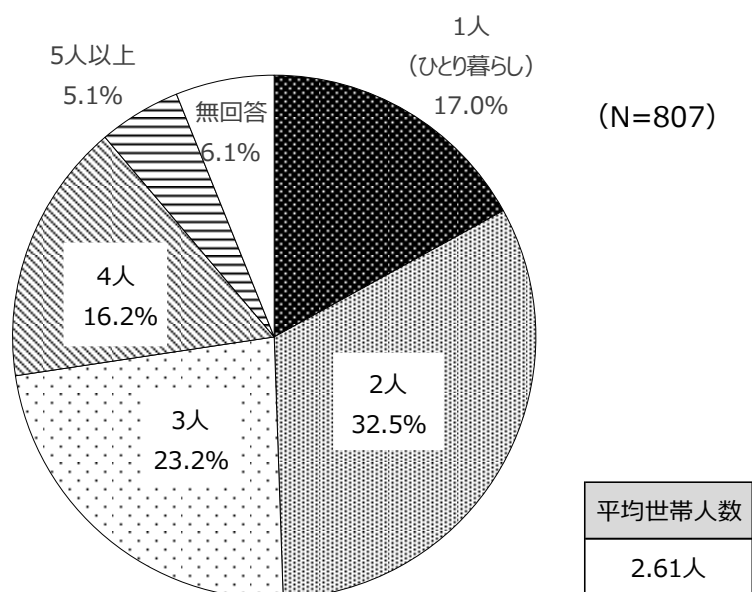
居住地(地区別)



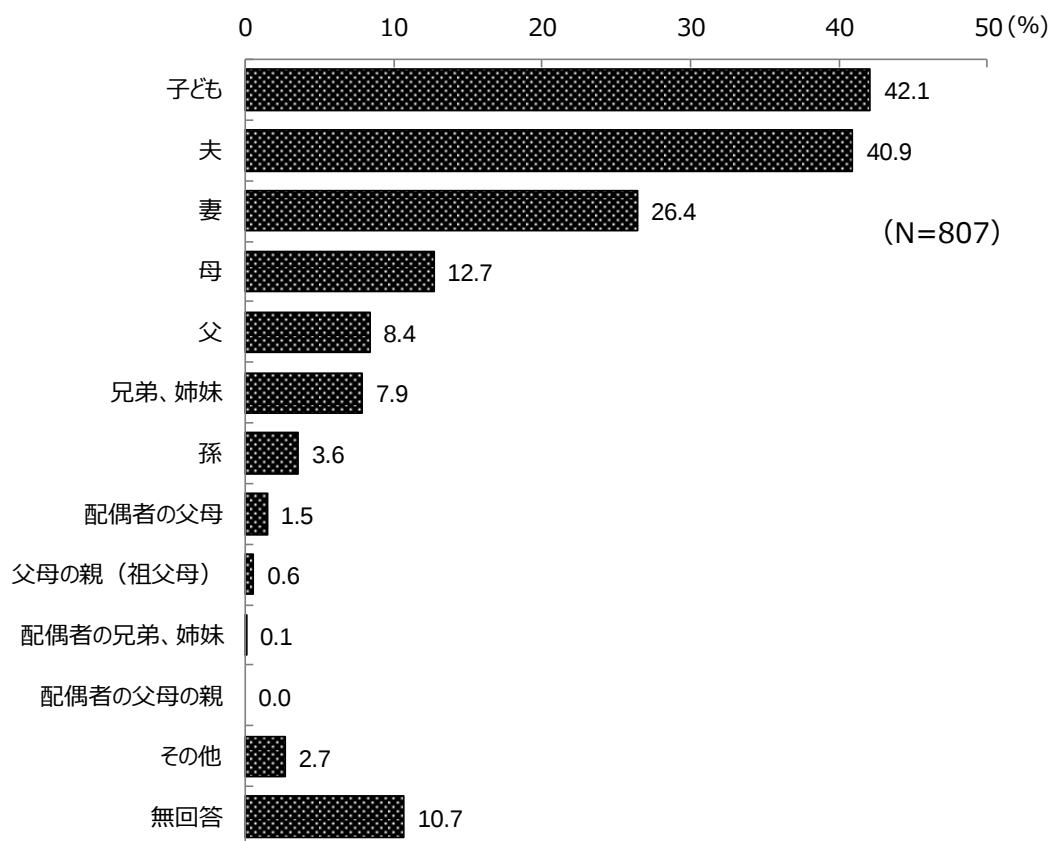
問 35 住居形態



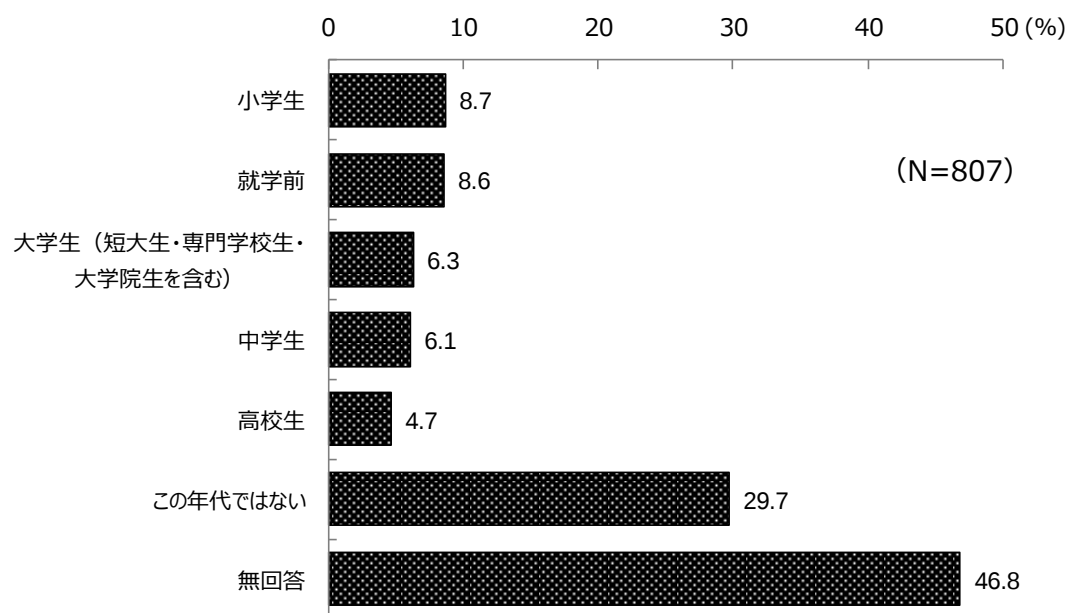
問 36 世帯人数



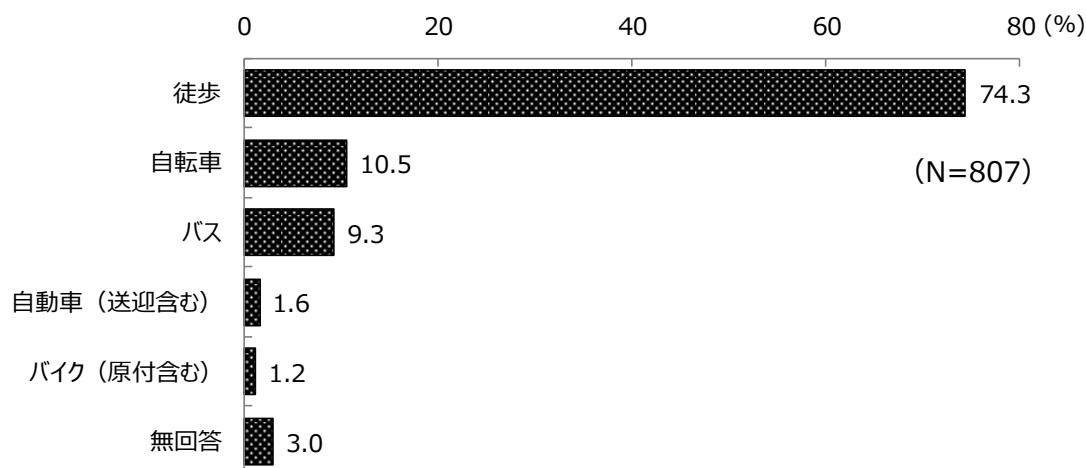
同居家族



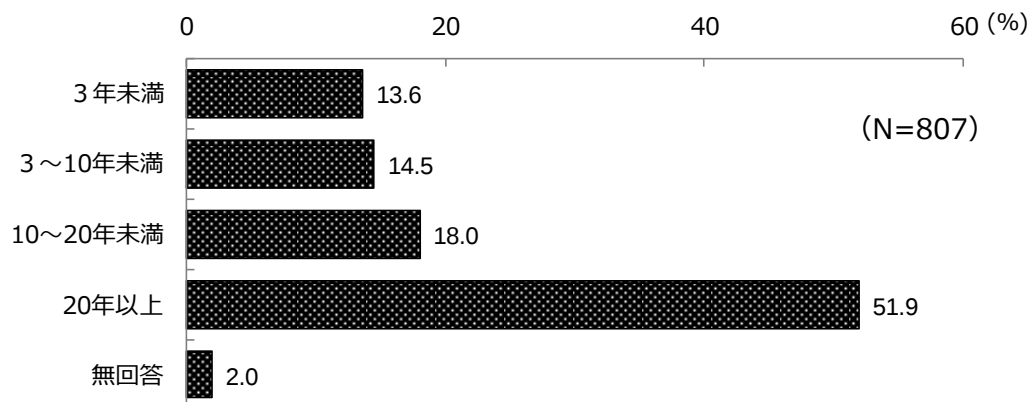
問 37 子どもの年代



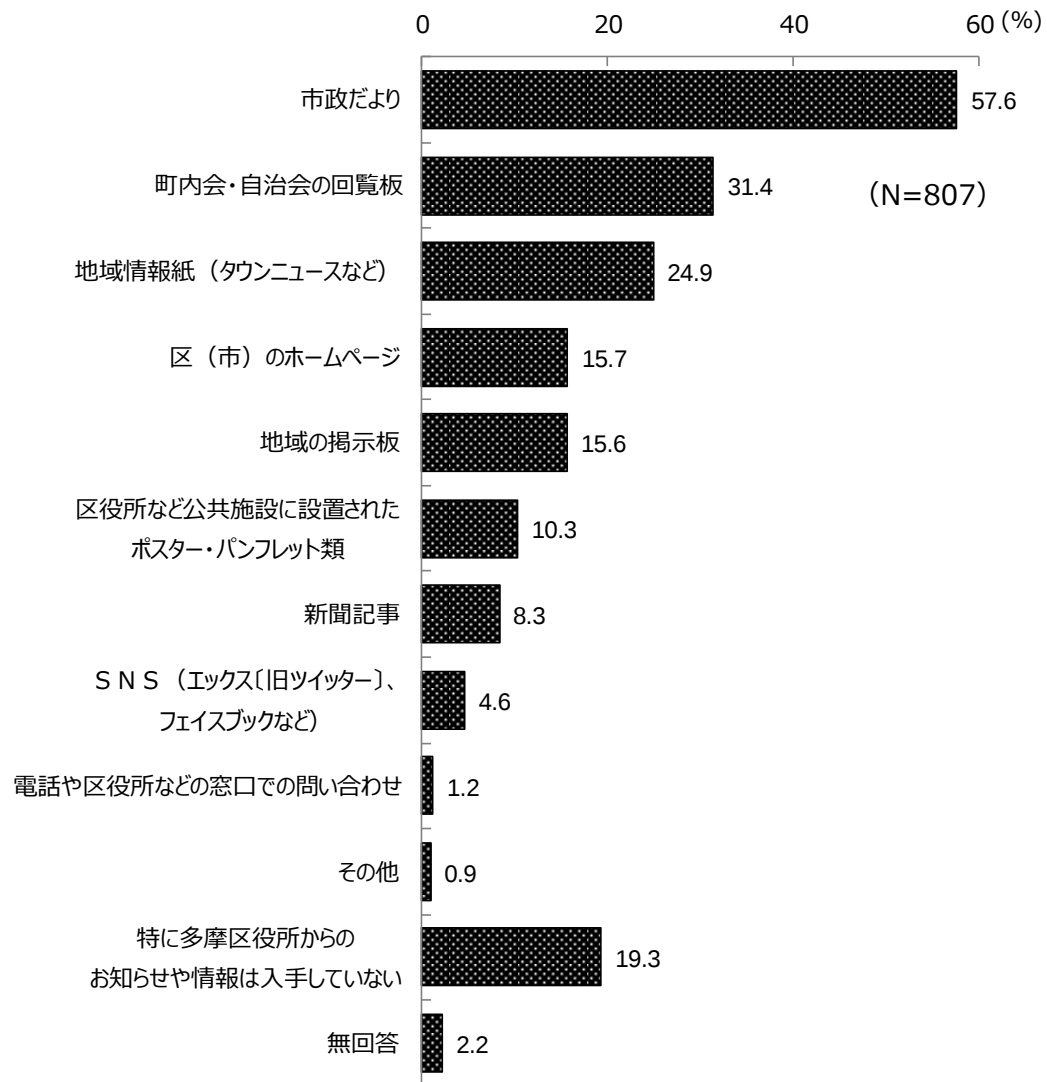
問 38 最寄り駅までの主な交通手段



問 39 居住年数



問 40 区の知らせや情報の入手手段



Ⅲ. 調査結果

※設問によっては回答者の居住地区別の集計を行っているが、各地区の範囲は次のとおりである。

登戸地区-----登戸・登戸新町

菅地区-----菅稲田堤1～3丁目・菅北浦1～5丁目・菅城下・菅仙谷1～4丁目・菅野戸呂・
菅馬場1～4丁目・菅1～6丁目

中野島地区----中野島・中野島1～6丁目・布田

稲田地区-----宿河原1～7丁目・堰1～3丁目・長尾1～7丁目

生田地区-----生田1～3丁目・生田4～8丁目・東生田1～4丁目・東三田1、3丁目・
東三田2丁目・枳形1～7丁目・栗谷1～4丁目・寺尾台1～2丁目・
長沢1～4丁目・西生田1～5丁目・三田1～5丁目・南生田1～8丁目

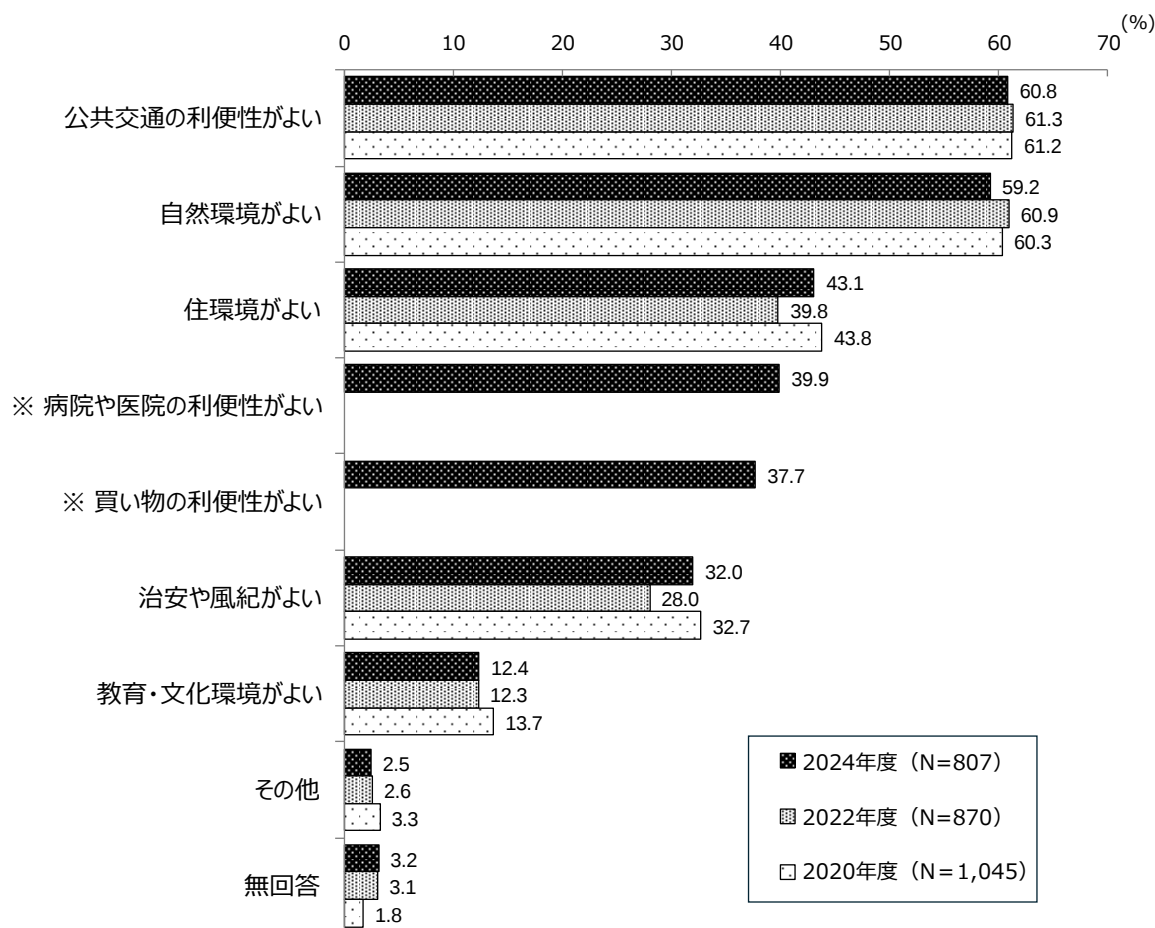
Ⅲ. 調査結果

1 生活環境の満足度について

(1) 多摩区の長所・魅力

問1 多摩区の長所・魅力と思っているものは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

図表 1－1 多摩区の長所・魅力

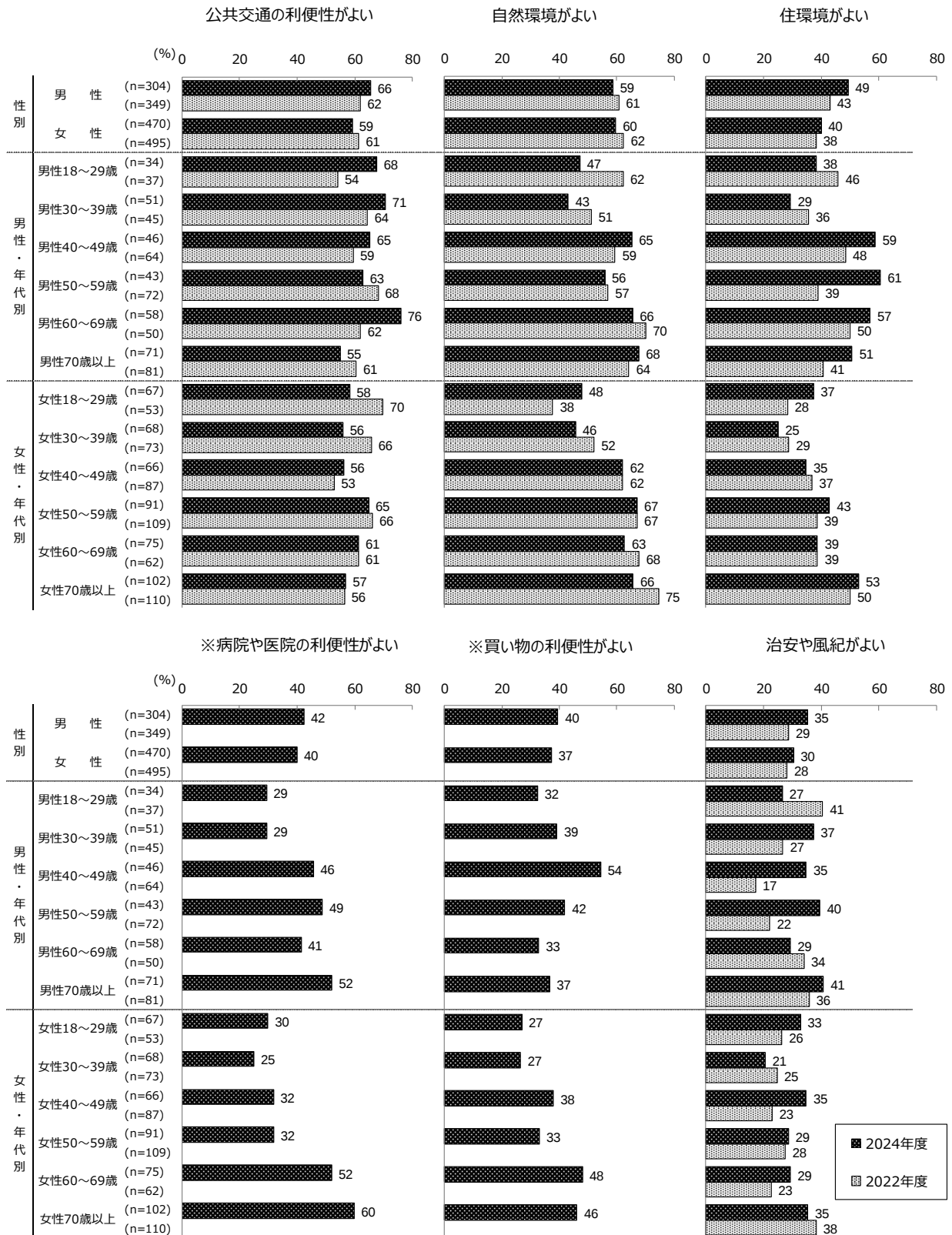


※ 2024年度からの新規項目。2022年度では「買い物や銀行、病院などの日常生活の利便性がよい」として聴取

「多摩区の長所・魅力」について聞いたところ、「公共交通の利便性がよい」（60.8%）が最も高い結果となり、次いで「自然環境がよい」（59.2%）、「住環境がよい」（43.1%）となっている。

2022年度も「公共交通の利便性がよい」、「自然環境がよい」、が上位2項目となっており、ほぼ同じ傾向となった。

図表 1－2 多摩区の長所・魅力(性別・性年代別)



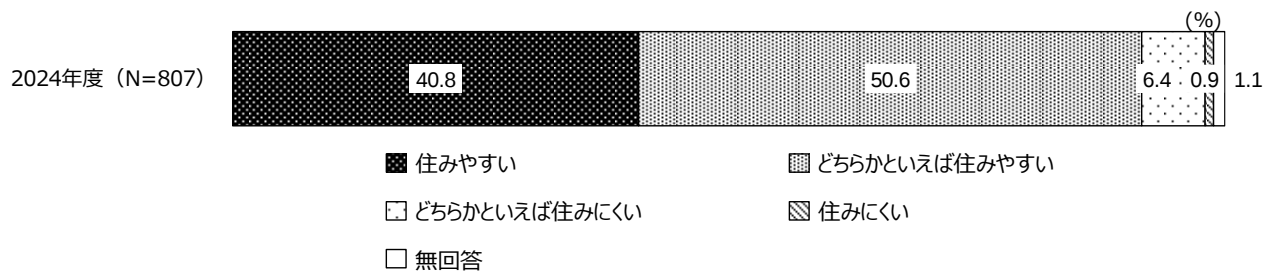
性年代別で見ると、「公共交通の利便性がよい」は男性 60～69 歳(76%)、「自然環境がよい」は男性 70 歳以上(68%)が最も高くなっている。

2022 年度と比較すると、「住環境がよい」は男性 50～59 歳(61%)が 22 ポイント上昇する結果となった。

(2) 住みやすさ

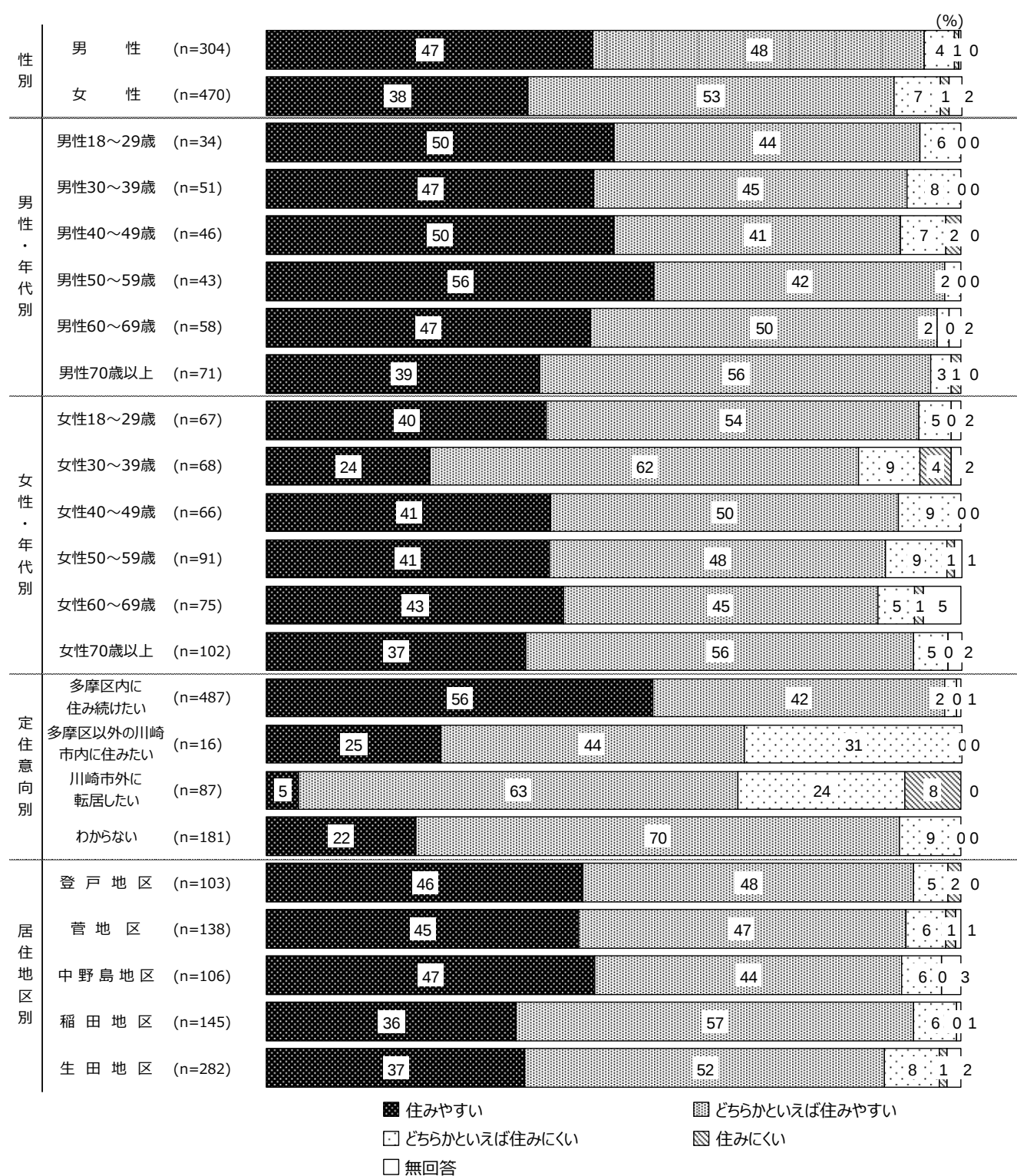
問2 あなたにとって多摩区はどの程度住みやすいですか。(○は1つだけ)

図表2-1 住みやすさ



「住みやすさ」について聞いたところ、「どちらかといえば住みやすい」(50.6%)、「住みやすい」(40.8%)の順となり、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた『住みやすい計』は91.4%となっている。

図表 2-2 住みやすさ(性別・性年代別・定住意向別・居住地区別)

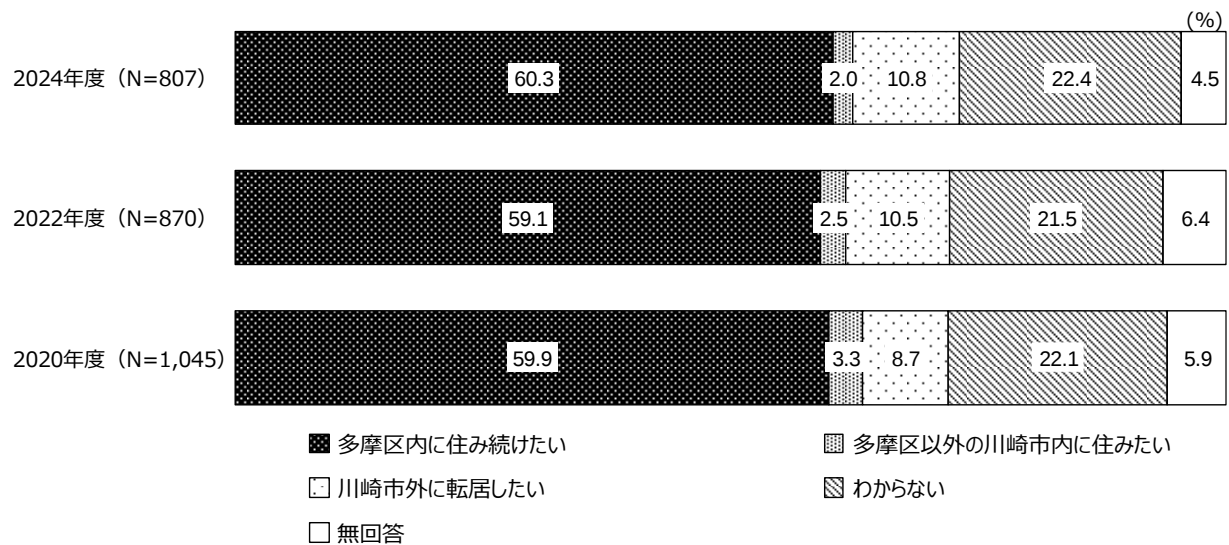


「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた『住みやすい計』では、性別、性年代別、地区別でいずれも85%を超える高い結果となった。

(3) 定住意向

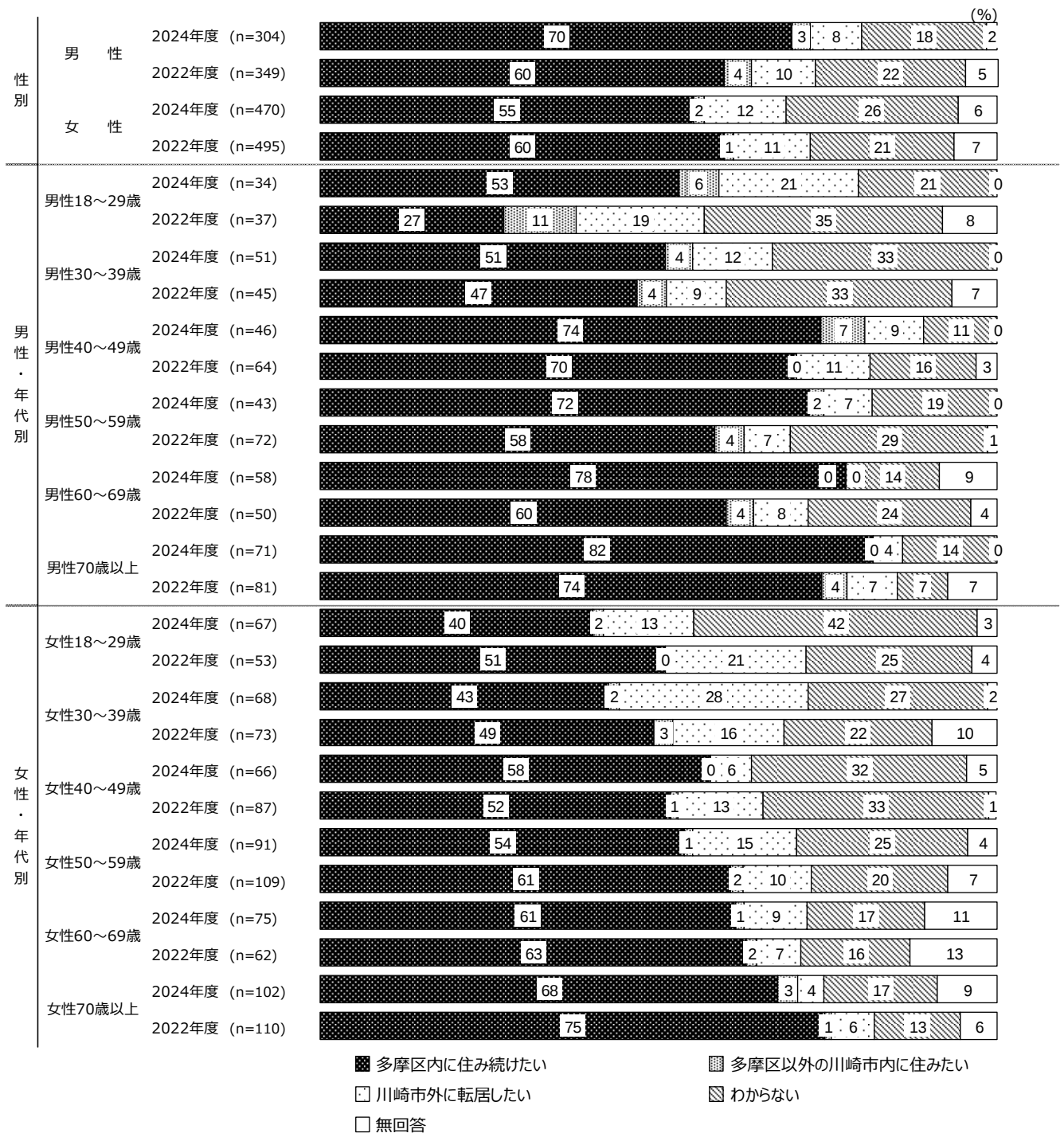
問3 多摩区に住み続けたいと思いますか。(○は1つだけ)

図表3-1 定住意向



「定住意向」について聞いたところ、「多摩区内に住み続けたい」(60.3%)が最も高く、2022年度から微増となった。

図表 3 - 2 定住意向（性別・性年代別）



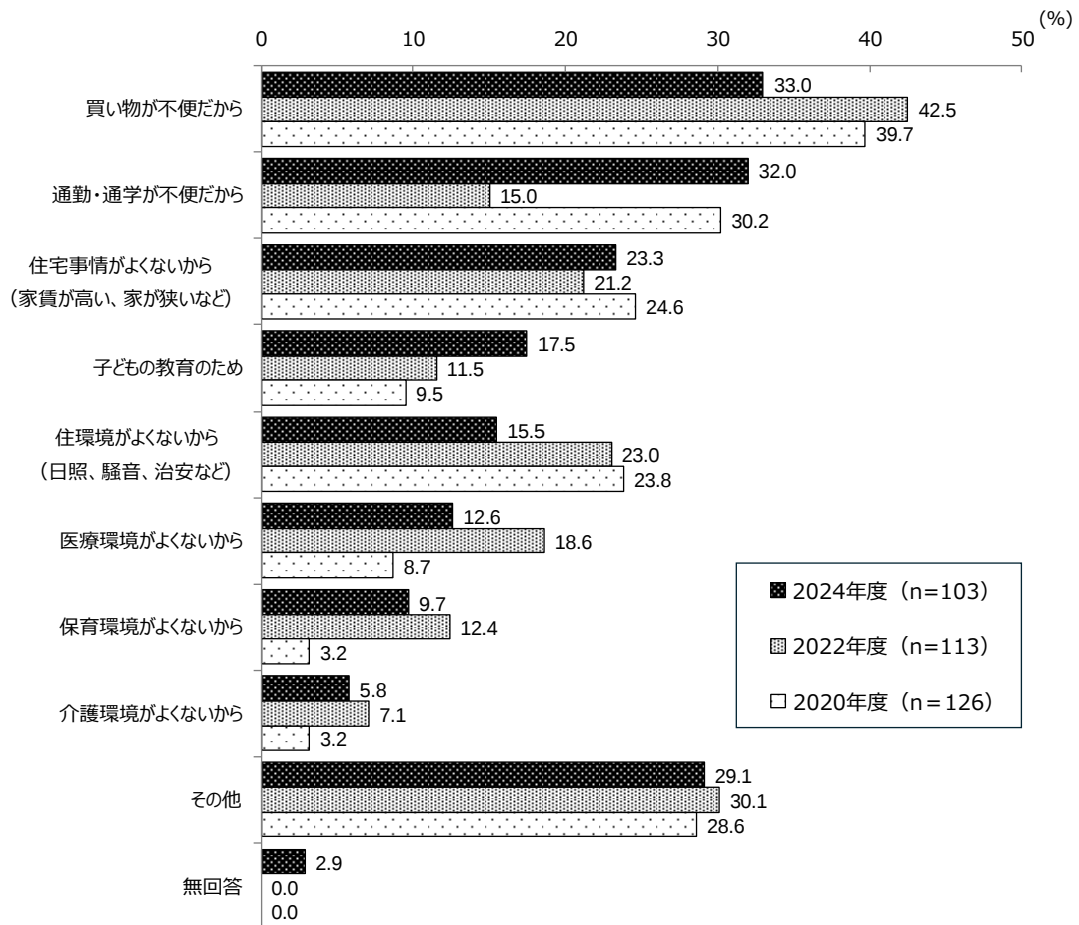
性年代別で見ると、「多摩区内に住み続けたい」割合は男性 70 歳以上 (82%) が最も高い結果となった。また、女性は年代が上がるにつれて「多摩区内に住み続けたい」の割合は増加傾向となっている。

2022 年度と比較すると、男性 18～29 歳では「多摩区内に住み続けたい」が 26 ポイント上昇する結果となった。

(4) 区外転居意向の理由

問3-2 その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

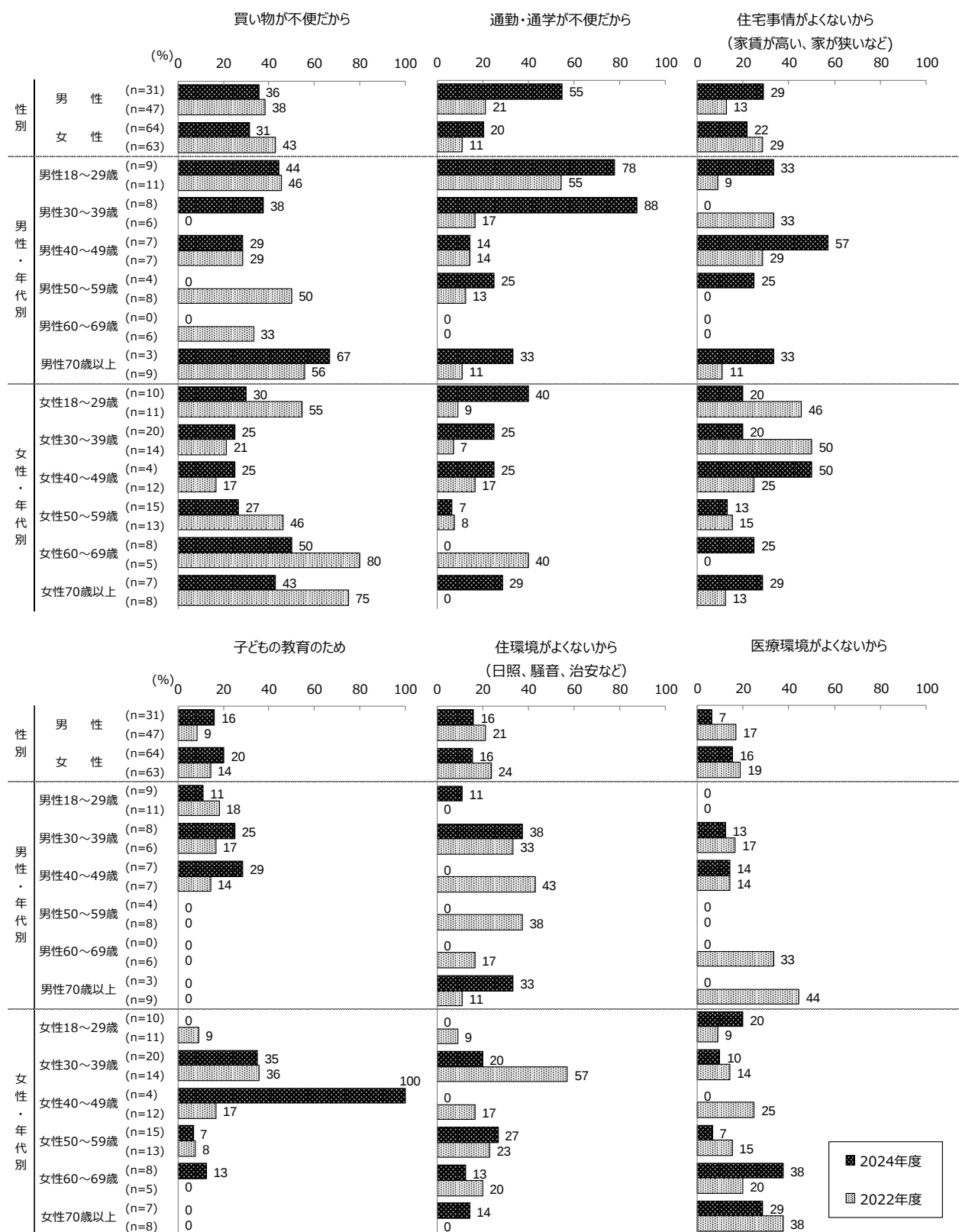
図表 4-1 区外転居意向の理由



「定住意向」で、「多摩区以外の川崎市内に住みたい」「川崎市外に転居したい」と回答した人に、「区外転居意向の理由」について聞いたところ、「買い物が不便だから」(33.0%)が最も高く、次いで「通勤・通学が不便だから」(32.0%)となり、上位2項目が30%を超える結果となった。

2022年度と比較すると、「買い物が不便だから」は、9.5ポイント、「住環境がよくないから(日照、騒音、治安など)」は7.5ポイント減少している。一方、「子どもの教育のため」が年々増加しており、2022年度より6ポイント上昇する結果となった。

図表 4－2 区外転居意向の理由(性別)



性別で見ると、「通勤・通学が不便だから」は女性より男性が35ポイント高く、「医療環境がよくないから」は男性より女性が9ポイント高くなっている。

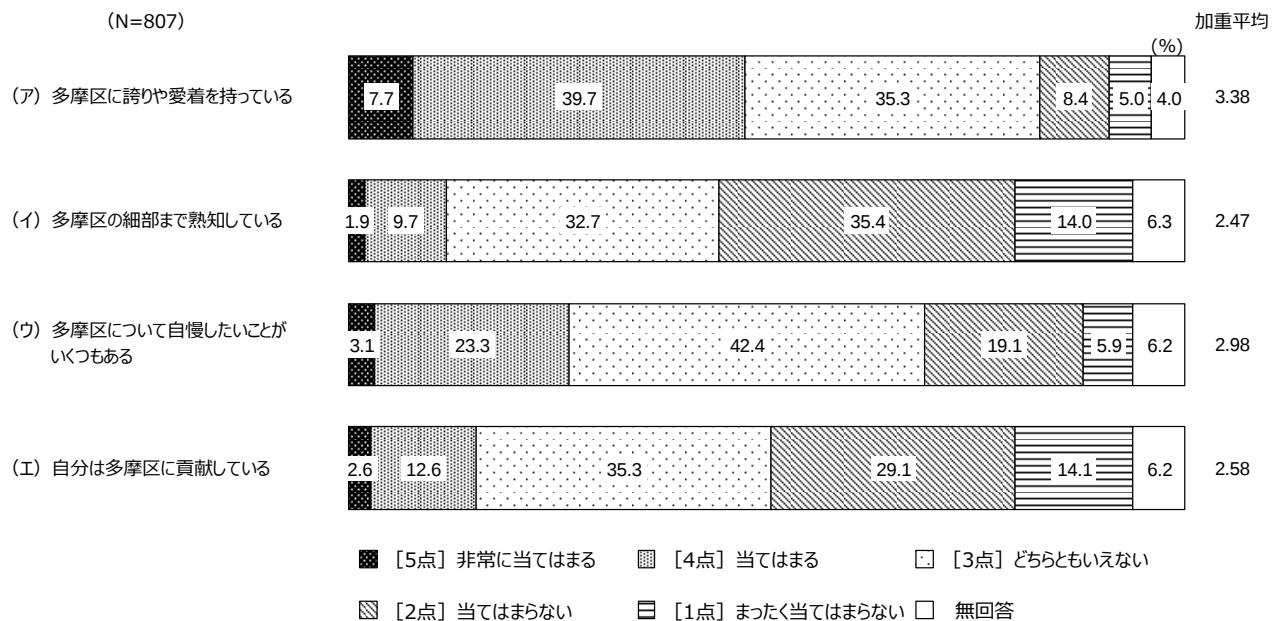
2022年度と比較すると、男性は「住宅事情がよくないから（家賃が高い、家が狭いなど）」は16ポイント上昇、女性は「买东西が不便だから」が12ポイント減少する結果となった。

(5) 多摩区に対する愛情や誇り

問4 あなたにとって多摩区は、以下の項目に関してどの程度あてはまりますか。

(○は各項目で1つだけ)

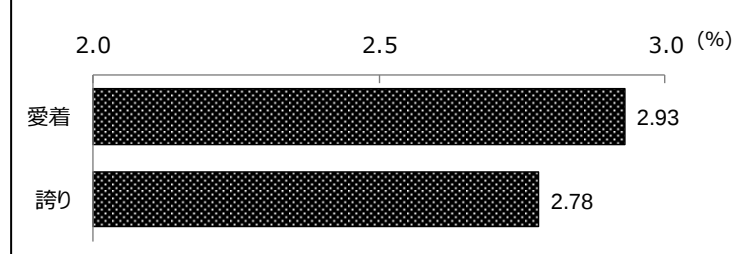
図表5-1 多摩区に対する愛情や誇り



「多摩区に対する愛情や誇り」について聞いたところ、「非常に当てはまる」と「当てはまる」を合わせた『当てはまる計』では、他の項目に比べ、「(ア)多摩区に誇りや愛着を持っている」(47.4%)が最も高くなっている。

一方、「まったく当てはまらない」と「当てはまらない」を合わせた『当てはまらない計』では「(イ)多摩区の細部まで熟知している」(49.4%)が最も高くなっている。

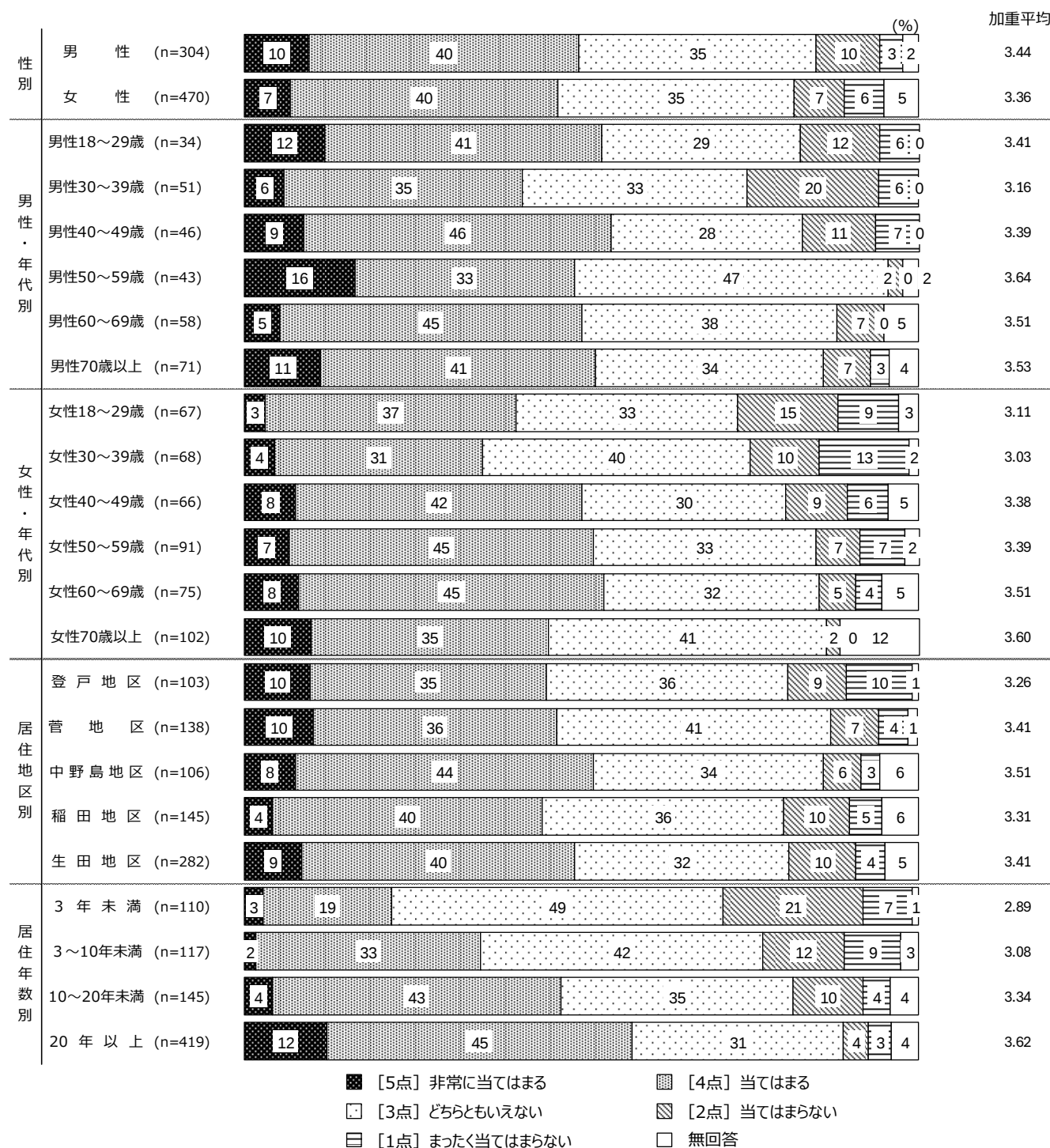
図表5-2 シビックプライド指標



シビックプライド指標とは、自分の住んでいるまちに対する愛着や誇りを表す概念のこと。多摩区では、質問(ア)、(イ)を「愛着」、質問(ウ)、(エ)を「誇り」の指標として、それぞれの質問項目の平均値から算出した。

図表 5-3 多摩区に対する愛情や誇り(性別・性年代別・居住地区別・居住年数別)

問4. (ア) 多摩区に誇りや愛着を持っている

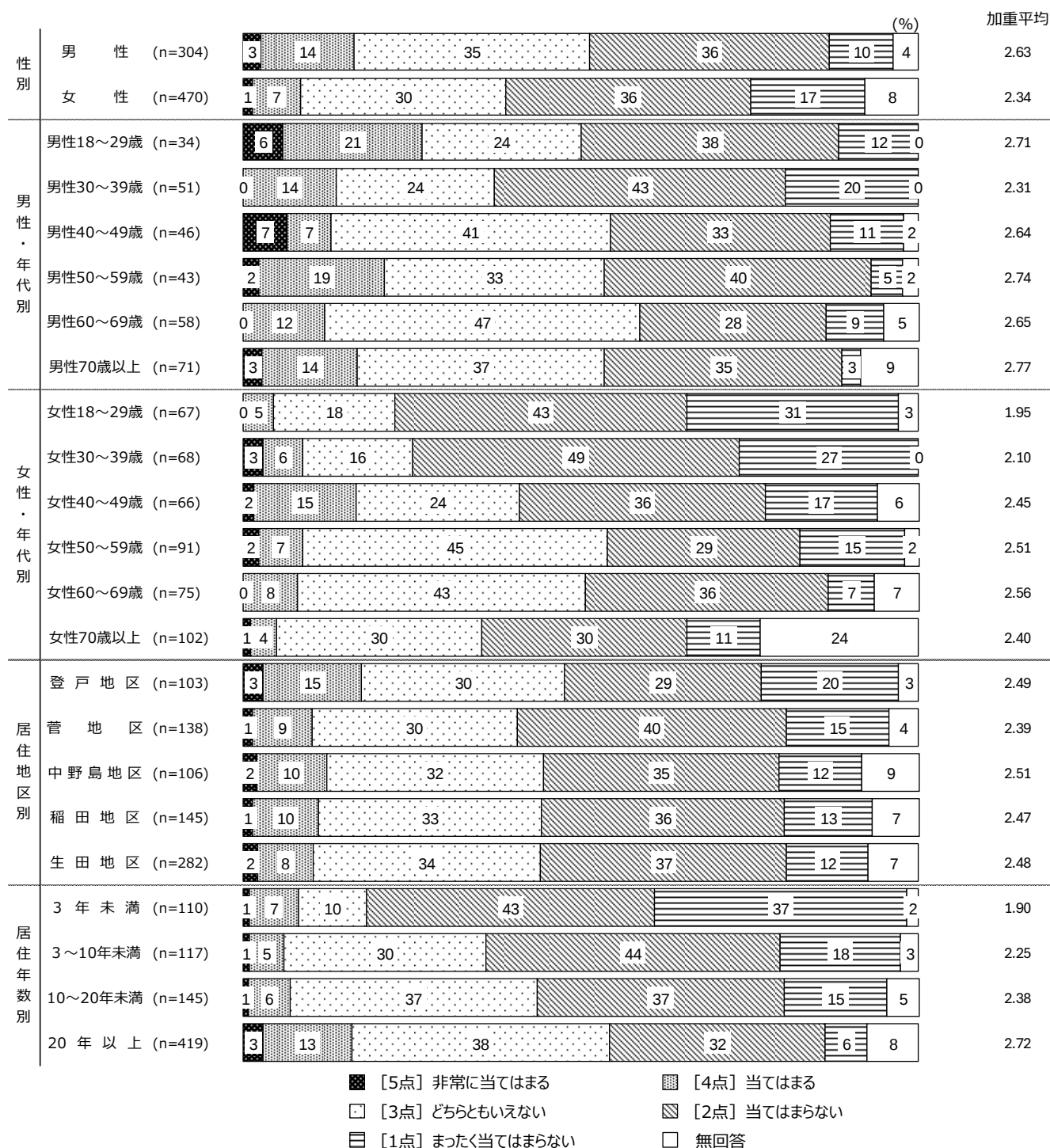


「多摩区に誇りや愛着を持っている」を性年代別で見ると、「非常に当てはまる」と「当てはまる」を合わせた『当てはまる計』の割合は、男性 40～49 歳が 55% となっている。加重平均では男性 50～59 歳が 3.64 点と最も高い結果となった。

また、居住年数が長くなるほど『当てはまる計』の割合は高くなる傾向となった。

図表 5-4 多摩区に対する愛情や誇り(性別・性年代別・居住地区別・居住年数別)

問4. (イ) 多摩区の細部まで熟知している

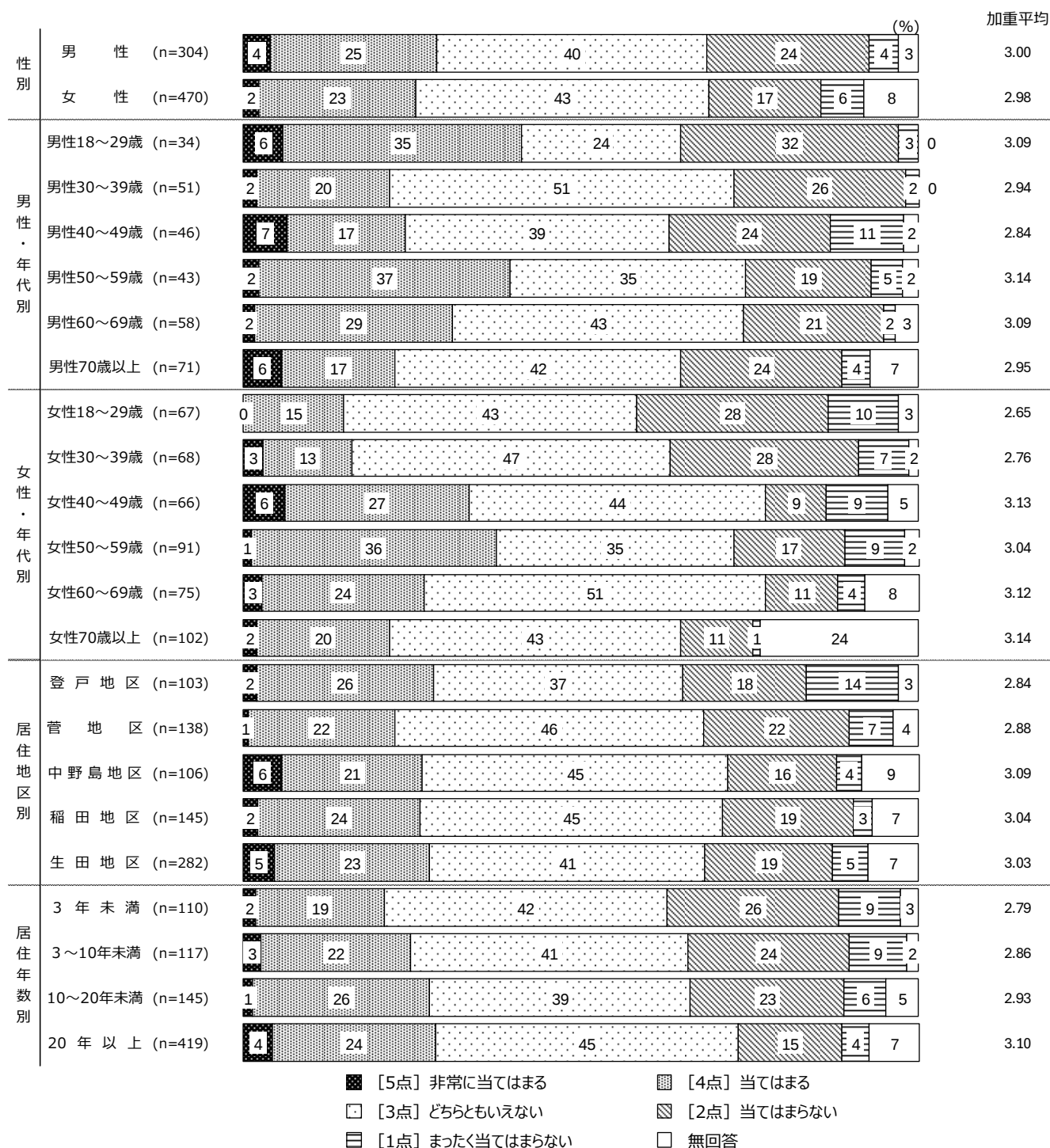


「多摩区の細部まで熟知している」を性年代別で見ると、男性 70 歳以上の加重平均で 2.77 点と最も高い。一方、女性 18~29 歳の加重平均は 1.95 と他の性年代に比べて低い結果となった。

また、居住年数が長くなるほど加重平均が高くなる傾向となった。

図表 5-5 多摩区に対する愛情や誇り(性別・性年代別・居住地区別・居住年数別)

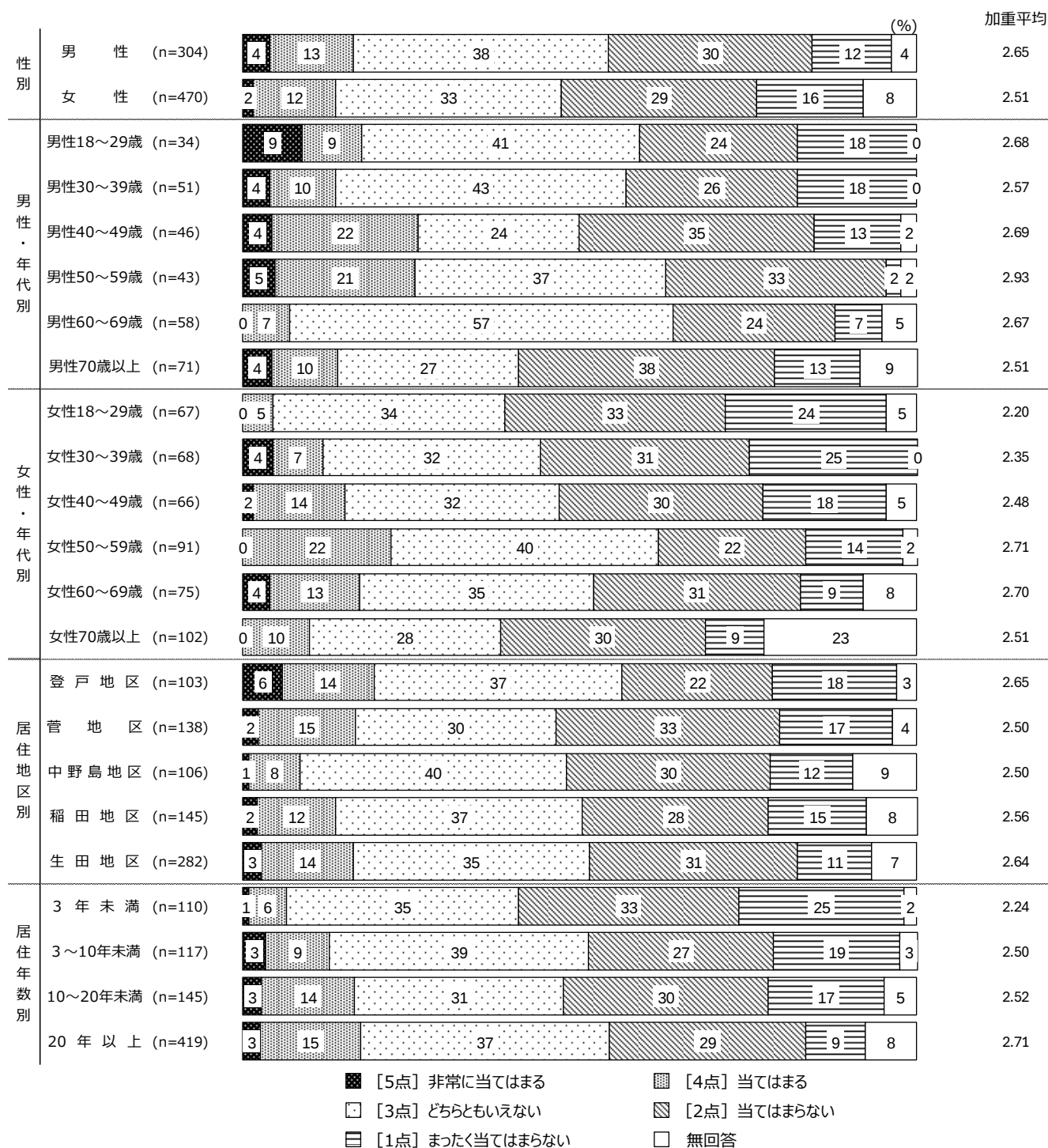
問4. (ウ) 多摩区について自慢したいことがいくつもある



「多摩区について自慢したいことがある」を性年代別で見ると、「非常に当てはまる」と「当てはまる」を合わせた『当てはまる計』の割合は、男性 18～29 歳が 41%と、他の性年代に比べて高い結果となった。また、居住年数が長くなるほど加重平均が高くなった。

図表 5-6 多摩区に対する愛情や誇り(性別・性年代別・居住地区別・居住年数別)

問4. (エ) 自分は多摩区に貢献している



「自分は多摩区に貢献している」を性年代別で見ると、「非常に当てはまる」と「当てはまる」を合わせた『当てはまる計』は男性 50～59 歳の加重平均が 2.93 と最も高い結果となった。

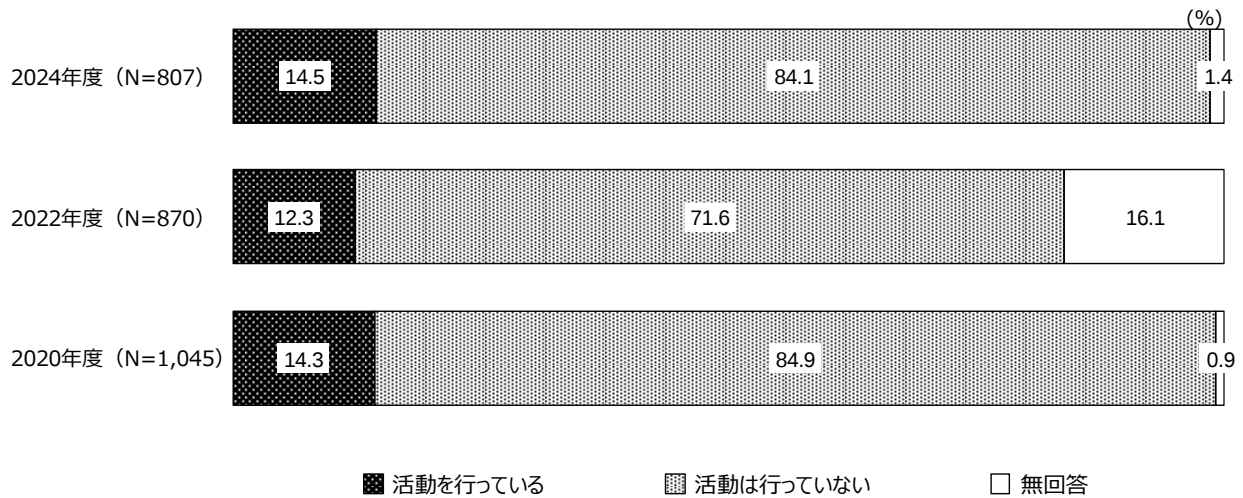
また、居住年数が長くなるほど加重平均が高くなった。

2 市政への参加、地域でのボランティア活動などについて

(6) 地域活動の状況

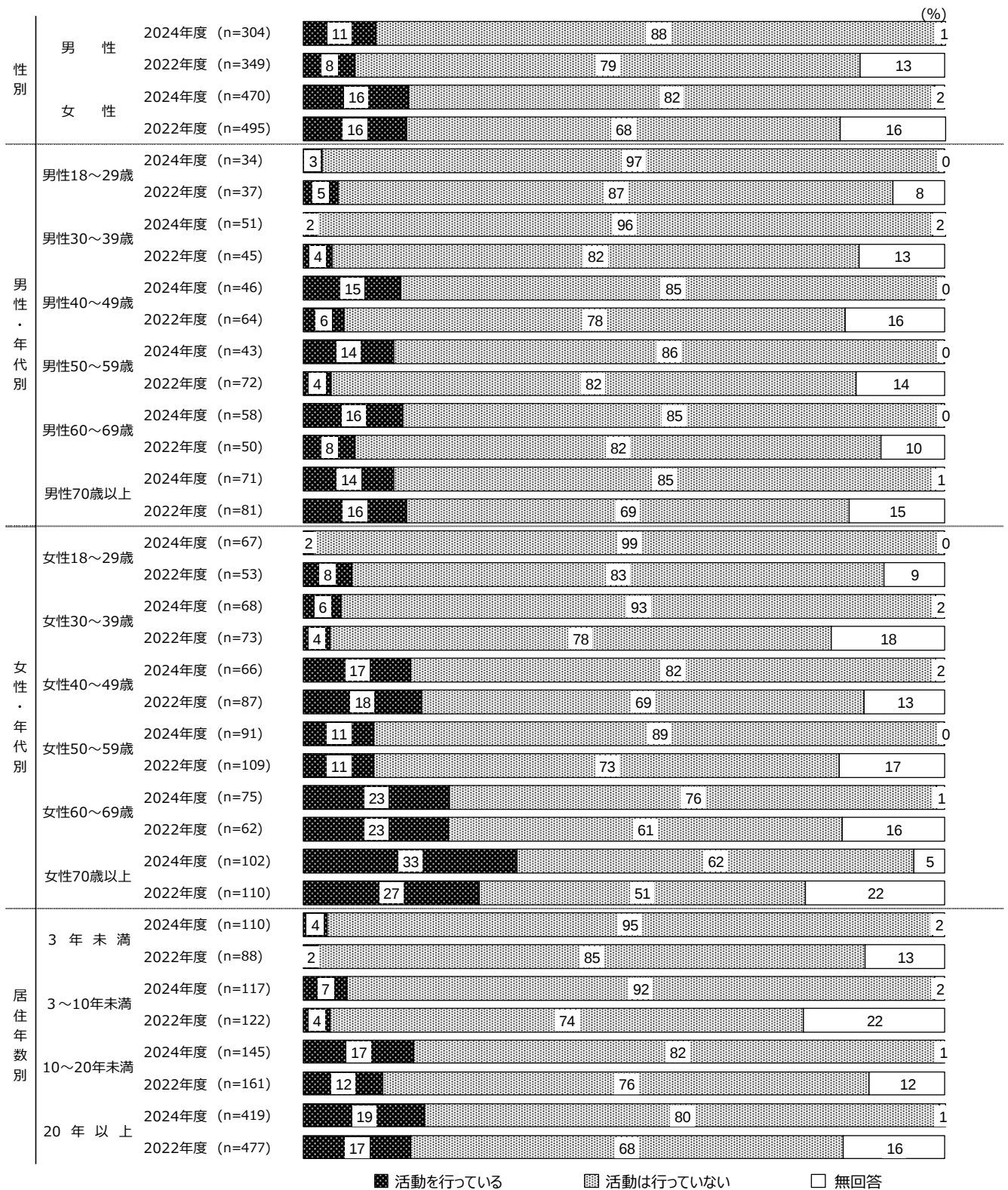
問5 地域のボランティア活動、サークル活動などを行っていますか。(○は1つだけ)

図表6-1 地域活動の状況



「地域活動の状況」について聞いたところ、「活動を行っている」は14.5%で、2022年度と比較すると2.2ポイント上昇している。

図表 6－2 地域活動の状況（性別・性年代別・居住年数別）

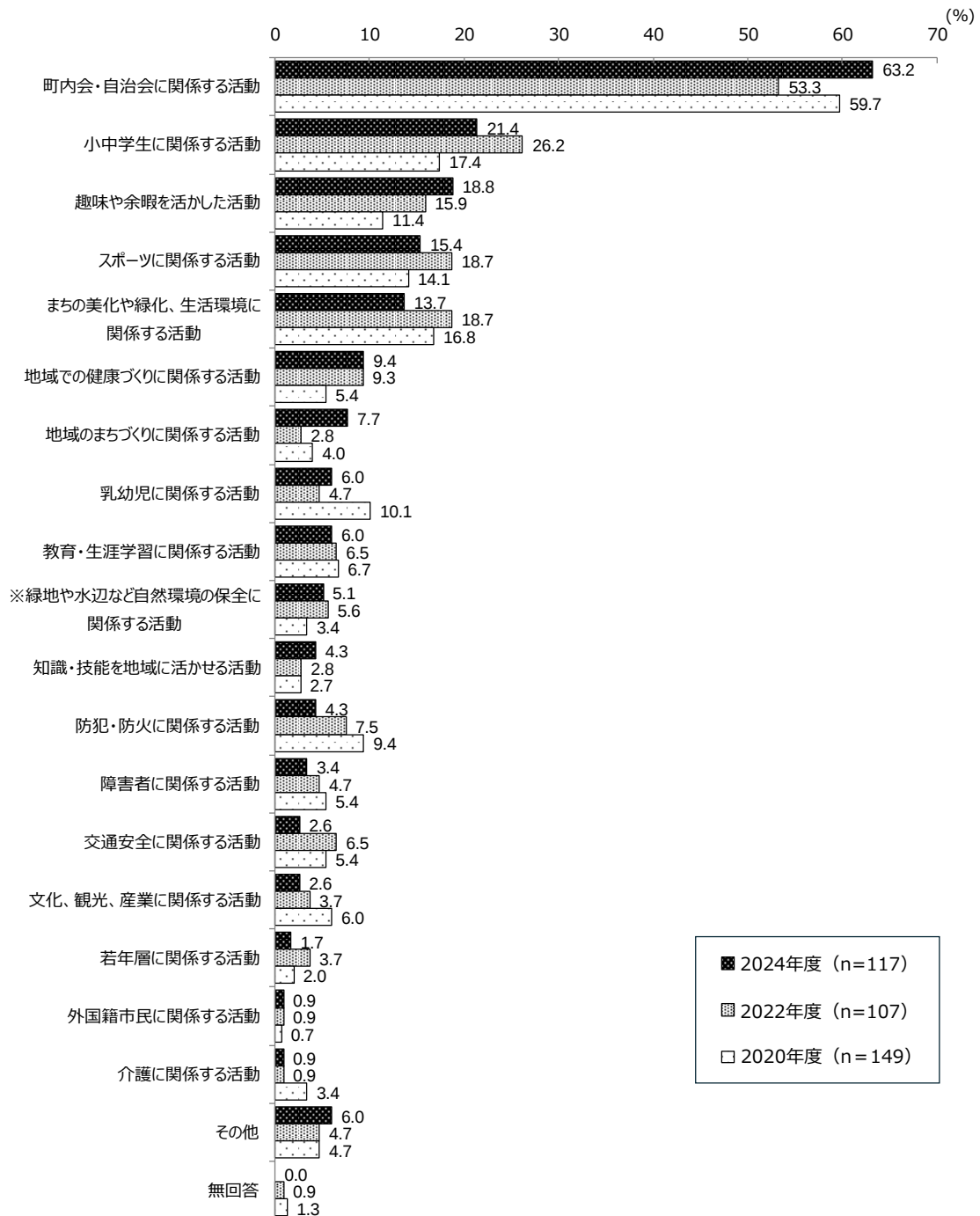


性年代別で見ると、「活動を行っている」人の割合は、男女とも40代以上でやや高くなり、女性70歳以上が33%と他の性年代に比べて高い結果となった。

(7) 行っている地域活動の分野

問5-2 地域で活動している団体（グループや個人の活動も含む）の活動分野をお選びください。
（あてはまるものすべてに○）

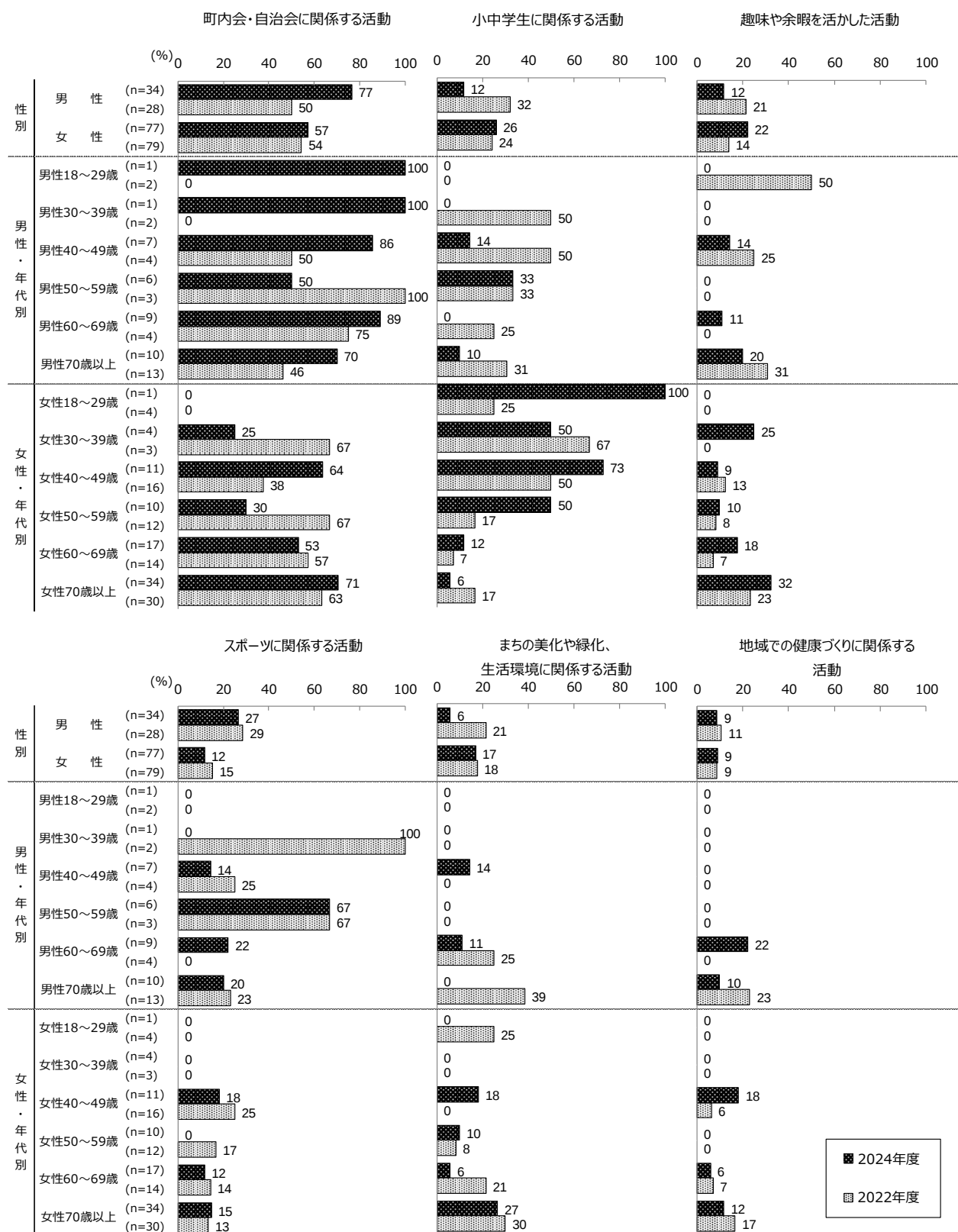
図表 7-1 行っている地域活動の分野



※「緑地や水辺など自然環境の保全に関する活動」は2020年度では「環境保全に関する活動」として聴取

「(6) 地域活動の状況」で「活動を行っている」と回答した人に、「行っている地域活動の分野」について聞いたところ、「町内会・自治会に関する活動」(63.2%)が最も高く、次いで「小中学生に関する活動」(21.4%)、「趣味や余暇を活かした活動」(18.8%)、「スポーツに関する活動」(15.4%)の順となった。

図表 7-2 行っている地域活動の分野(性別) <上位 6 項目>



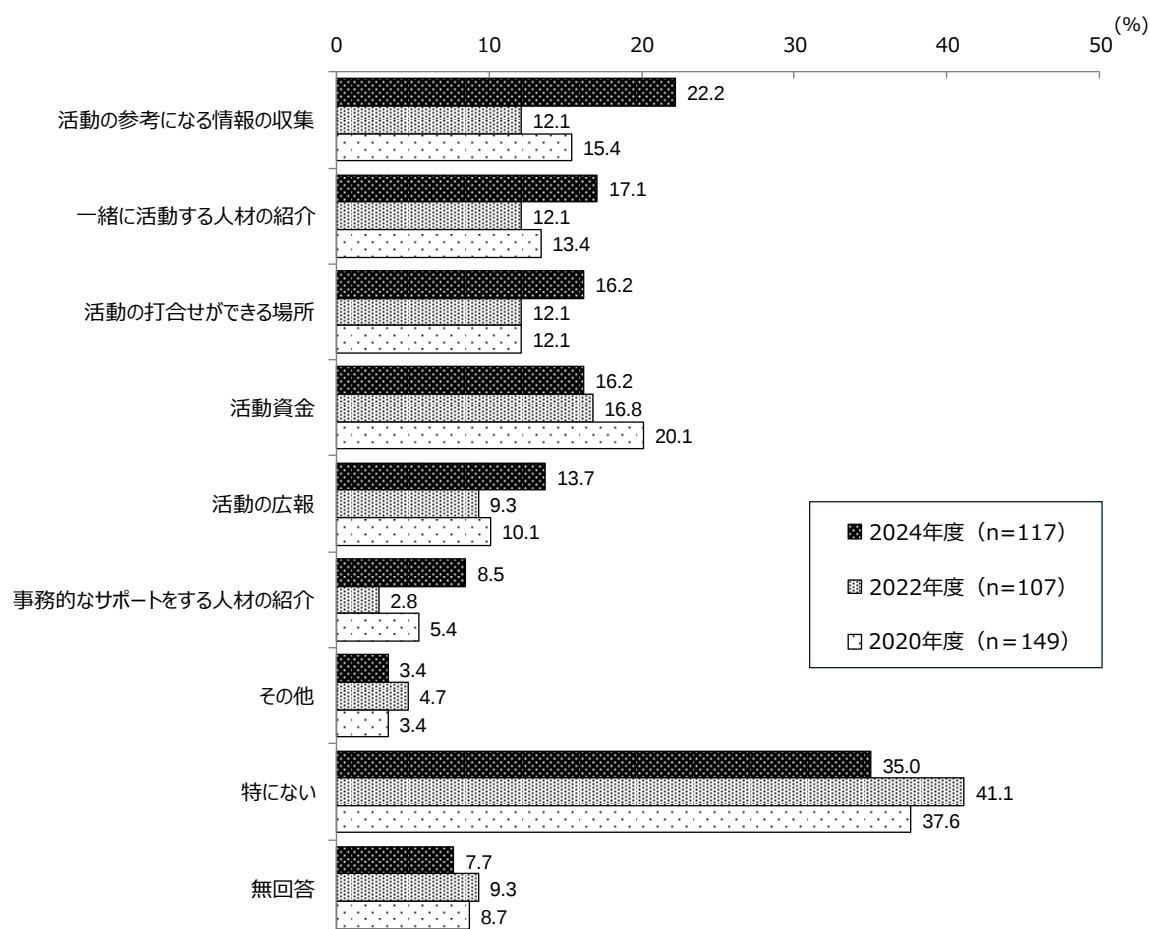
性別で見ると、「町内会・自治会に関する活動」は男性が女性より 20 ポイント高い結果となり、「小中学生に関する活動」は女性が男性より 14 ポイント高い結果となった。

2022 年度と比較すると、男性において「町内会・自治会に関する活動」が 27 ポイント上昇し、「小中学生に関する活動」が 20 ポイント減少する結果となった。

(8) 地域活動をする上で支援を受けたいと思うもの

問5-3 地域で活動する上で支援を受けたいと思うものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

図表 8-1 地域活動をする上で支援を受けたいと思うもの

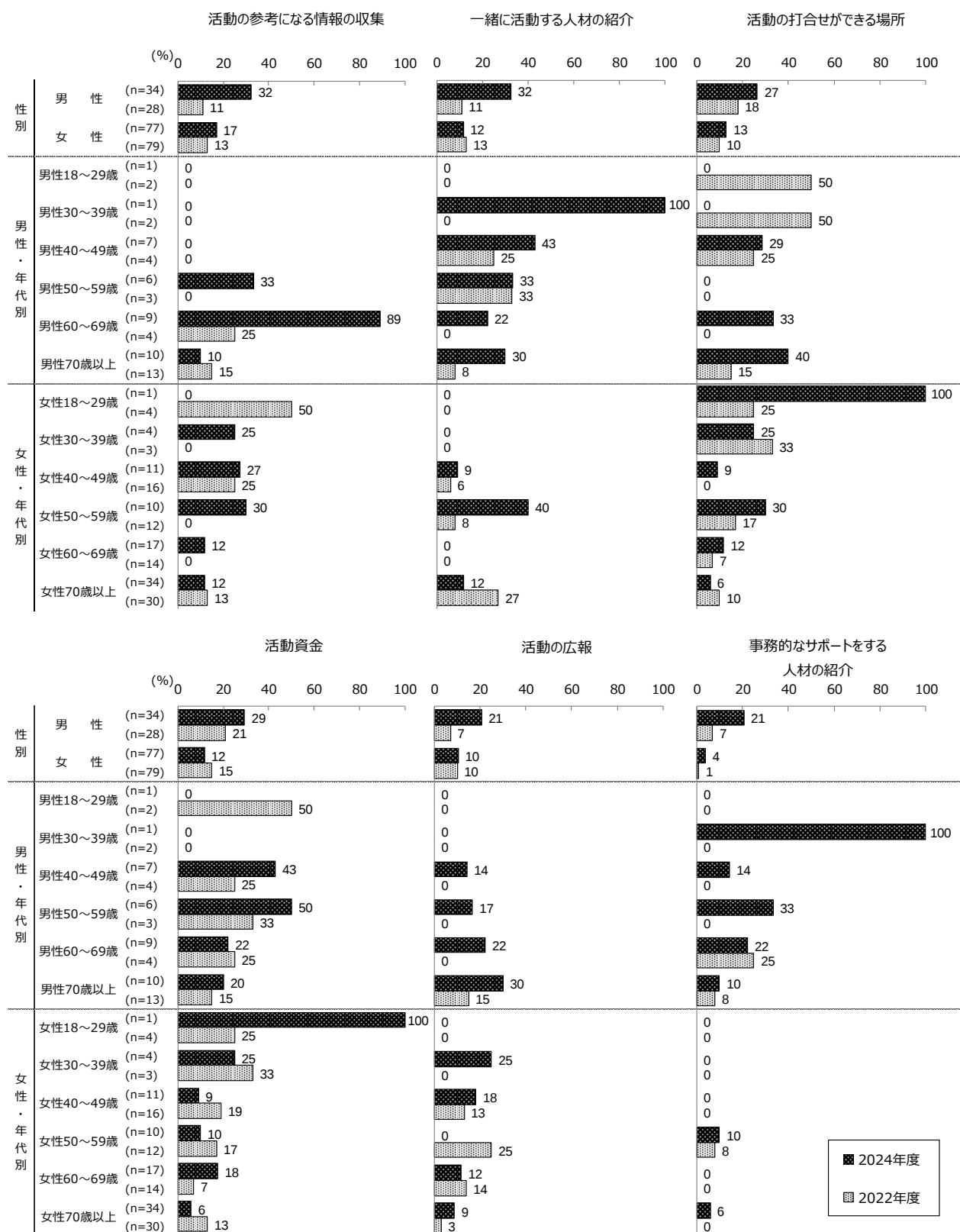


「(6) 地域活動の状況」で「活動を行っている」と回答した人に、「地域活動をする上で支援を受けたいと思うもの」について聞いたところ、「活動の参考になる情報の収集」(22.2%)が最も高く、次いで「一緒に活動する人材の紹介」(17.1%)、「活動の打合せができる場所」「活動資金」(ともに16.2%)、「活動の広報」(13.7%)の順となった。

また、「特にない」は(35.0%)と全体の3割以上となった。

2022年度と比較すると、「活動の参考になる情報の収集」が10.1ポイント上昇する結果となった。

図表 8－2 地域活動をする上で支援を受けたいと思うもの(性別・性年代別)



性別で見ると、いずれの項目も女性より男性の割合が高く、特に「一緒に活動する人材の紹介」は20ポイント男性が高い結果となった。

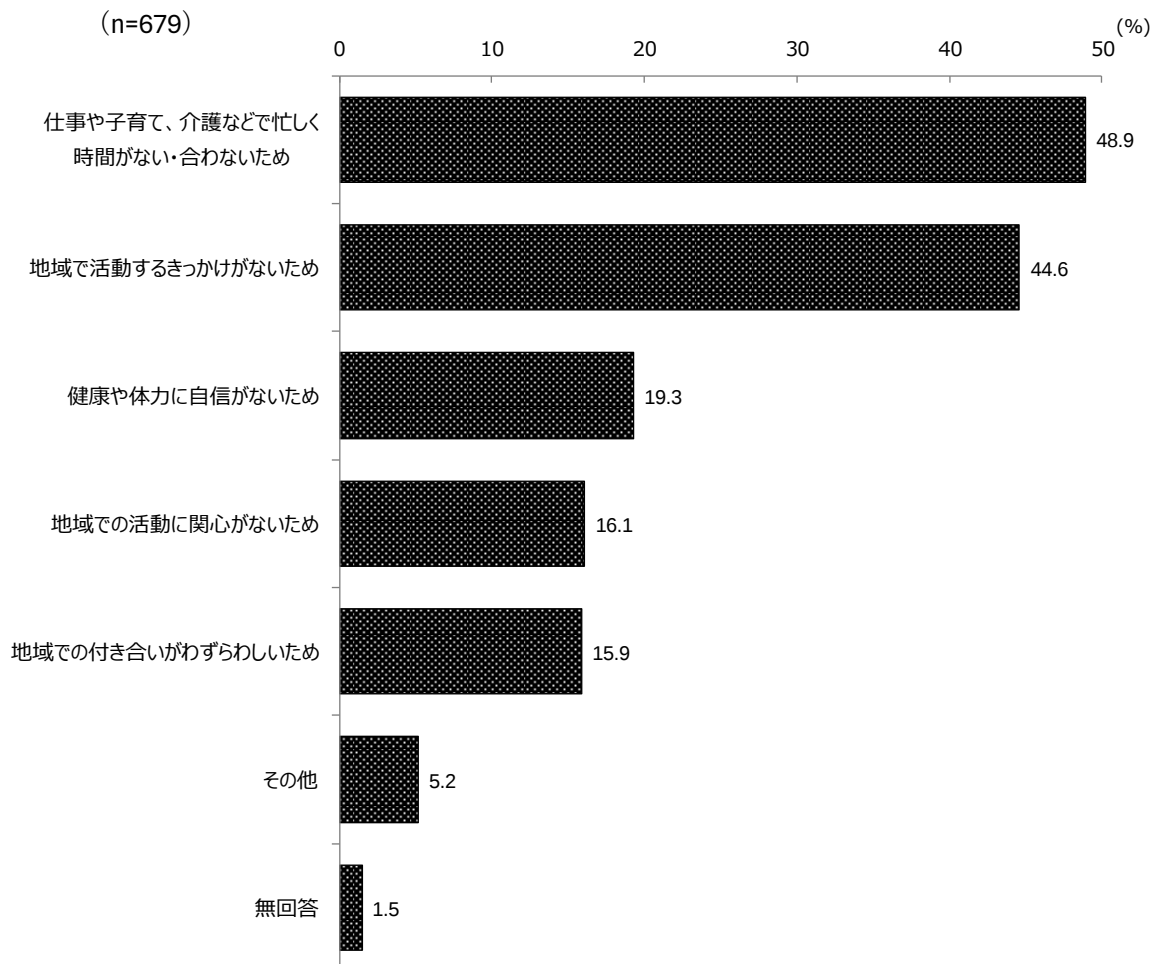
2022年度と比較すると、男性において「活動の参考になる情報の収集」「一緒に活動する人材の紹介」はともに21ポイント上昇する結果となった。

(9) 地域活動を行っていない理由

問5-4 地域でのボランティア活動などを行っていない理由をお選びください。

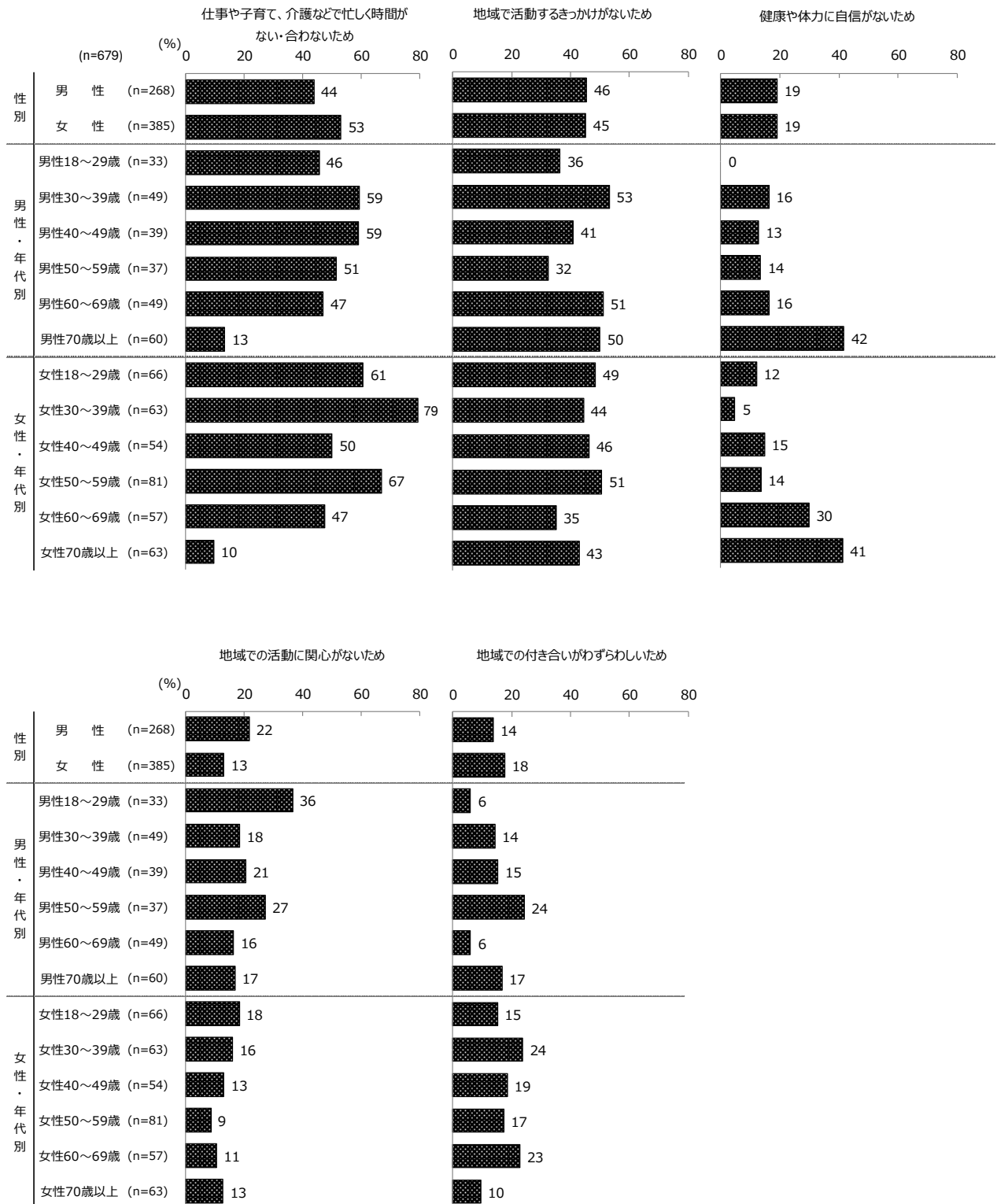
(あてはまるものすべてに○)

図表 9-1 地域活動を行っていない理由



「(6) 地域活動の状況」で「活動は行っていない」と回答した人に、「地域活動を行っていない理由」について聞いたところ、「仕事や子育て、介護などで忙しく時間がない・合わないため」(48.9%)が最も高く、次いで「地域で活動するきっかけがないため」(44.6%)、「健康や体力に自信がないため」(19.3%)、「地域での活動に関心がないため」(16.1%)の順となった。

図表 9－2 地域活動を行っていない理由(性別・性年代別)



性別で見ると、「仕事や子育て、介護などで忙しく時間がない・合わないため」は女性が男性より 9 ポイント高く、「地域での活動に関心がないため」は男性が女性より 9 ポイント高い結果となった。

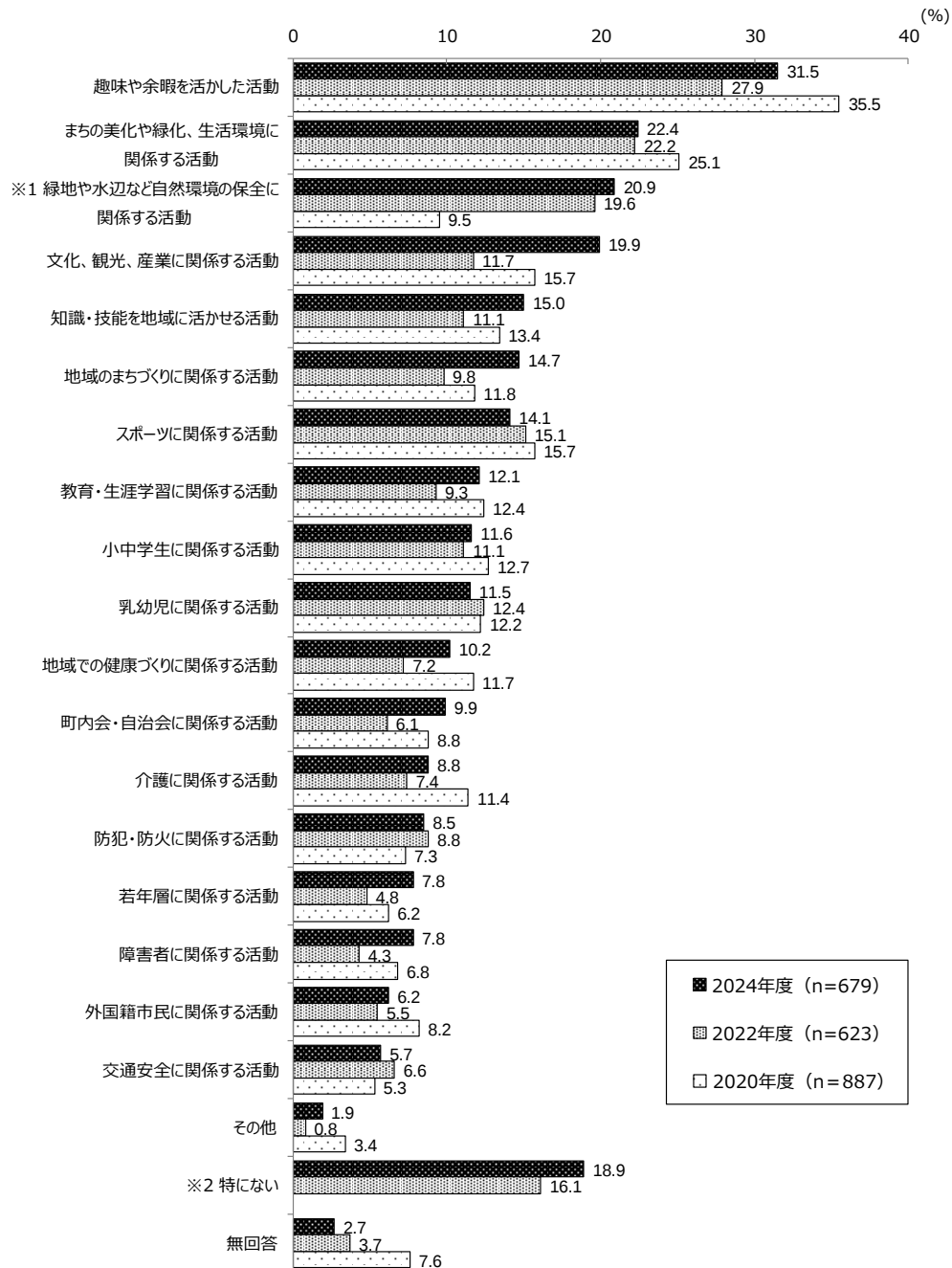
性年代別で見ると、「仕事や子育て、介護などで忙しく時間がない・合わないため」は女性 30～39 歳 (79%) が最も高い結果となった。「健康や体力に自信がないため」は男女ともに 70 歳以上が 40%以上と他の年代に比べて高い結果となった。

(10) 地域活動への関心分野

問5-5 地域でのボランティア活動などを行うとした場合、どのような分野に関心がありますか。

(あてはまるものすべてに○) *2020年度、2022年度は3つまでの回答として聴取

図表10-1 地域活動への関心分野

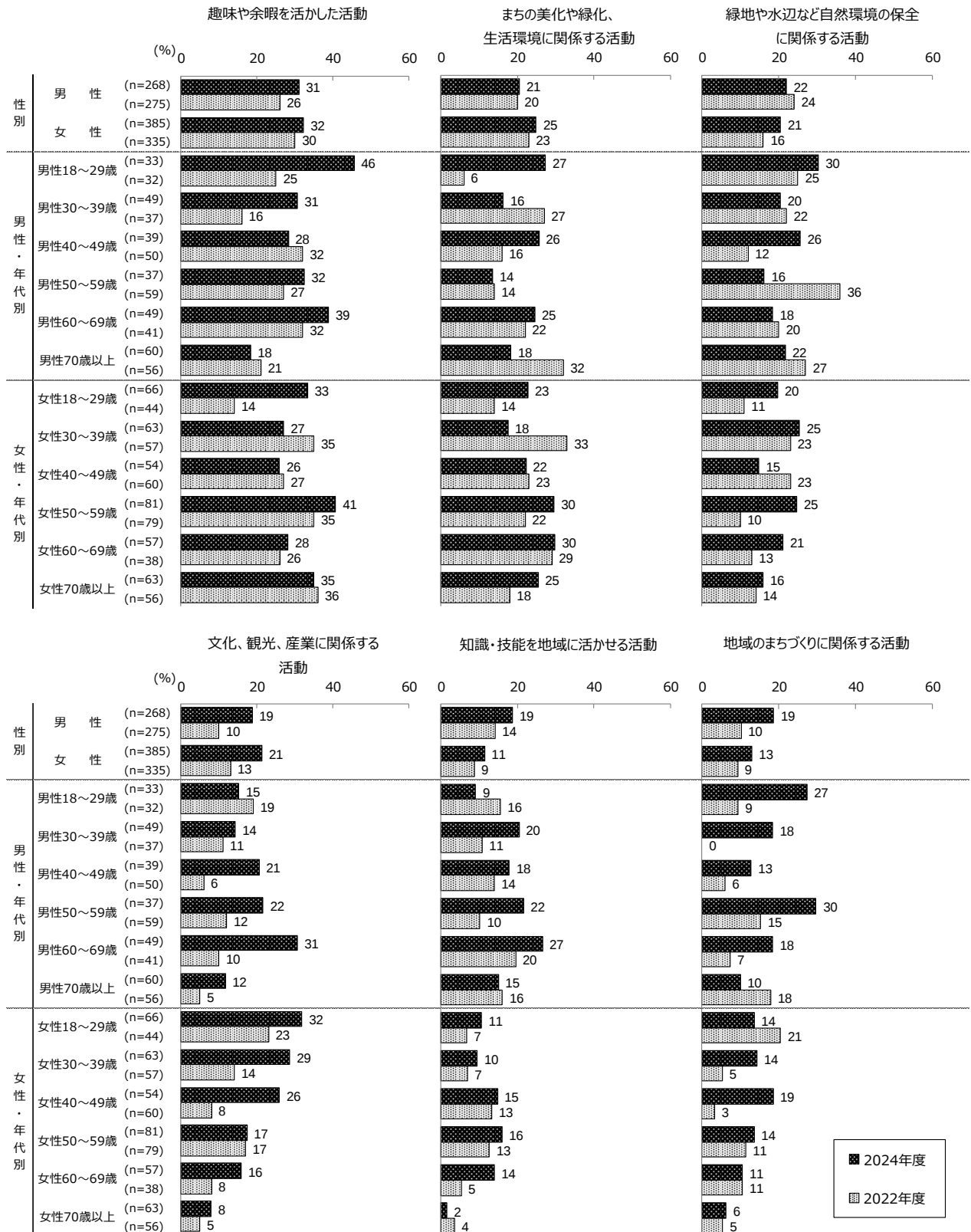


※1 「緑地や水辺など自然環境の保全に関する活動」は 2020 年度では「環境保全に関する活動」として聴取

※2 2022 年度からの新規項目

「(6) 地域活動の状況」で「活動は行っていない」と回答した人に、「地域活動への関心分野」について聞いたところ、「趣味や余暇を活かした活動」(31.5%)が最も高く、次いで「まちの美化や緑化、生活環境に関する活動」(22.4%)、「緑地や水辺など自然環境の保全に関する活動」(20.9%)、「文化、観光、産業に関する活動」(19.9%)の順となった。

図表 10-2 地域活動への関心分野(性別・性年代別) <上位6項目>



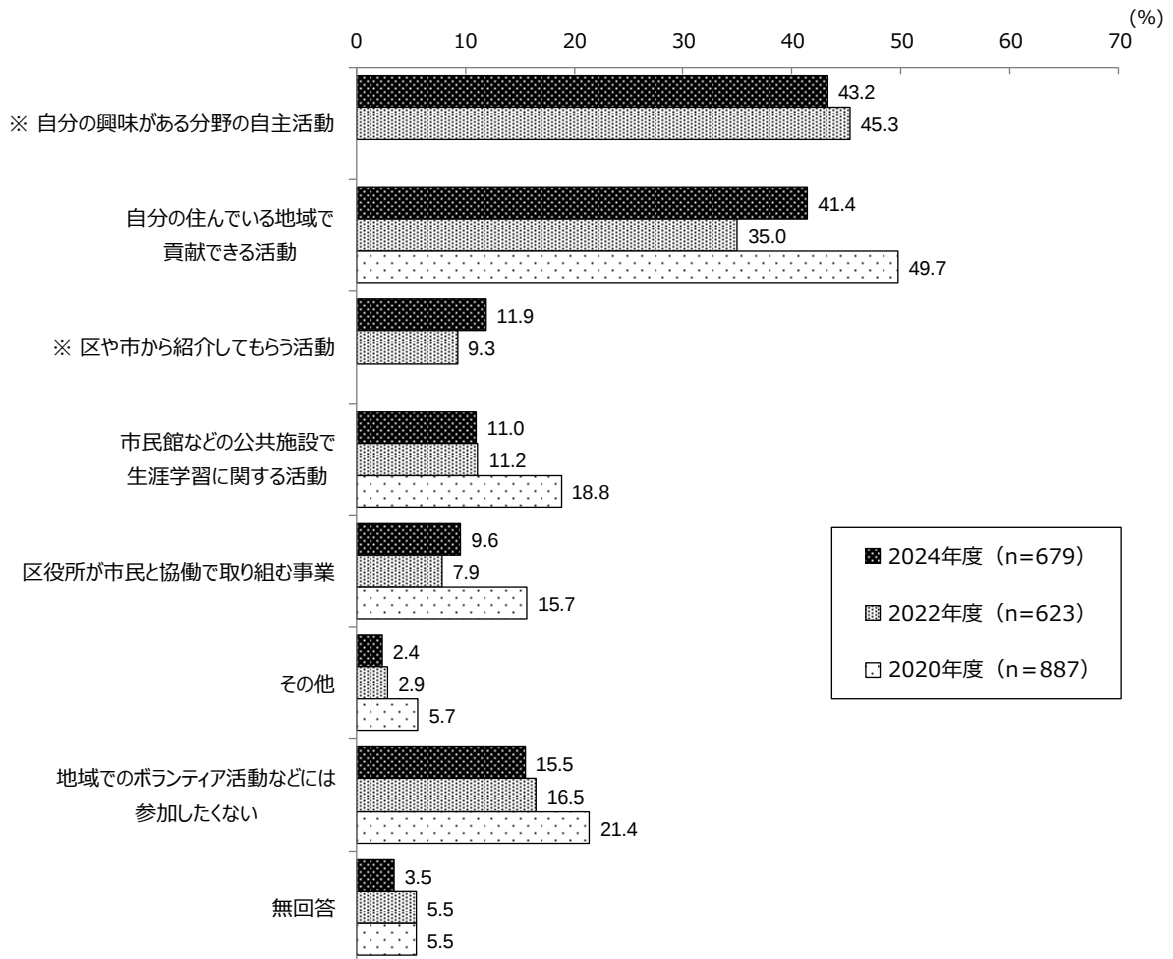
性年代別で見ると、「趣味や余暇を活かした活動」は男性 18~29 歳(46%)、女性 50~59 歳(41%)が 40%を超え、他の年代に比べて高い結果となった。

2022 年度と比較すると、「趣味や余暇を活かした活動」は男女 18~29 歳がともに 20 ポイント程、上昇する結果となった。

(1 1) 地域活動への取組意向

問5-6 地域でのボランティア活動などを行うとした場合、どのような活動に参加したいですか。
(あてはまるものすべてに○)

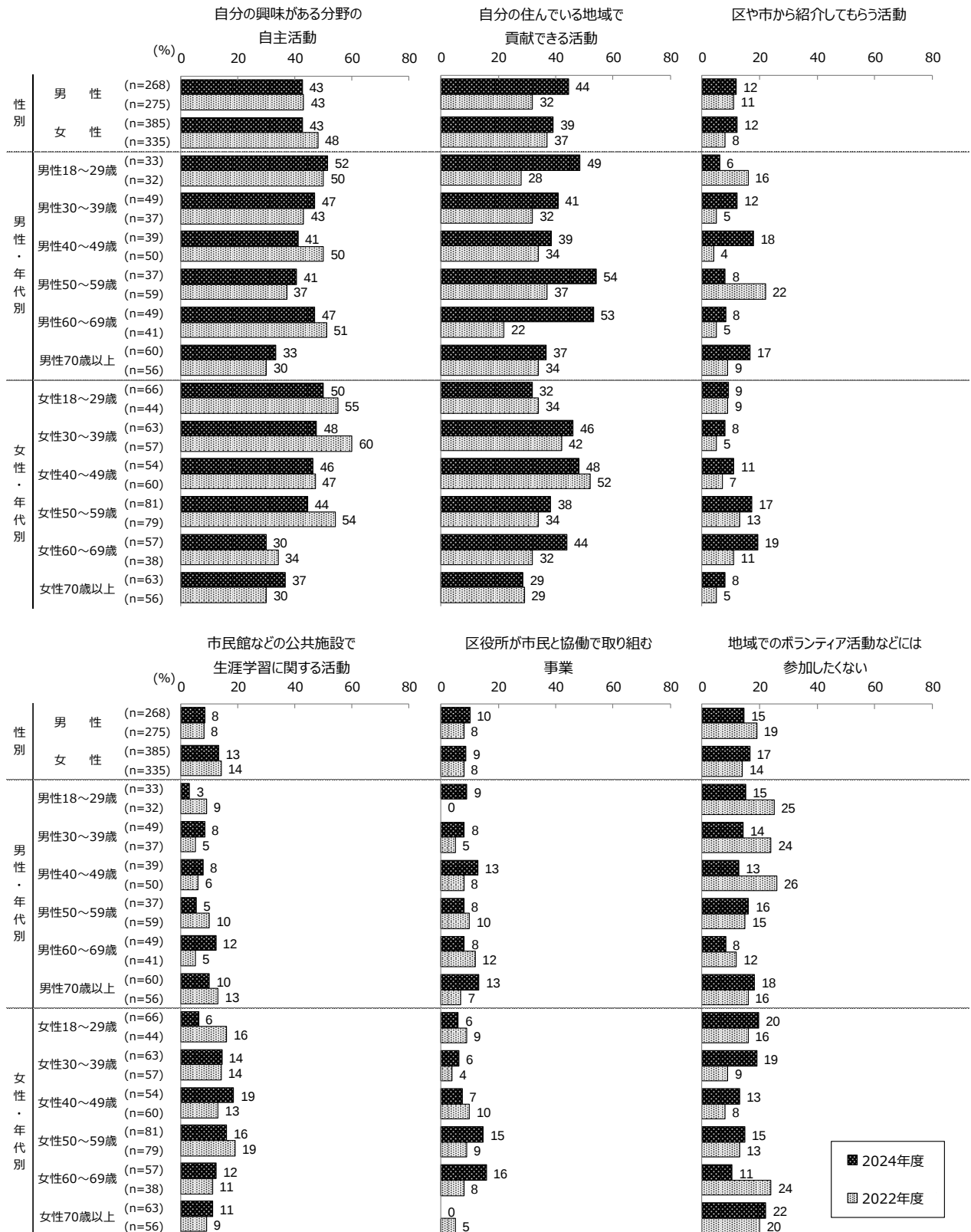
図表 1 1 - 1 地域活動への取組意向



※ 2022年度からの新規項目

「(6) 地域活動の状況」で「活動は行っていない」と回答した人に、「地域活動への取組意向」について聞いたところ、「自分の興味がある分野の自主活動」(43.2%)が最も高く、次いで「自分の住んでいる地域で貢献できる活動」(41.4%)で上位2項目が4割以上となっている。この他、「区や市から紹介してもらう活動」(11.9%)、「市民館などの公共施設で生涯学習に関する活動」(11.0%)の順となった。

図表 11-2 地域活動への取組意向(性別・性年代別)



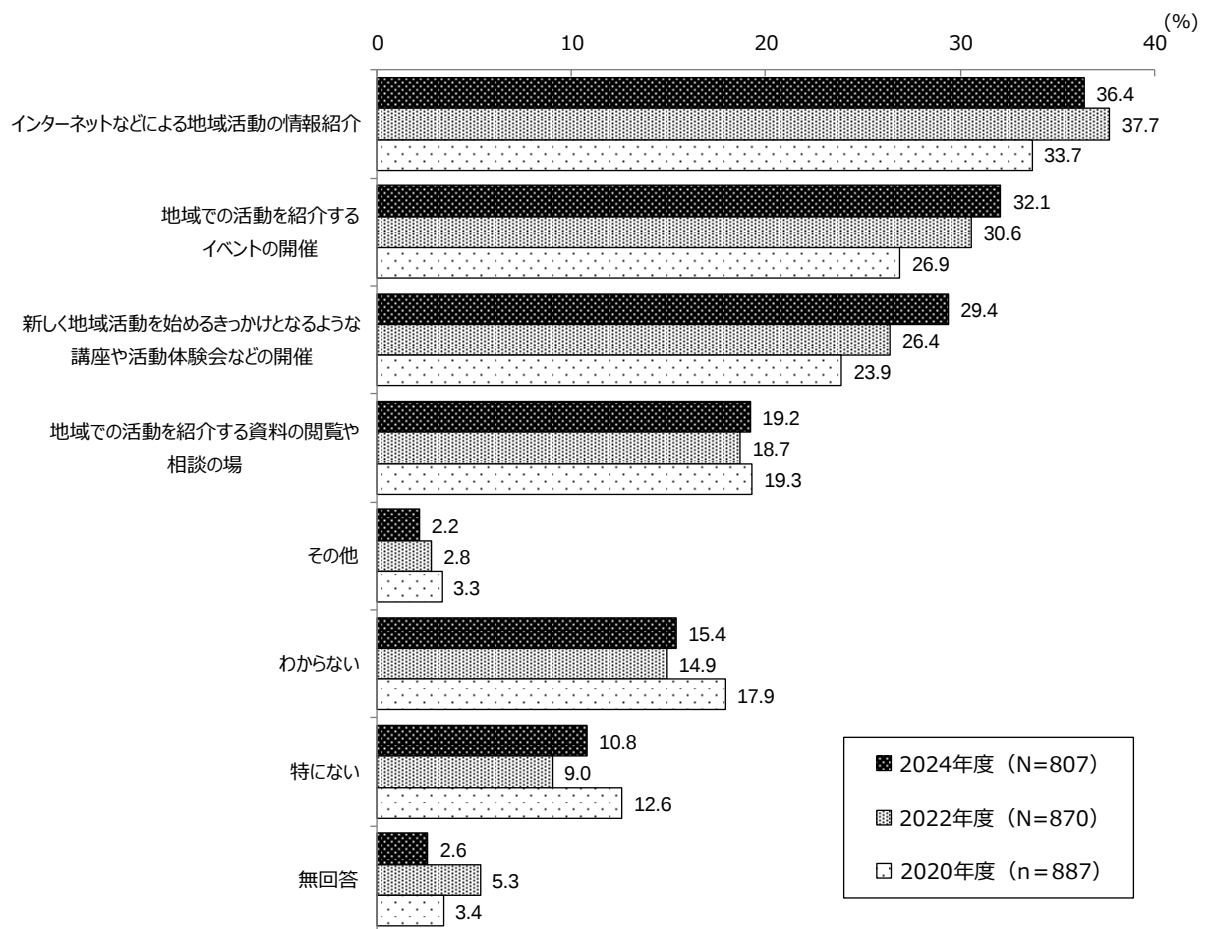
性年代別で見ると、「自分の住んでいる地域で貢献できる活動」と回答した人は男性 50~59 歳(54%)、男性 60~69 歳(53%)が他の性年代に比べて高い結果となった。

2022 年度と比較すると、「自分の住んでいる地域で貢献できる活動」は男性 60~69 歳で 31 ポイント上昇している。

(1 2) 地域活動を始めると必要な機会や場

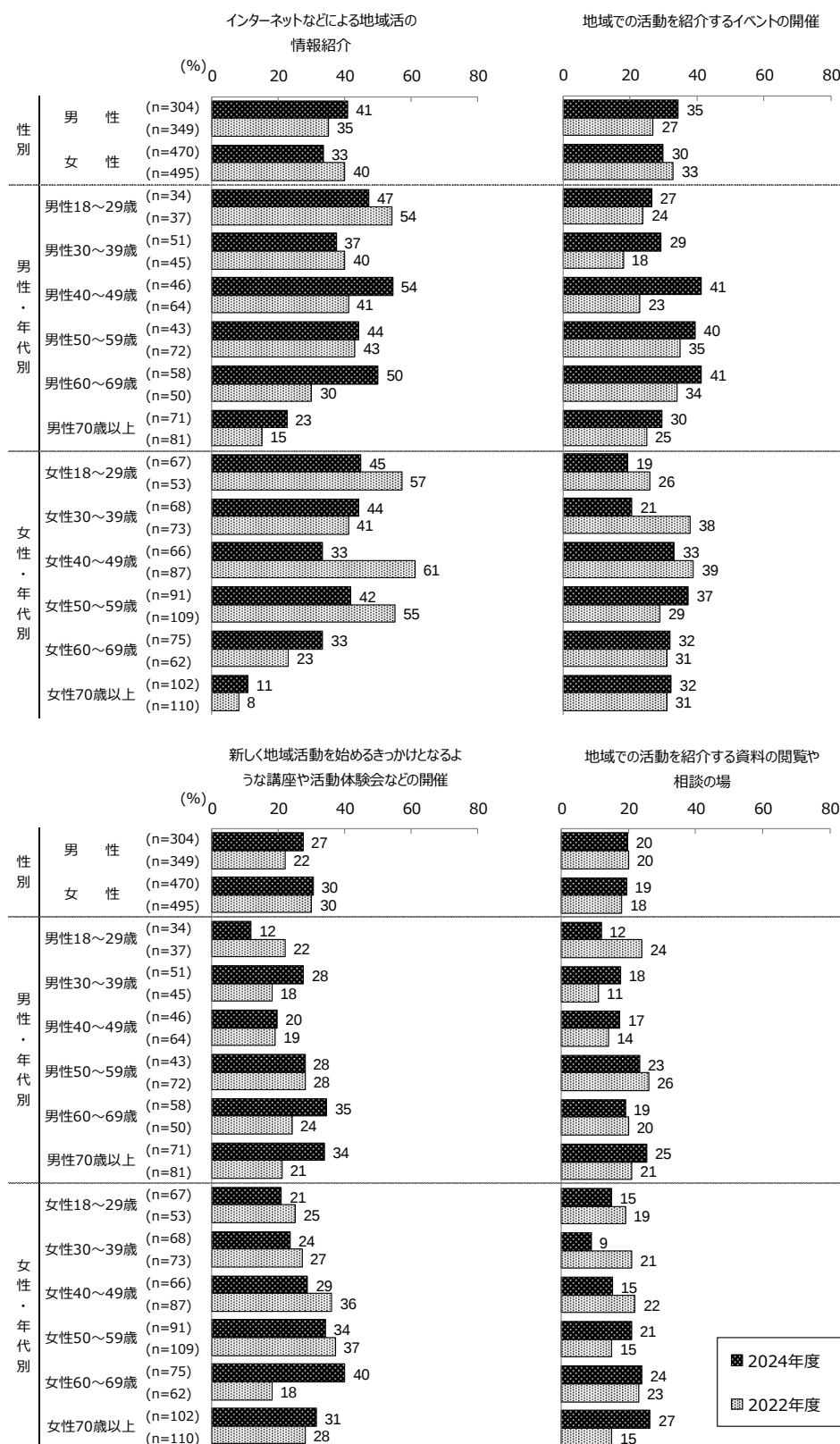
問5-7 地域でのボランティア活動などを始めるきっかけとして、どのような機会や場があることが効果的だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

図表 1 2 - 1 地域活動を始めると必要な機会や場



「地域活動を始めると必要な機会や場」について聞いたところ、「インターネットなどによる地域活動の情報紹介」(36.4%)が最も高く、次いで「地域での活動を紹介するイベントの開催」(32.1%)、「新しく地域活動を始めると必要なきっかけとなるような講座や活動体験会などの開催」(29.4%)、「地域での活動を紹介する資料の閲覧や相談の場」(19.2%)の順となり、2022年度と順位は同じ結果となった。

図表 1 2 - 2 地域活動を始めするために必要な機会や場(性別・性年代別)



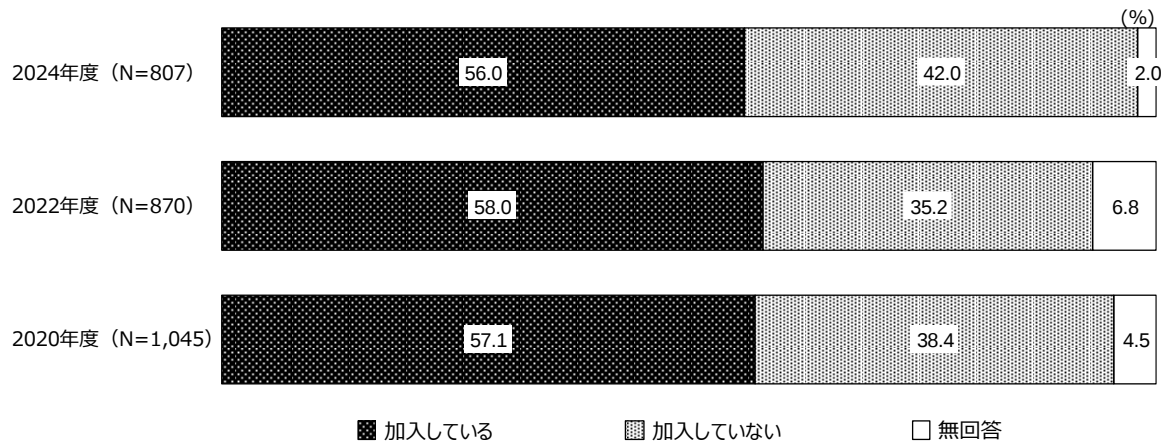
性年代別で見ると、「インターネットなどによる地域活動の情報紹介」は男性 40～49 歳 (54%) が最も高い結果となった。

2022 年度と比較すると、「インターネットなどによる地域活動の情報紹介」は男性 60～69 歳で 20 ポイント、女性 60～69 歳で 10 ポイント上昇する結果となった。

(1 3) 町内会・自治会への加入状況

問6 町内会・自治会に加入していますか。(○は1つだけ)

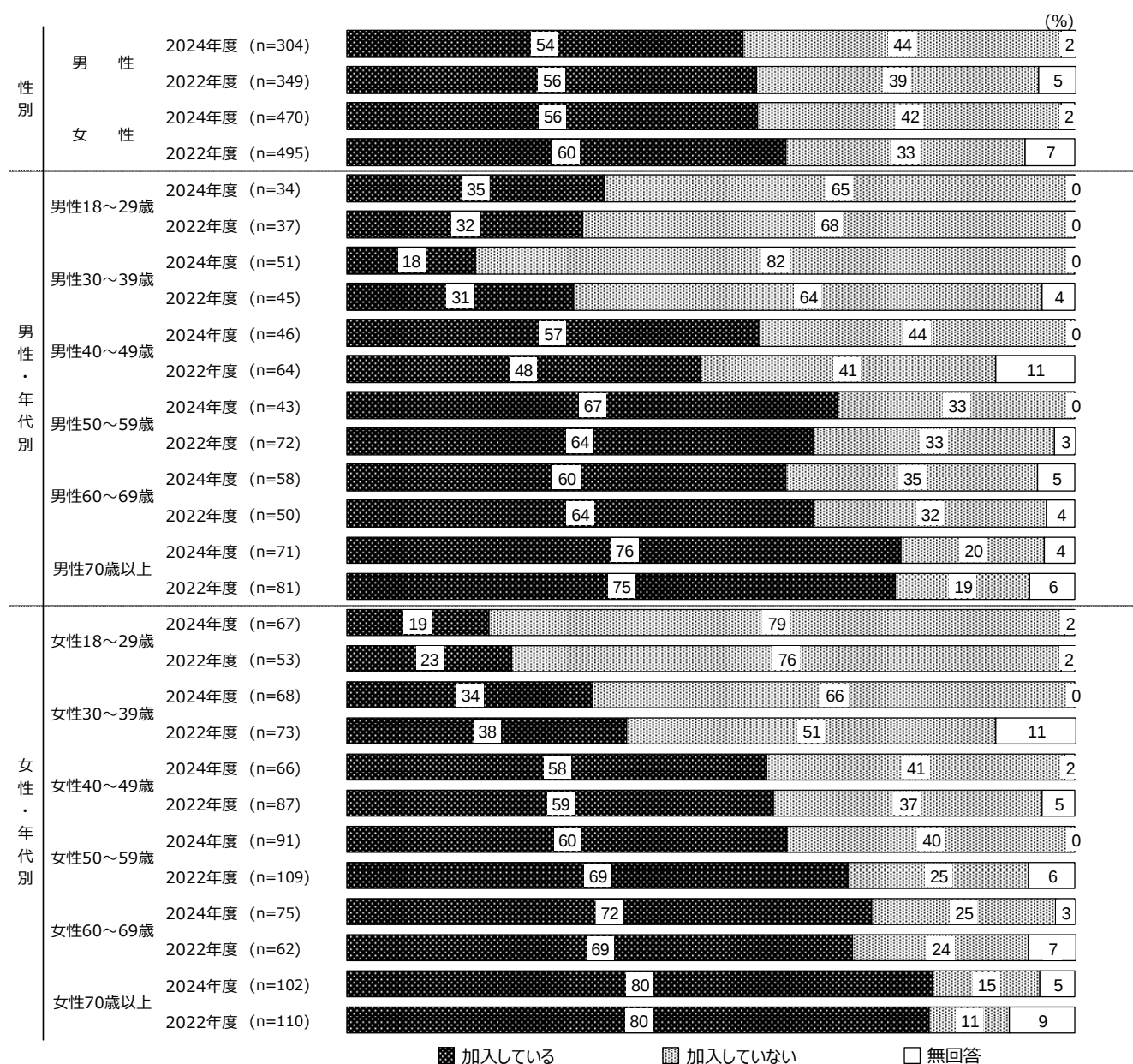
図表 1 3 - 1 町内会・自治会への加入状況



「町内会・自治会への加入状況」について聞いたところ、「加入している」(56.0%)、「加入していない」(42.0%)となっている。

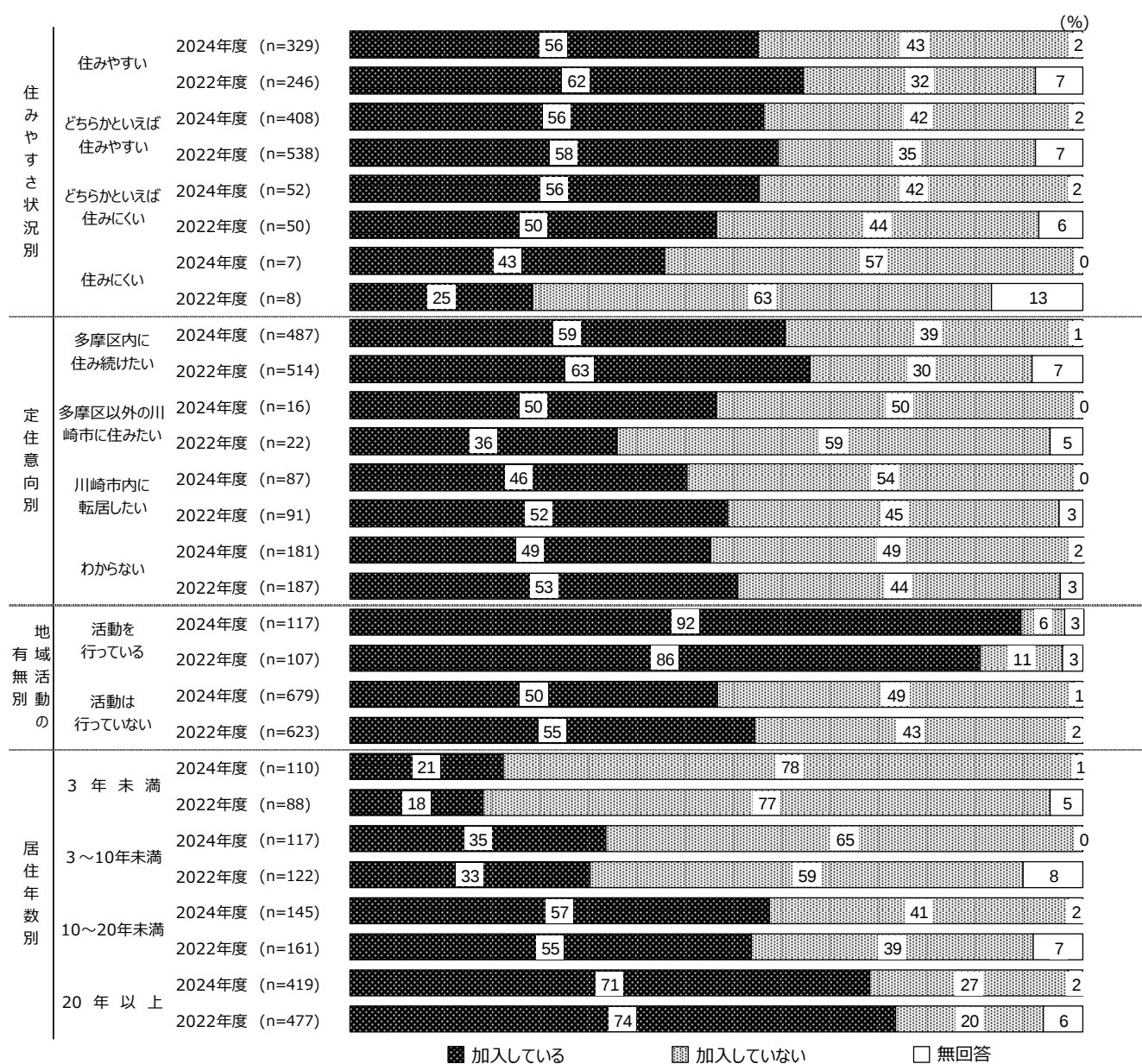
過去2回の調査と比較しても大きな差は見られない。

図表 1 3 - 2 町内会・自治会への加入状況(性別・性年代別)



性年代別で見ると、「加入している」の割合は男女ともに50代以上で60%を超える高い結果となった。特に女性70歳以上は80%と最も高い結果となった。

図表 1 3 - 3 町内会・自治会への加入状況
(住みやすさ状況別・定住意向別・地域活動の有無別・居住年数別)

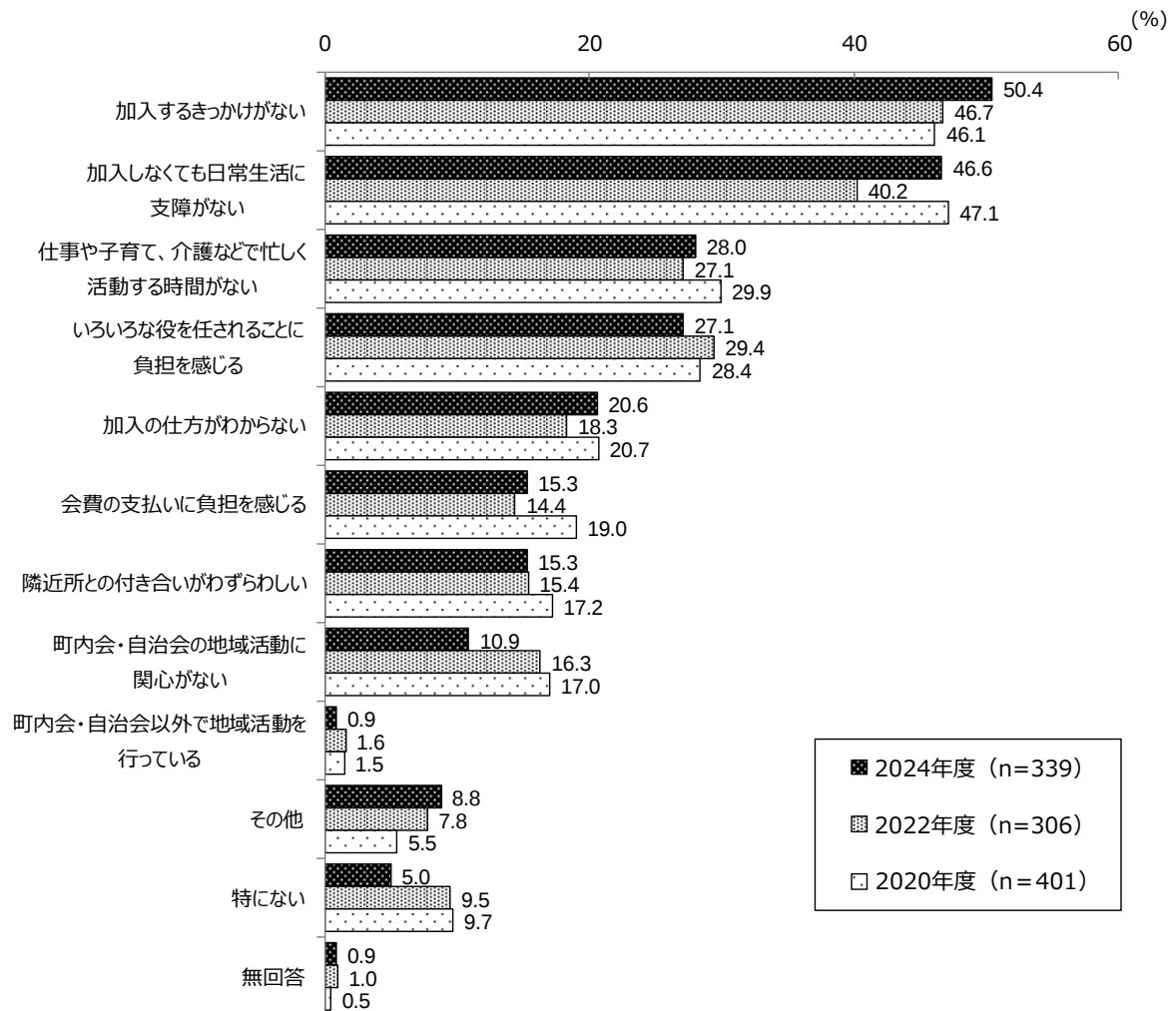


居住年数別で見ると、居住年数が長いほど「加入している」人の割合が高く、2022年度と同様の傾向となった。

(14) 町内会・自治会に加入していない理由

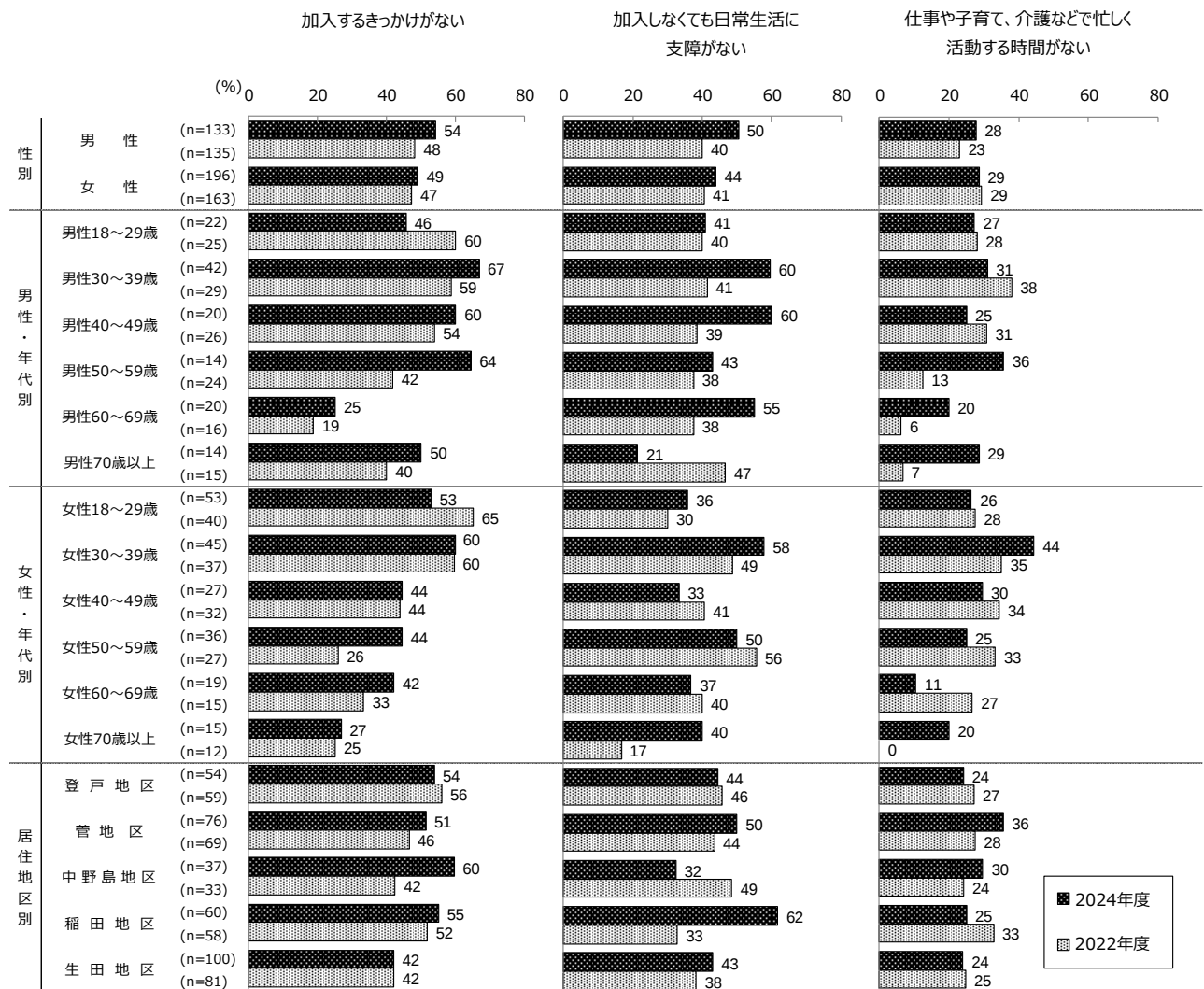
問6-2 町内会・自治会に加入していない理由をお選びください。(あてはまるものすべてに○)

図表 14-1 町内会・自治会に加入していない理由



「(13) 町内会・自治会への加入状況」で「加入していない」と回答した人に、「町内会・自治会に加入していない理由」について聞いたところ、「加入するきっかけがない」(50.4%)が最も高く、次いで「加入しなくても日常生活に支障がない」(46.6%)、「仕事や子育て、介護などで忙しく活動する時間がない」(28.0%)、「いろいろな役を任されることに負担を感じる」(27.1%)の順となった。

図表 1 4 - 2 町内会・自治会に加入していない理由(性別・性年代別・居住地区別)＜上位 3 項目＞



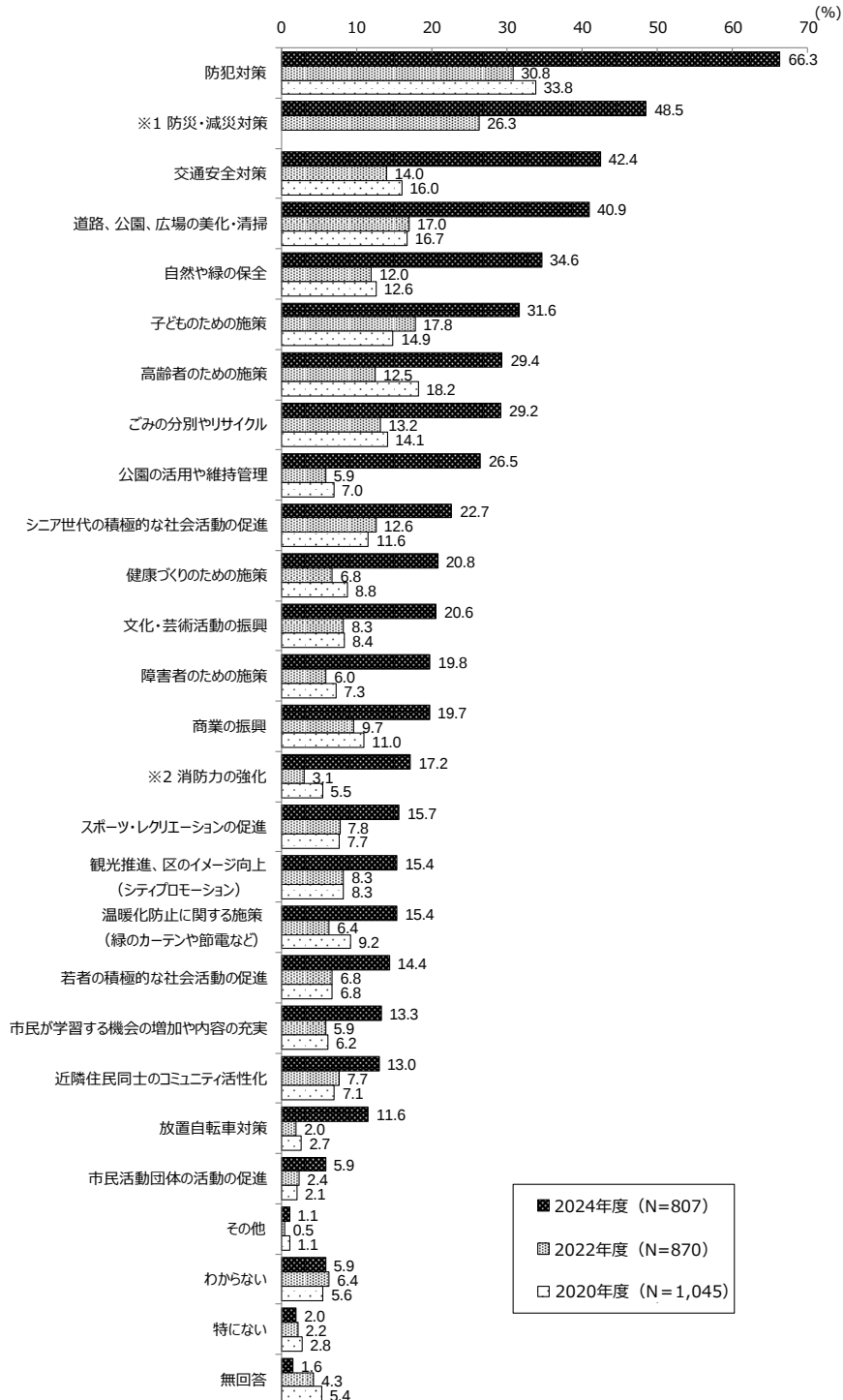
性年代別で見ると、「加入するきっかけがない」は男性 30～39 歳が 67%と、他の性年代より高い結果となった。

居住地区別で見ると、「加入するきっかけがない」は中野島地区で 60%、「加入しなくても日常生活に支障がない」は稲田地区が 62%と、他の居住地区よりも高い結果となった。

(15) 区民と行政が協働して取り組んだ方が効果的だと思うもの

問7 区民（NPOや市民活動団体などを含む）と行政が協働して取り組んだほうが効果的だと思うものは何ですか。（あてはまるものすべてに○）*2022年度、2020年度は3つまでの回答として聴取

図表15-1 区民と行政が協働して取り組んだ方が効果的だと思うもの

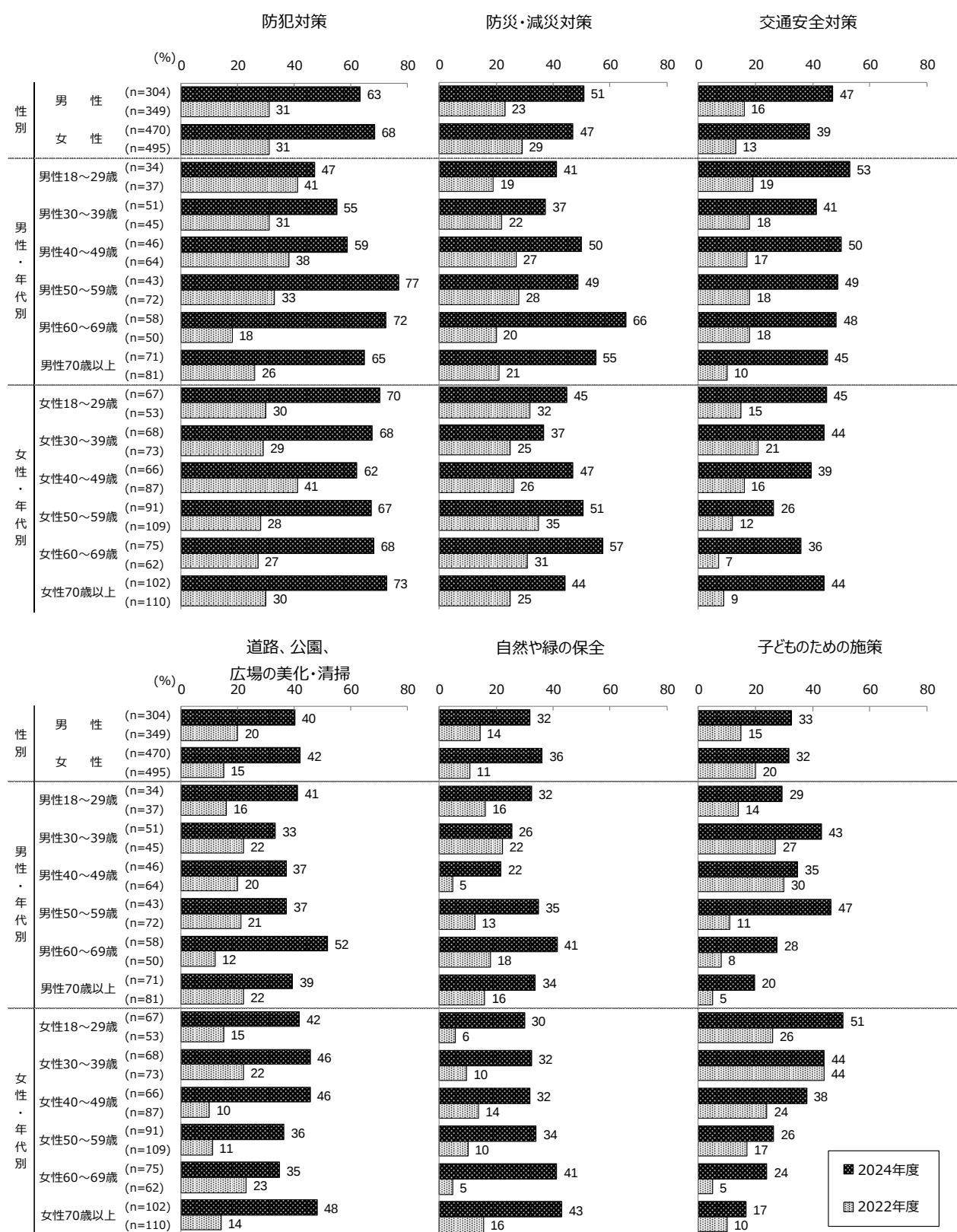


※1 2022年度からの新規項目

※2 「消防力の強化」は2020年度では「消防力の強化や防災対策」として聴取

「区民と行政が協働して取り組んだ方が効果的だと思うもの」について聞いたところ、「防犯対策」(66.3%)が最も高く、次いで「防災・減災対策」(48.5%)、「交通安全対策」(42.4%)、「道路、公園、広場の美化・清掃」(40.9%)の順となった。

図表 15-2 区民と行政が協働して取り組んだ方が効果的だと思うもの
(性別・性年代別) <上位 6 項目>



性年代別で見ると、「防犯対策」は女性の全年代で 60%を超える高い結果となった。「防災・減災対策」は男性 60～69 歳が 66%と他の性年代に比べて高い結果となった。

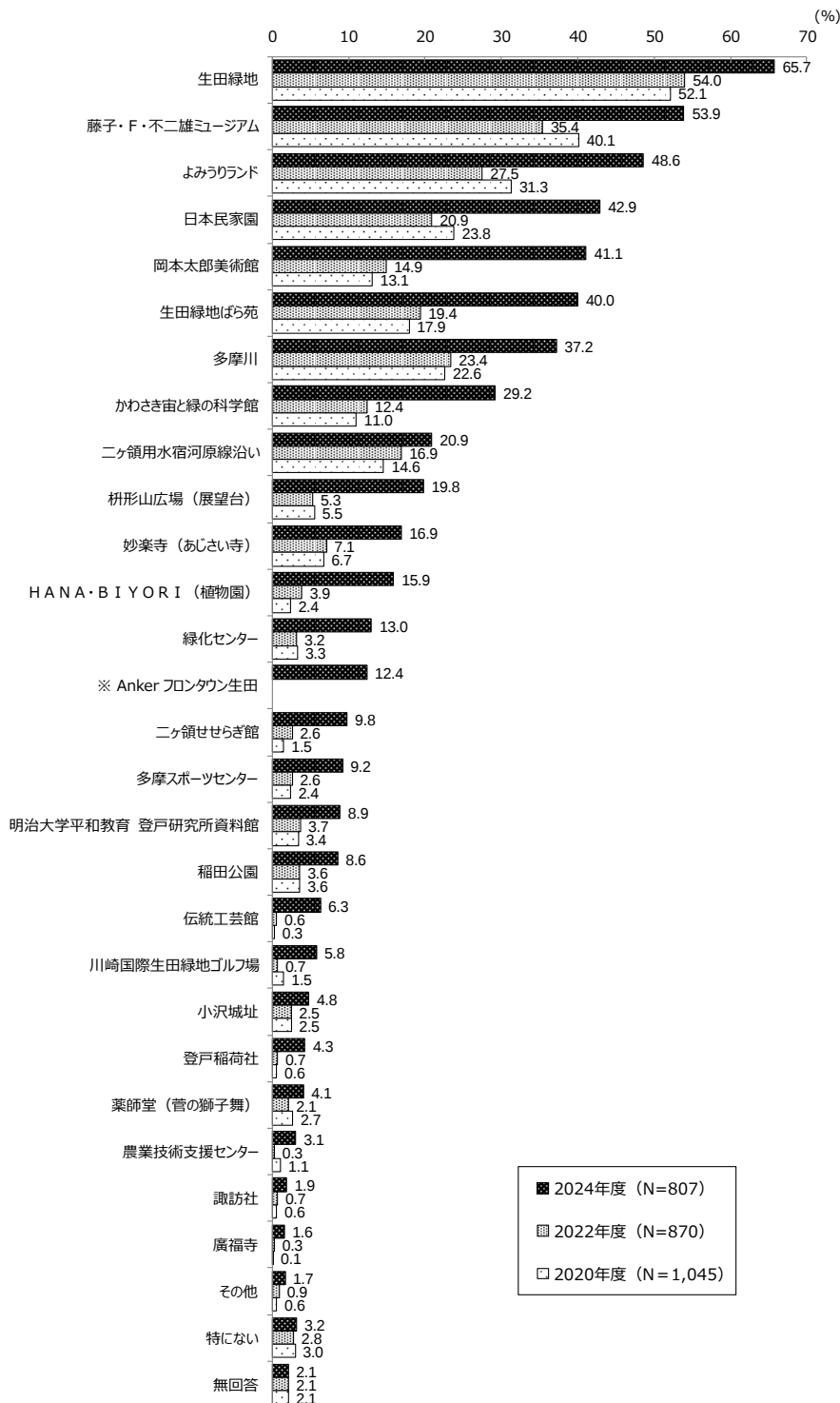
3 区役所が推進する主な取組について

(16) 多摩区の見どころ

問8 多摩区内のどの見所を他人に薦めたいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

*2020年度、2022年度は3つまでの回答として聴取

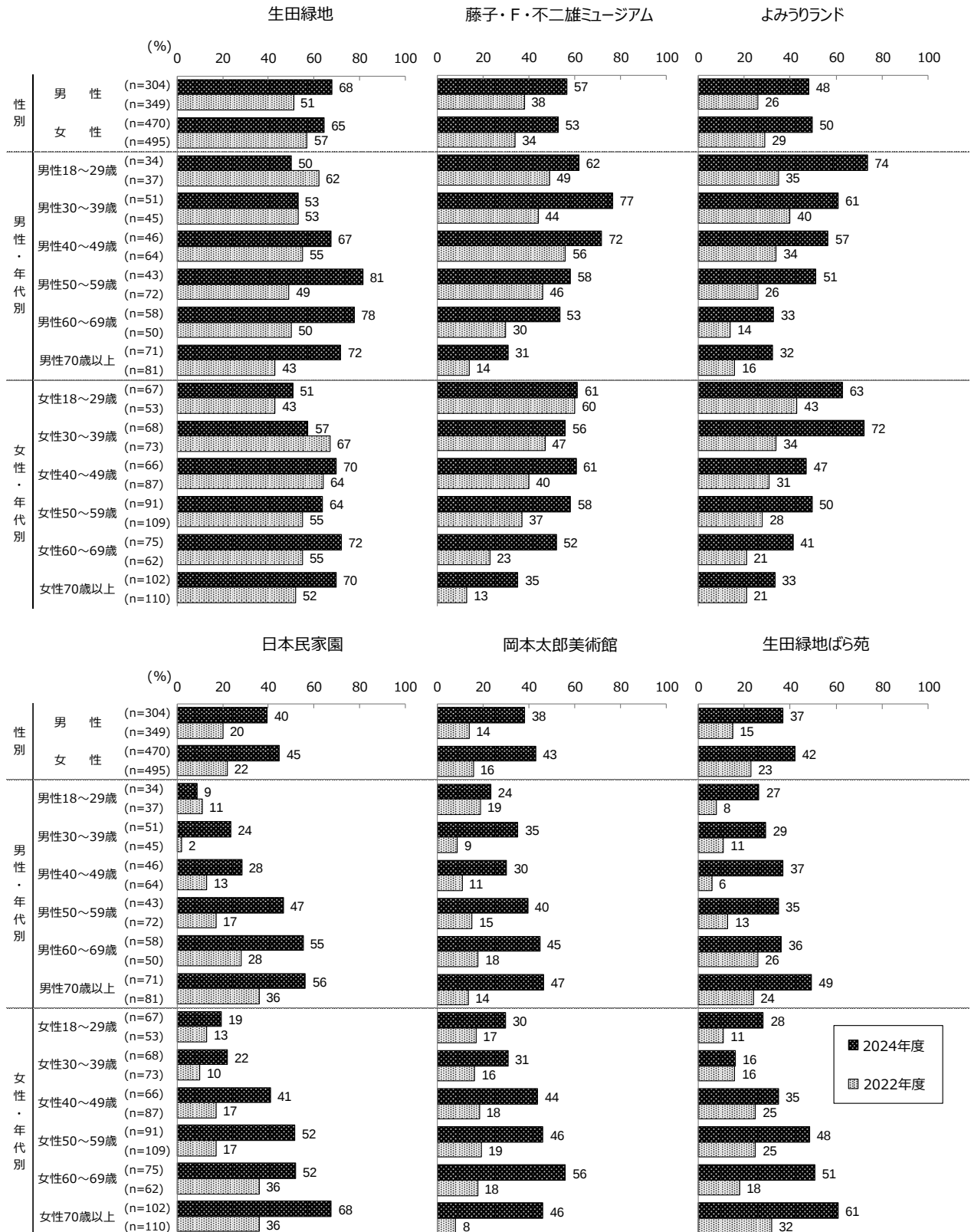
図表16-1 多摩区の見どころ



※ 2024年度の新規項目

「多摩区の見どころ」について聞いたところ、「生田緑地」(65.7%)が最も高く、次いで「藤子・F・不二雄ミュージアム」(53.9%)、「よみうりランド」(48.6%)の順となった。

図表 1 6 - 2 多摩区の見どころ(性別・性年代別) <上位 6 項目>

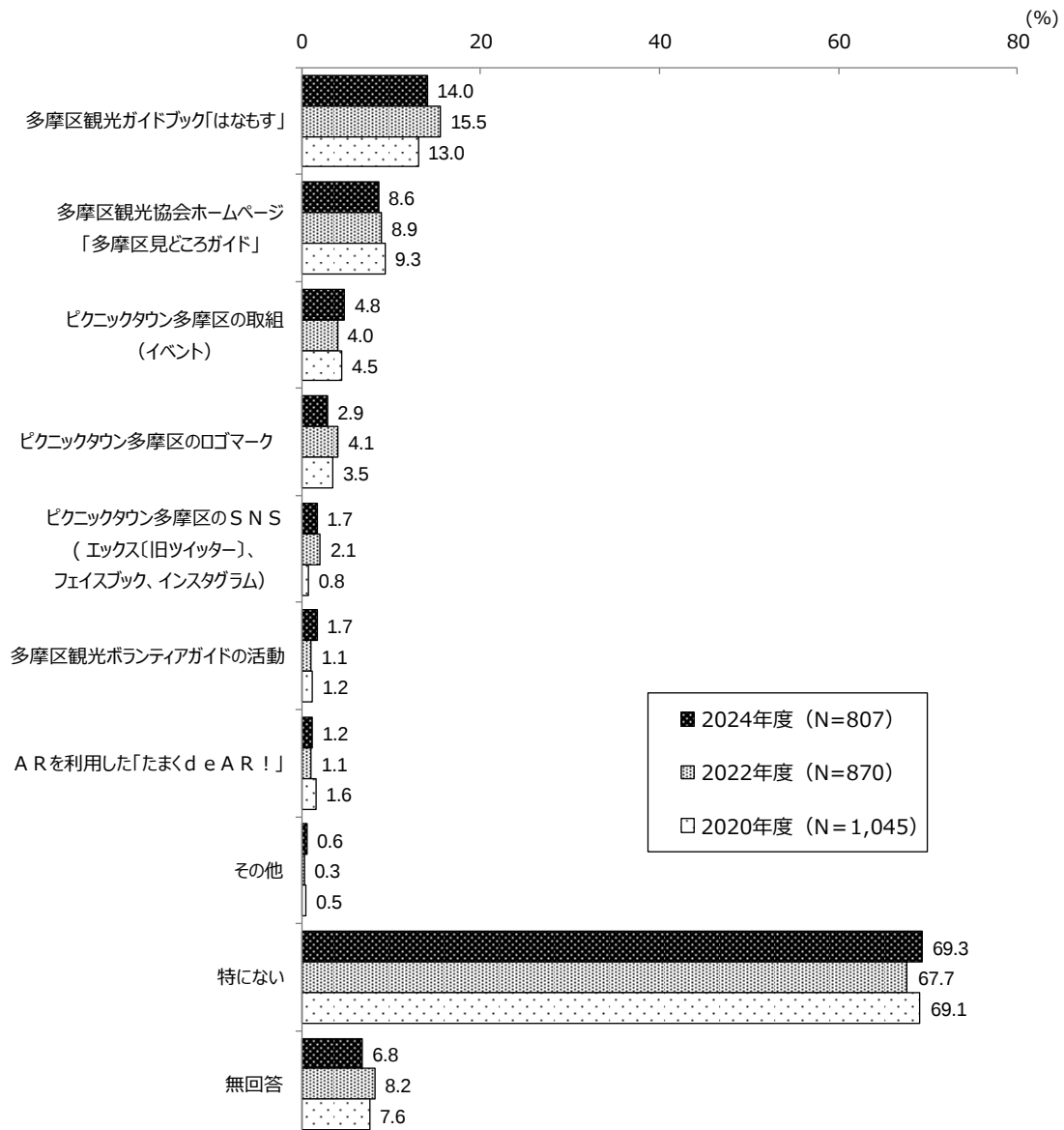


性年代別で見ると、「生田緑地」は男性 50～59 歳(81%)が最も高い結果となった。「藤子・F・不二雄ミュージアム」は男性の 30 代、40 代が 70%を超え、他の年代に比べて高い結果となった。

(17) 区の観光振興やイメージ、地域ブランド向上を目指す取組の認知状況

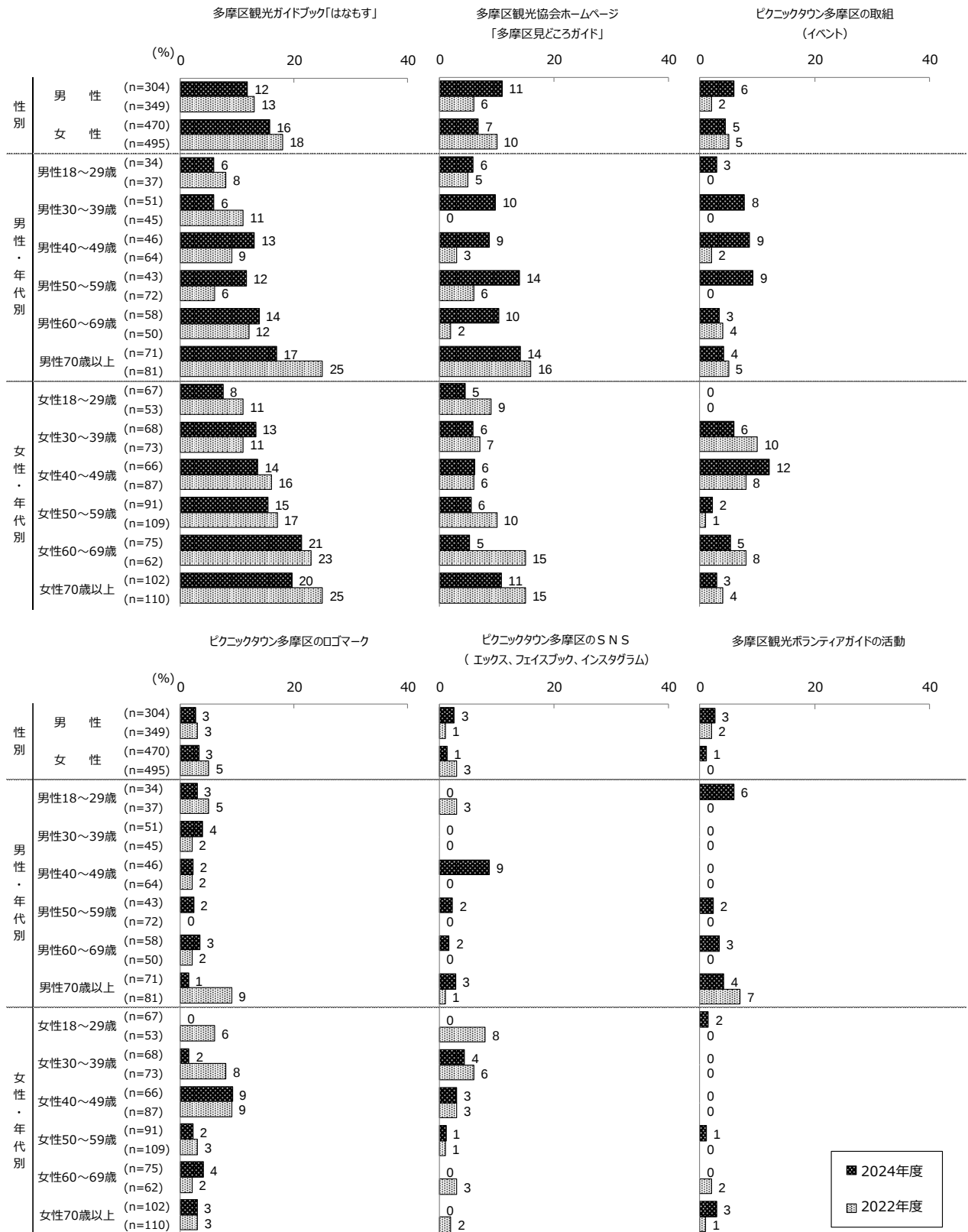
問9 多摩区では、豊かな自然環境や魅力的な地域資源を活用し、区の観光振興やイメージ、地域ブランド力の向上を目指す取組を行っています。次の中であなたが知っているもの、見たことのあるものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

図表17-1 区の観光振興やイメージ、地域ブランド向上を目指す取組の認知状況



「区の観光振興やイメージ、地域ブランド向上を目指す取組の認知状況」について聞いたところ、「特にない」(69.3%)が最も高い結果となった。知っているもの、見たことのあるもので見ると、「多摩区観光ガイドブック『はなもす』」(14.0%)が最も高く、次いで「多摩区観光協会ホームページ『多摩区見どころガイド』」(8.6%)の順となった。

図表 17-2 区の観光振興やイメージ、地域ブランド向上を目指す取組の認知状況
(性別・性年代別) <上位6項目>

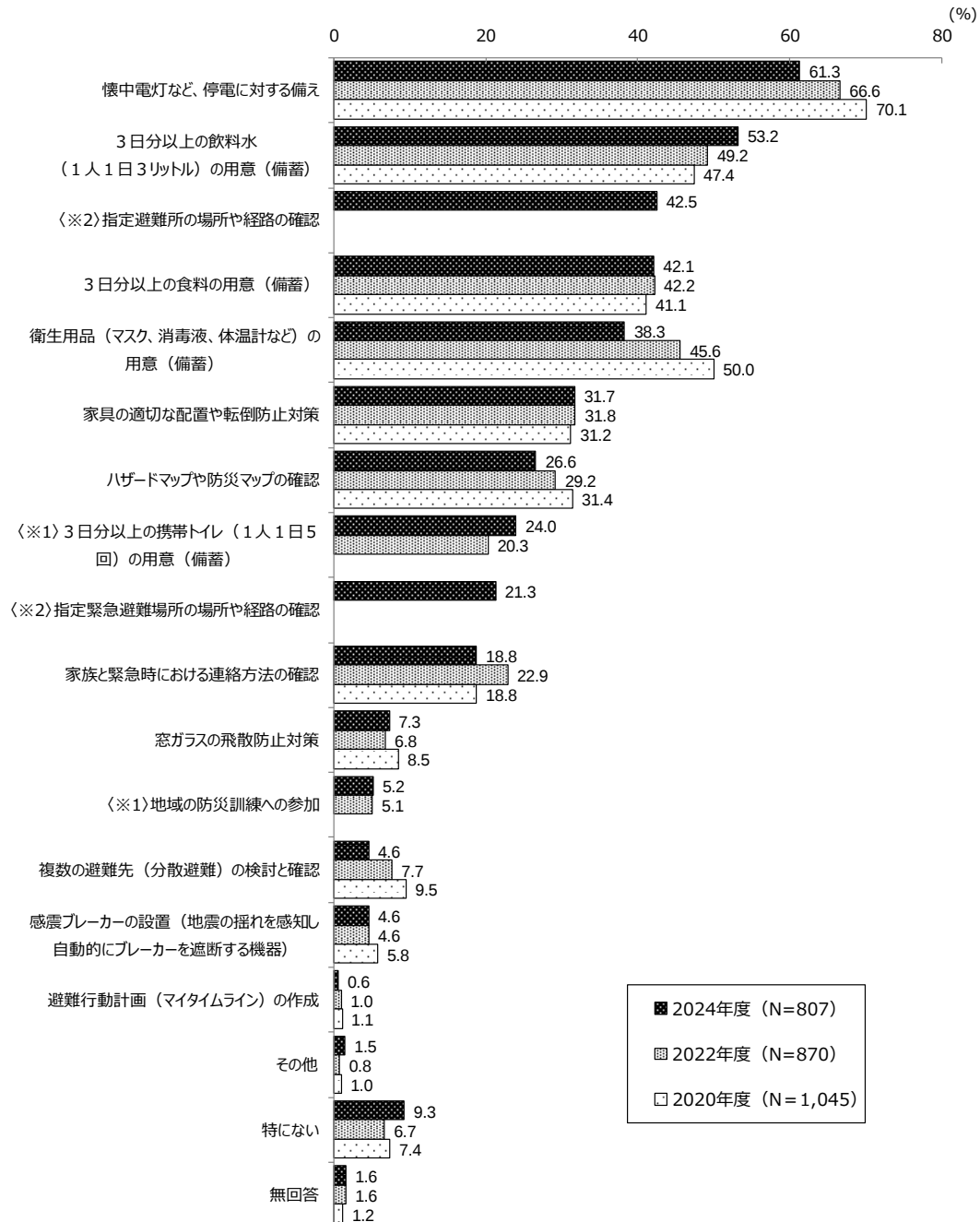


性年代別で見ると、「多摩区観光ガイドブック『はなもす』」は女性 60~69 歳、女性 70 歳以上で 20% を超える結果となった。

(18) 地震・風水害などの災害に備えるため、家庭内で現在行っている取組

問10 地震・風水害などの災害に備えるため、家庭内で現在行っている取組は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

図表18-1 地震・風水害などの災害に備えるため、家庭内で現在行っている取組

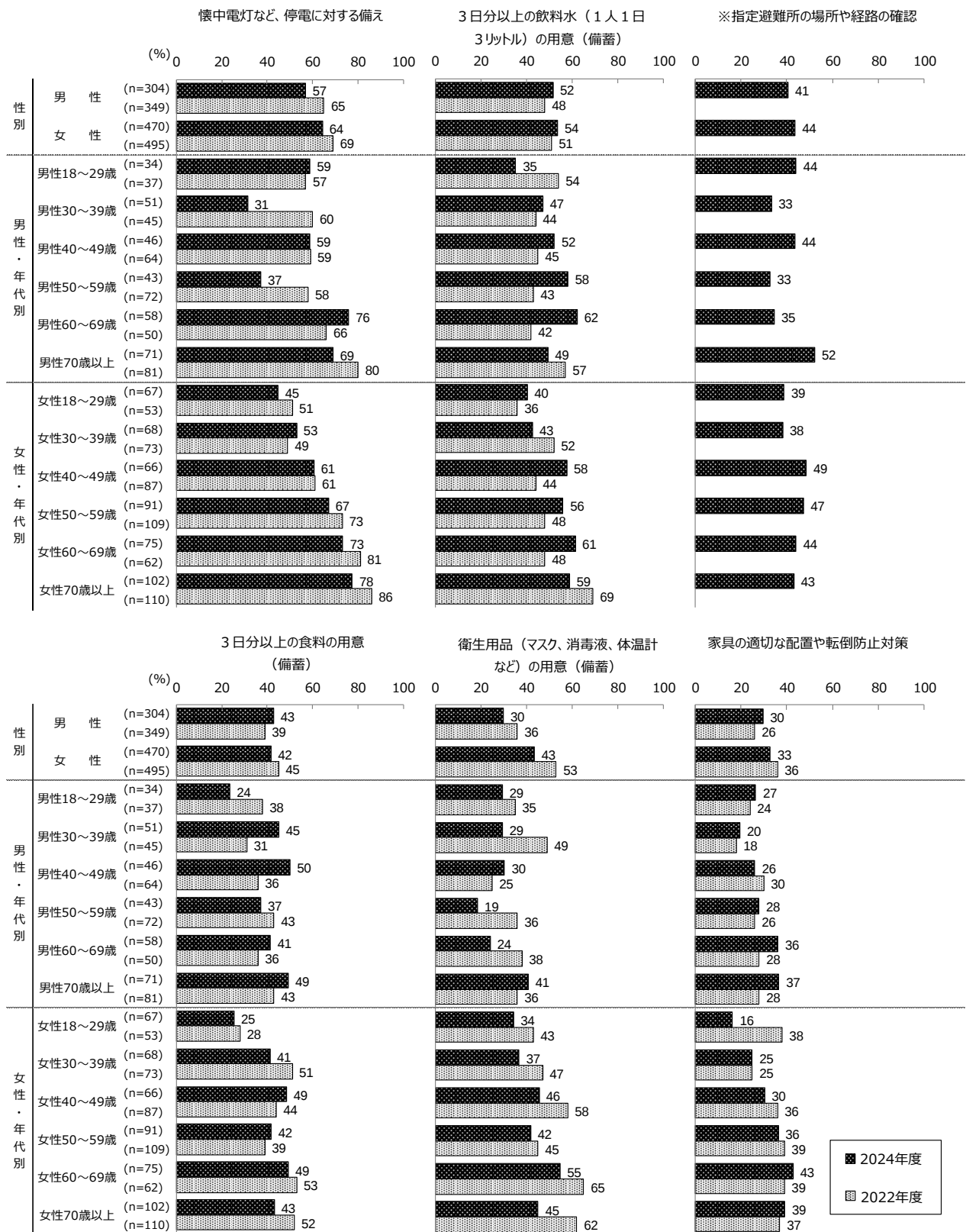


※1 2022年度からの新規項目

※2 2024年度からの新規項目。2022年度は「指定避難所や指定緊急避難所の場所や経路の確認」として聴取

「地震・風水害などの災害に備えるため、家庭内で現在行っている取組」について聞いたところ、「懐中電灯など、停電に対する備え」(61.3%)が最も高く、次いで「3日分以上の飲料水(1人1日3リットル)の用意(備蓄)」(53.2%)、「指定避難所の場所や経路の確認」(42.5%)、「3日分以上の食糧の用意(備蓄)」(42.1%)、「衛生用品(マスク、消毒液、体温計など)の用意(備蓄)」(38.3%)の順となった。

図表 1 8－2 区の地震・風水害などの災害に備えるため、家庭内で現在行っている取組
(性別・性年代別) <上位 6 項目>



性別で見ると、「衛生用品（マスク、消毒液、体温計など）の用意（備蓄）」は女性が男性より 13 ポイント高い結果となった。

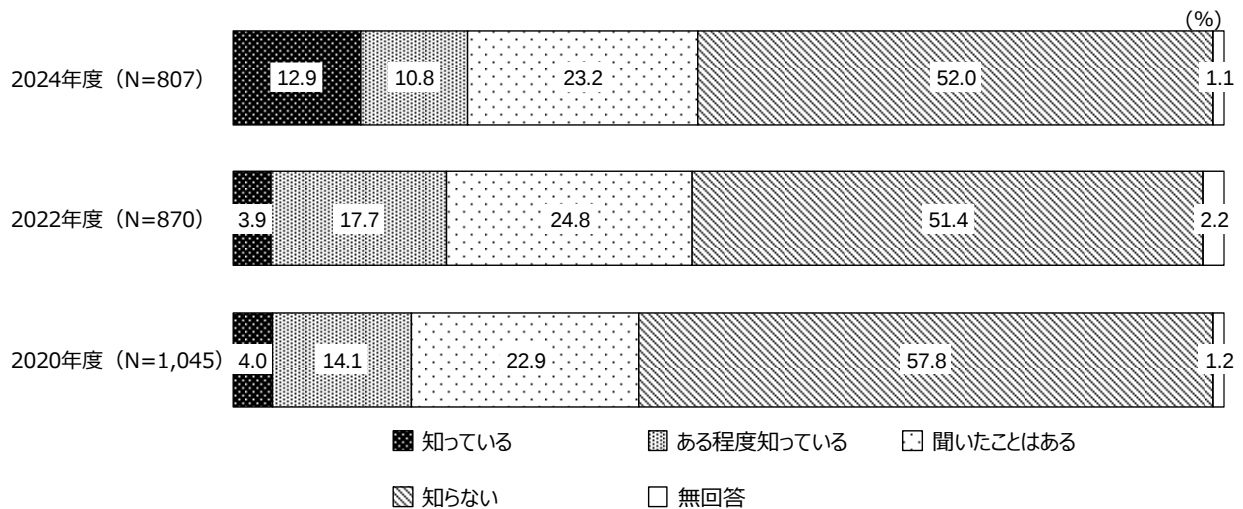
性年代別で見ると、「懐中電灯など、停電に対する備え」は女性は年代が上がるほど高い結果となった。

(19)「地域包括ケアシステム」の認知状況

問11 誰もが住み慣れた地域や場所で安心して暮らし続けるため、医療、看護、介護、福祉・生活支援が切れ目なく一体的に提供される仕組みと地域づくりの取組である「地域包括ケアシステム」を知っていますか。(〇は1つだけ)

*2020年度、2022年度は「よく知っている」「ある程度知っている」「聞いたことはある」「知らない」の選択肢で聴取

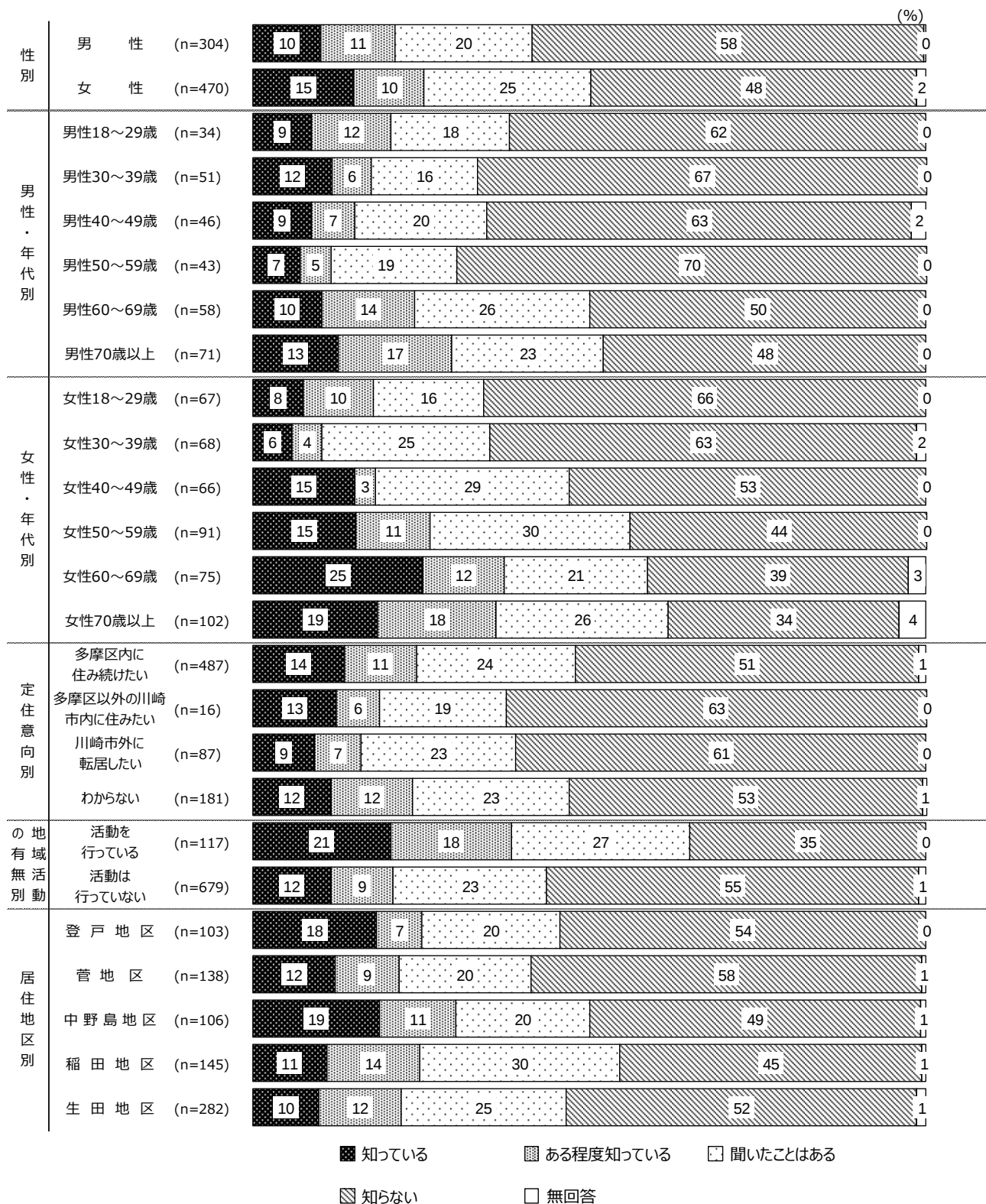
図表19-1 「地域包括ケアシステム」の認知状況



「『地域包括ケアシステム』の認知状況」について聞いたところ、「知らない」(52.0%)が最も高く、次いで「聞いたことはある」(23.2%)、「知っている」(12.9%)、「ある程度知っている」(10.8%)の順となった。

「知っている」「ある程度知っている」「聞いたことはある」を合わせた『聞いたことがある計』(46.9%)は、2022年度と比較しても大きな差は見られない。

図表 19-2 「地域包括ケアシステム」の認知状況
(性別・性年代別・定住意向別・地域活動の有無別・居住地区別)

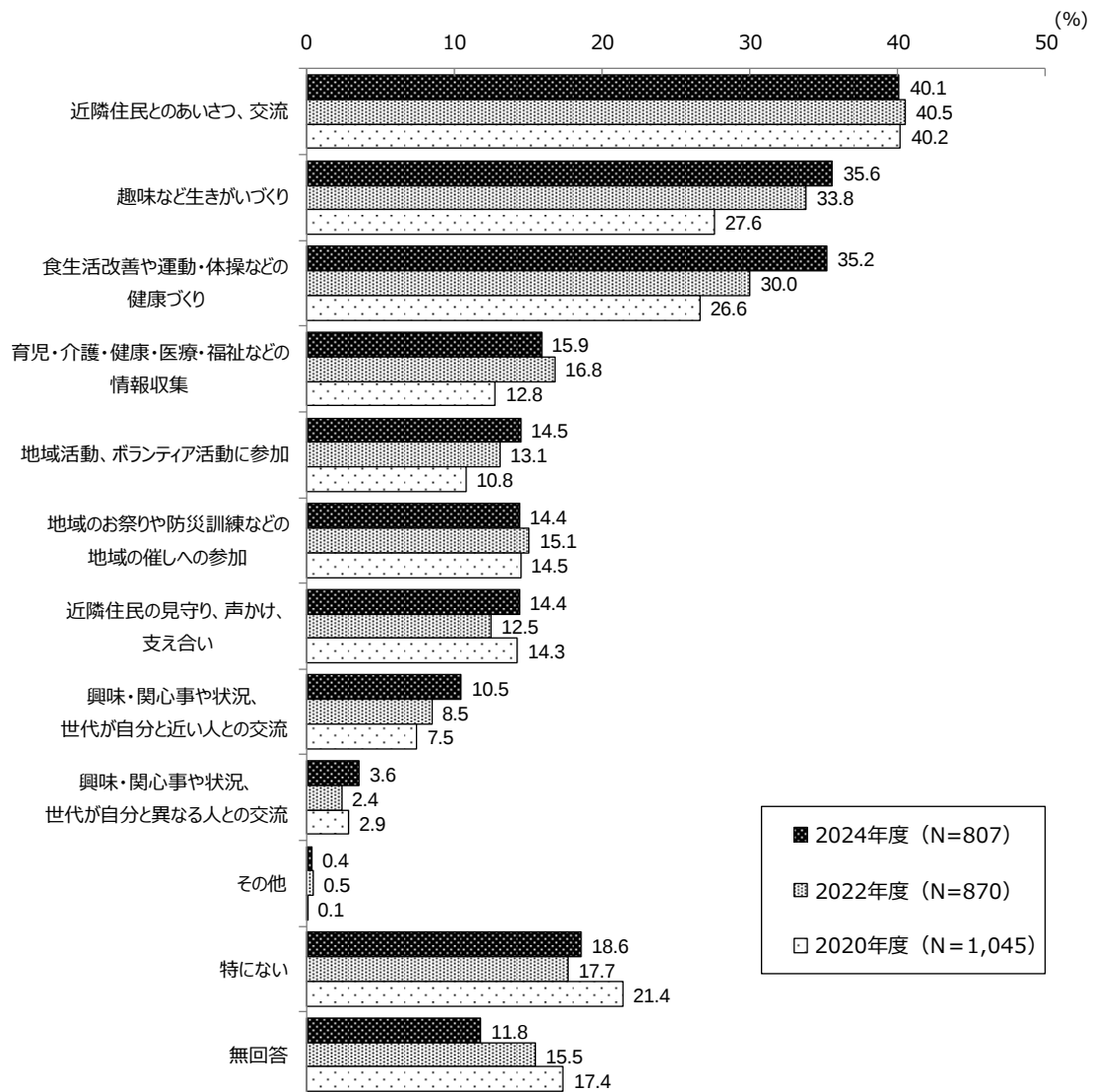


性年代別で見ると、「よく知っている」「ある程度知っている」「聞いたことはある」を合わせた『聞いたことがある計』は、女性は年代が上がるにつれて高くなり、特に女性70歳以上は60%を超え、高い結果となった。

(20)「地域包括ケアシステム」における自助・互助の活動状況

問12 地域包括ケアシステムにおいて一人ひとりに期待される行動として、自助（生きがいづくり・健康づくりなど）、互助（地域の交流・支え合いなど）がありますが、あなたは次のような行動をしていますか。（あてはまるものすべてに○）

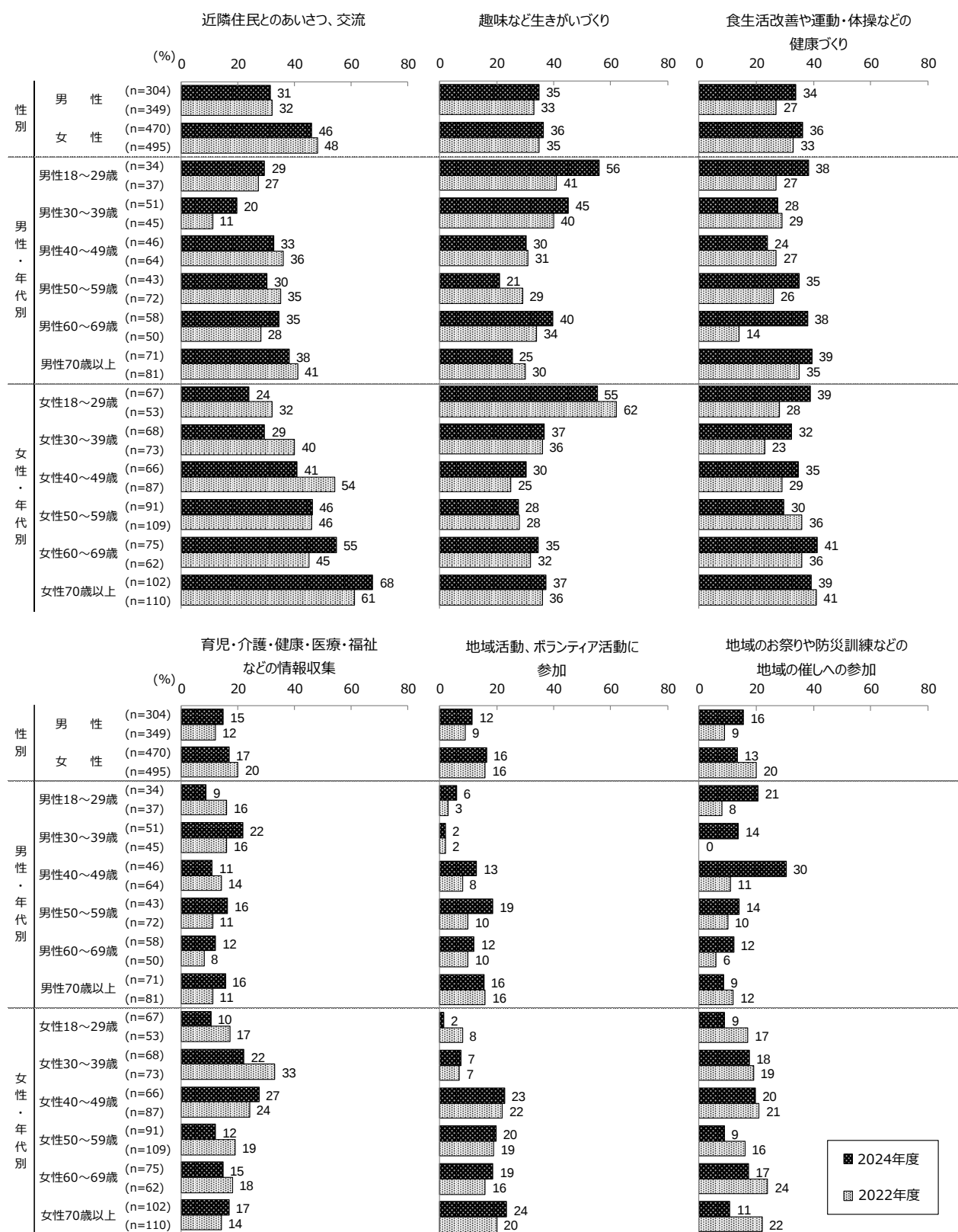
図表20-1 「地域包括ケアシステム」における自助・互助の活動状況



「『地域包括ケアシステム』における自助・互助の活動状況」について聞いたところ、「近隣住民とのあいさつ、交流」(40.1%)が最も高く、次いで「趣味など生きがいづくり」(35.6%)、「食生活改善や運動・体操などの健康づくり」(35.2%)の順となった。

過去2回の調査と比較しても上位3項目は同じ順となった。

図表 20-2 「地域包括ケアシステム」における自助・互助の活動状況
(性別・性年代別) <上位6項目>



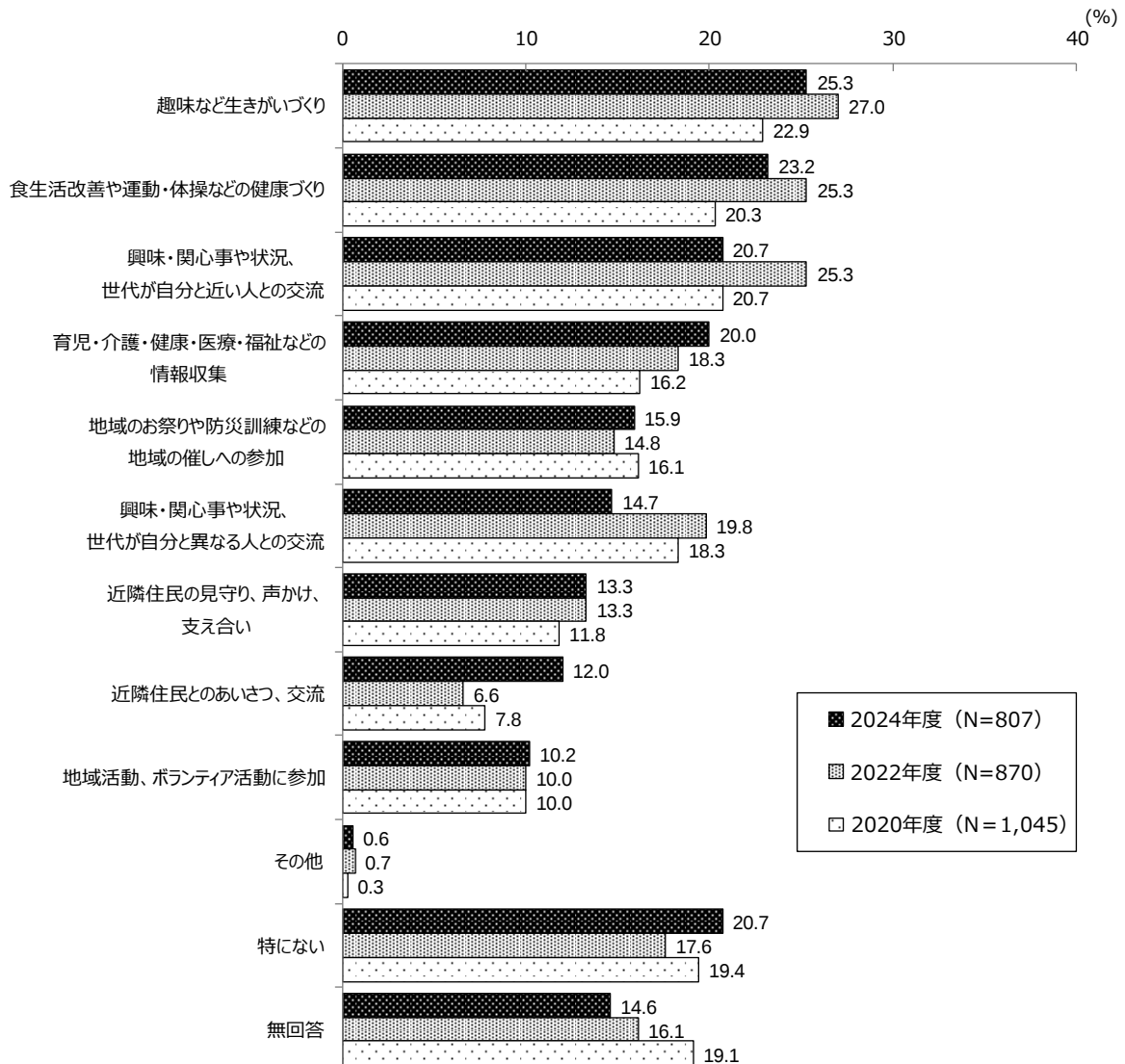
性別で見ると、「近隣住民とのあいさつ、交流」は女性が男性より 15 ポイント高い結果となった。

性年代別で見ると、「趣味など生きがいづくり」は男女ともに 18~29 歳で 50% を超え、他の性年代に比べて高い結果となった。

(21)「地域包括ケアシステム」における自助・互助として行ってみたい活動内容

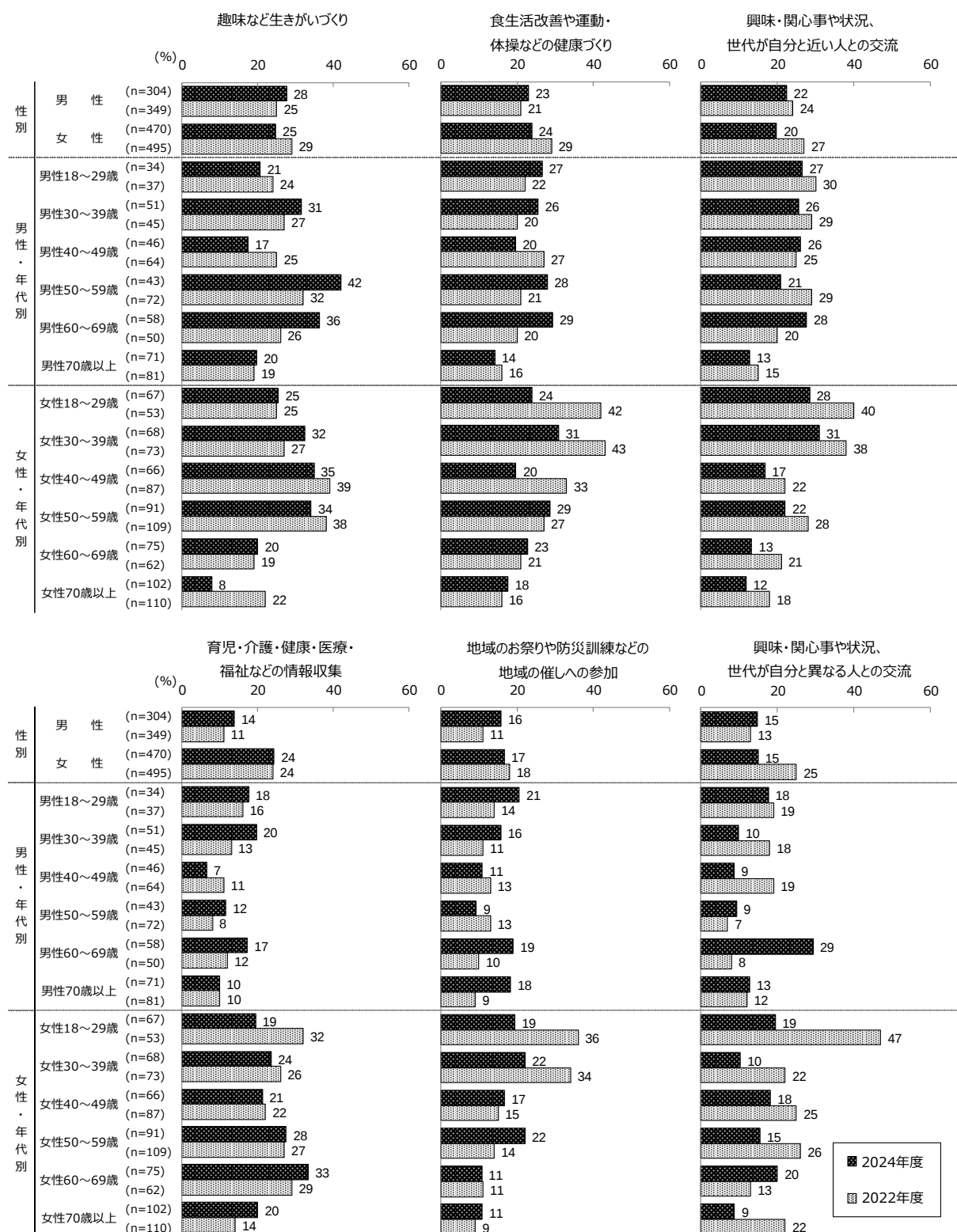
問13 また、してみたいことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

図表21-1 「地域包括ケアシステム」における自助・互助として行ってみたい活動内容



「『地域包括ケアシステム』における自助・互助として行ってみたい活動内容」について聞いたところ、「趣味など生きがいづくり」(25.3%)が最も高く、次いで「食生活改善や運動・体操などの健康づくり」(23.2%)、「興味・関心事や状況、世代が自分と近い人との交流」(20.7%)、「育児・介護・健康・医療・福祉などの情報収集」(20.0%)の順となった。

図表 2 1 - 2 「地域包括ケアシステム」における自助・互助として行ってみたい活動内容
(性別・性年代別) <上位 6 項目>



性別で見ると、「育児・介護・健康・医療・福祉などの情報収集」は女性が男性より 10 ポイント高い結果となった。

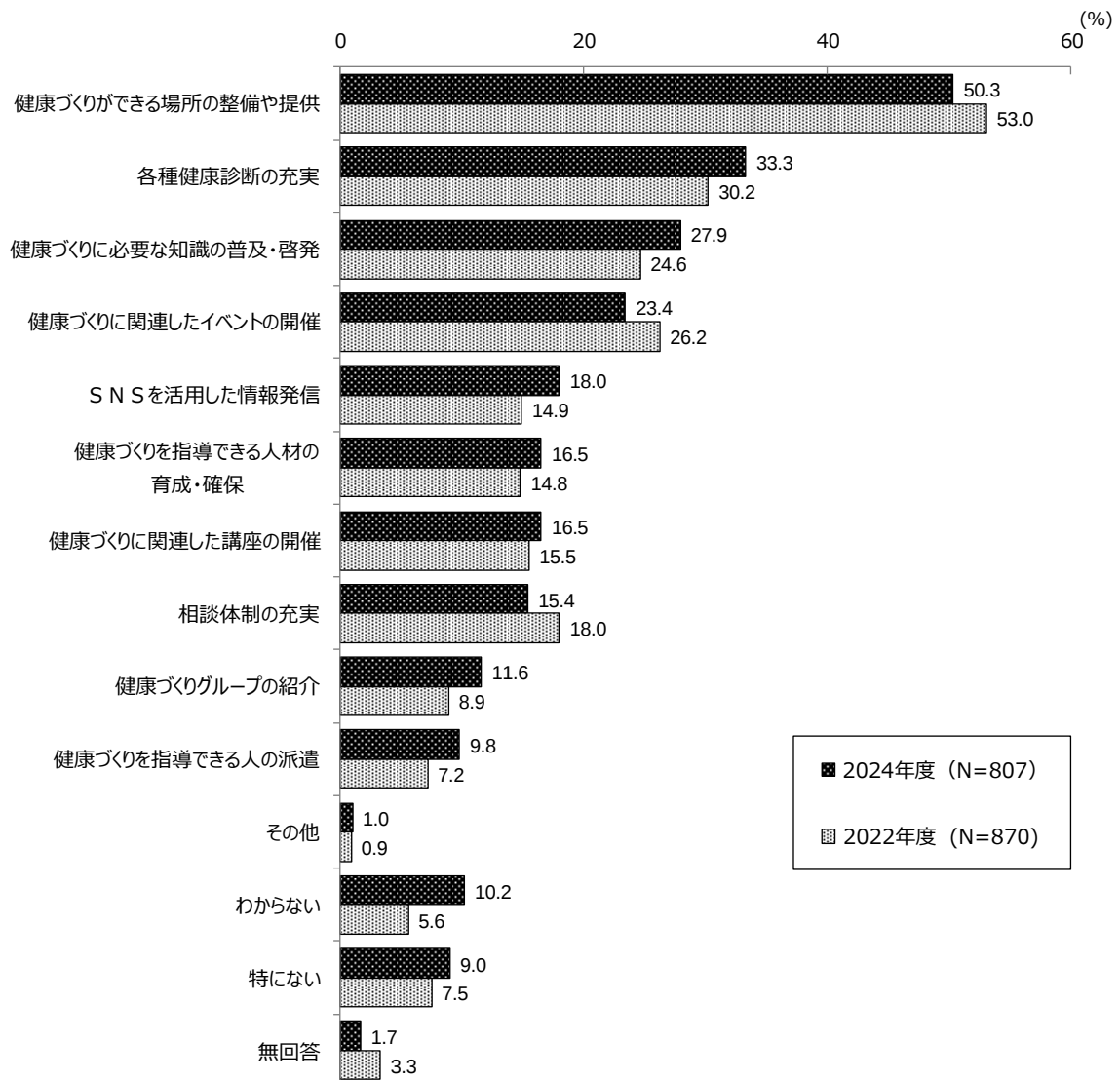
性年代別で見ると、「興味・関心事や状況、世代が自分と異なる人との交流」は男性 60~69 歳(29%)が他の性年代に比べて高い結果となった。

(22) 健康づくり推進のため、重要だと思う取組

問14 自助（生きがいつくり・健康づくりなど）の取組についてお伺いします。区民の健康づくりを推進するために、どのような取組が重要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

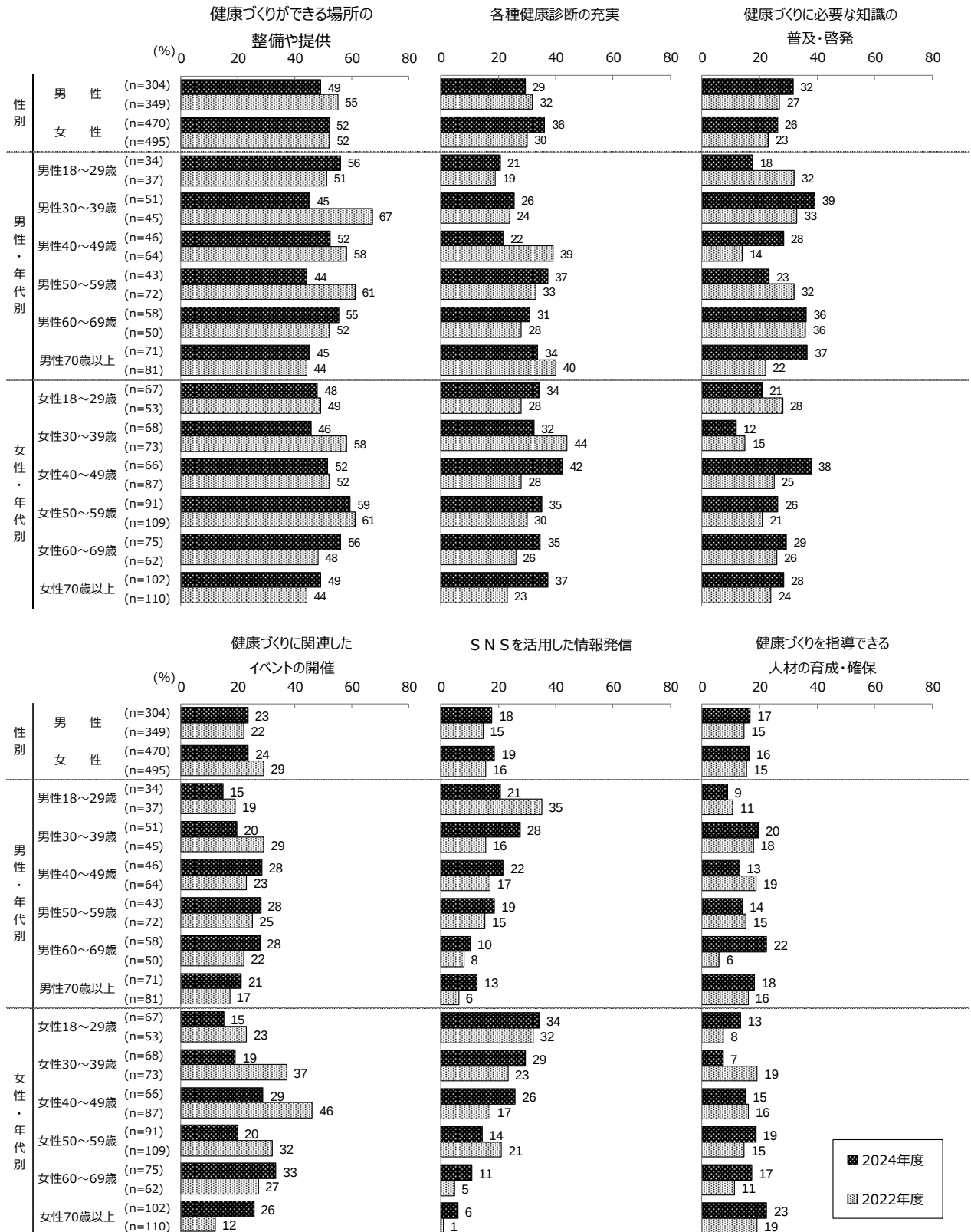
※2022年度は3つまでの回答として聴取

図表22-1 健康づくり推進のため、重要だと思う取組



「健康づくり推進のため、重要だと思う取組」について聞いたところ、「健康づくりができる場所の整備や提供」(50.3%)が最も高く、次いで「各種健康診断の充実」(33.3%)、「健康づくりに必要な知識の普及・啓発」(27.9%)、「健康づくりに関連したイベントの開催」(23.4%)の順となった。

図表 2 2 - 2 健康づくり推進のため、重要だと思う取組(性別・性年代別) <上位 6 項目>



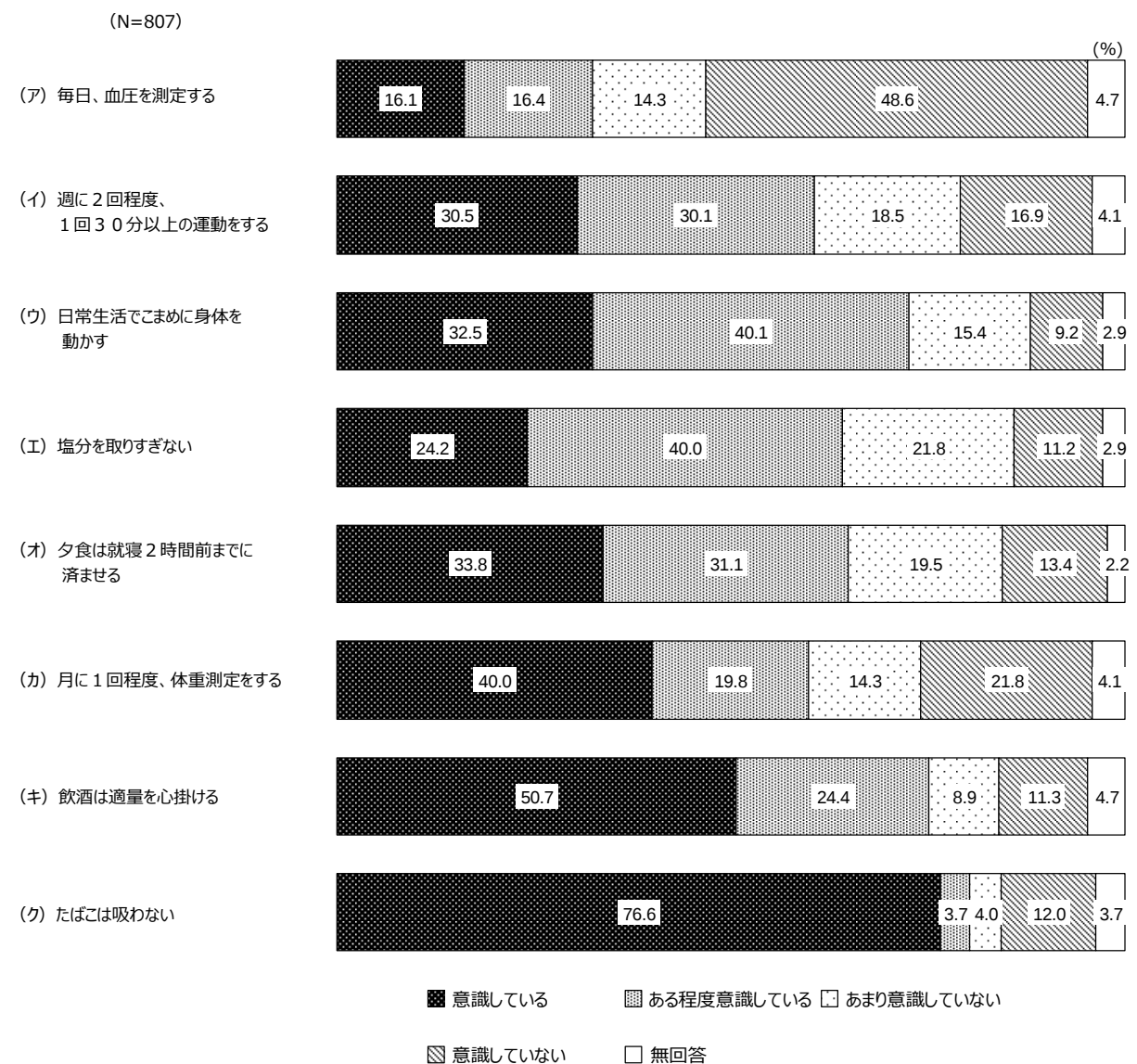
性別で見ると、「各種健康診断の充実」は男性より女性が7ポイント、「健康づくりに必要な知識の普及・啓発」は女性より男性が6ポイント高い結果となった。

性年代別で見ると、「各種健康診断の充実」は女性40~49歳で40%を超える高い結果となった。

(23) 日々の健康づくりとして意識していること

問15 あなたは日々の健康づくりとして、次にあげる項目についてどの程度意識していますか。
(○はそれぞれ1つつ)

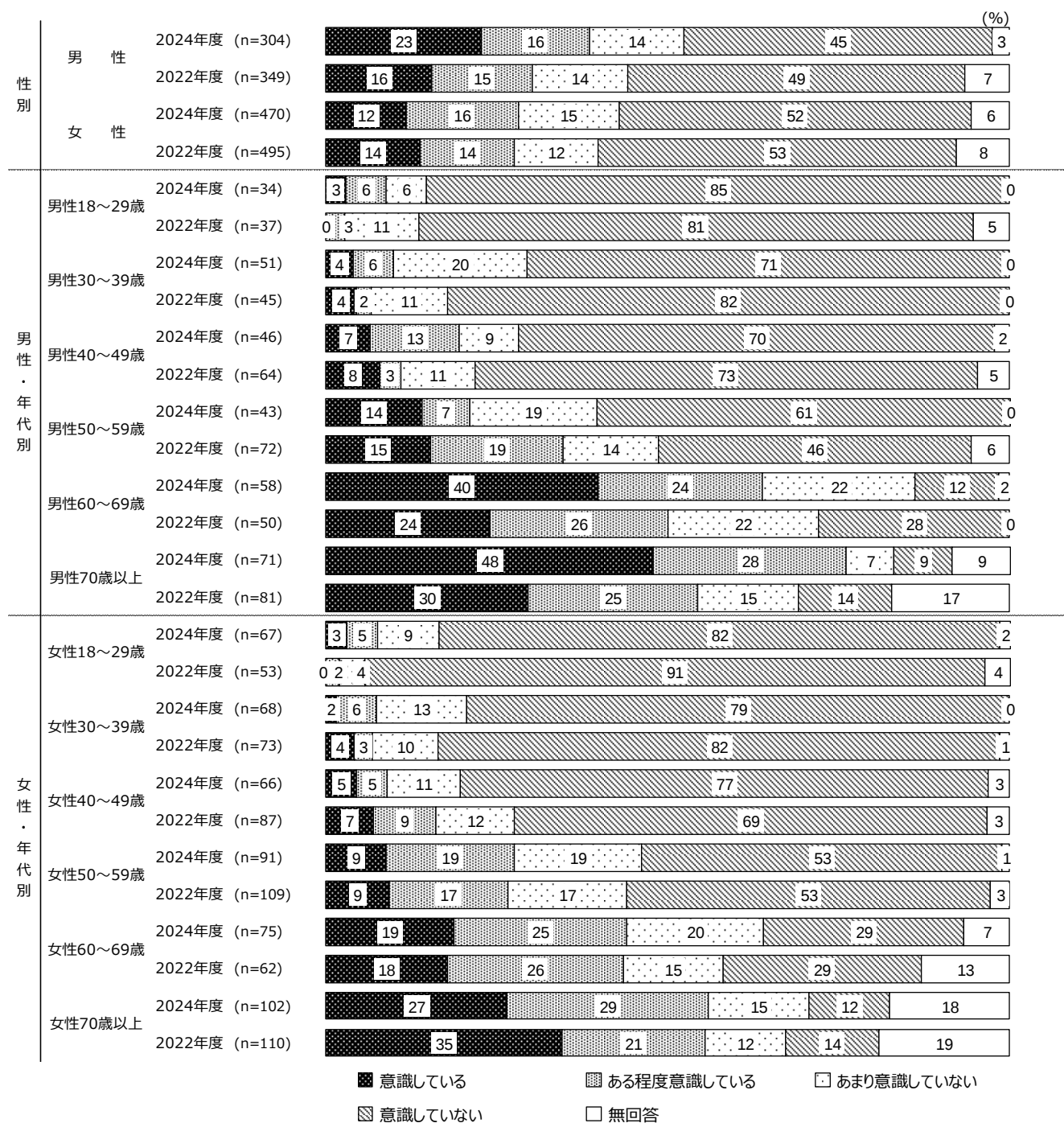
図表23-1 日々の健康づくりとして意識していること



「日々の健康づくりとして意識していること」について聞いたところ、「意識している」と「ある程度意識している」を合わせた『意識している計』は、「たばこを吸わない」(80.3%)が最も高く、次いで「飲酒は適量を心掛ける」(75.1%)、「日常生活でこまめに身体を動かす」(72.6%)の順となった。

図表 2 3 - 2 日々の健康づくりとして意識していること（性別・性年代別）

問 1 5. （ア）毎日、血圧を測定する



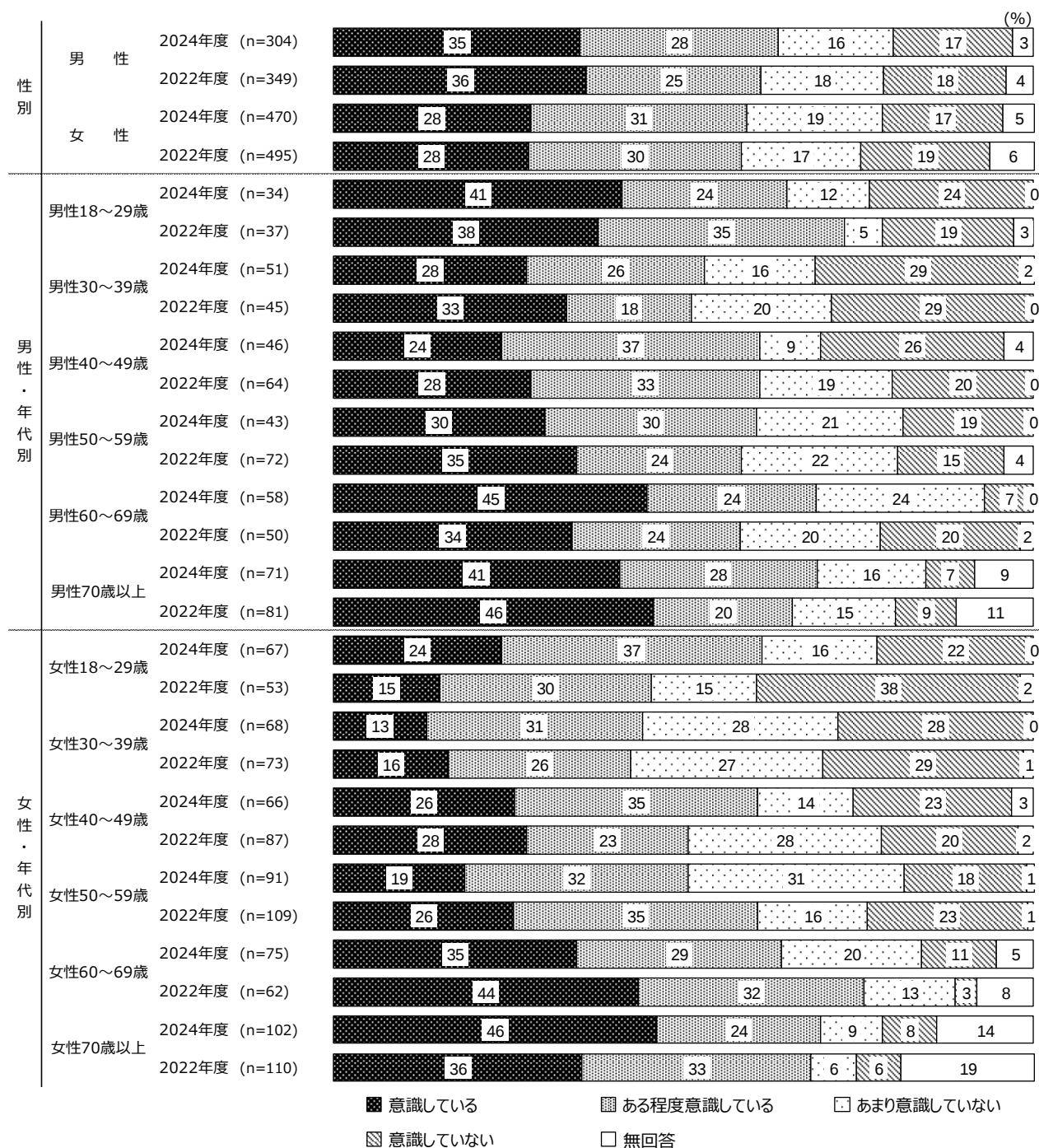
性別で見ると、「毎日、血圧を測定する」では、「意識している」と「ある程度意識している」を合わせた『意識している計』で、女性より男性が 11 ポイント高い結果となった。

性年代別で見ると、『意識している計』は男女とも年代が上がるほど高くなっており、特に男性 70 歳以上は 76% と高い結果となった。

2022 年度と比較して見ると、「意識している」は男性 60～69 歳で 16 ポイント、男性 70 歳以上で 18 ポイント上昇している。

図表 23-3 日々の健康づくりとして意識していること（性別・性年代別）

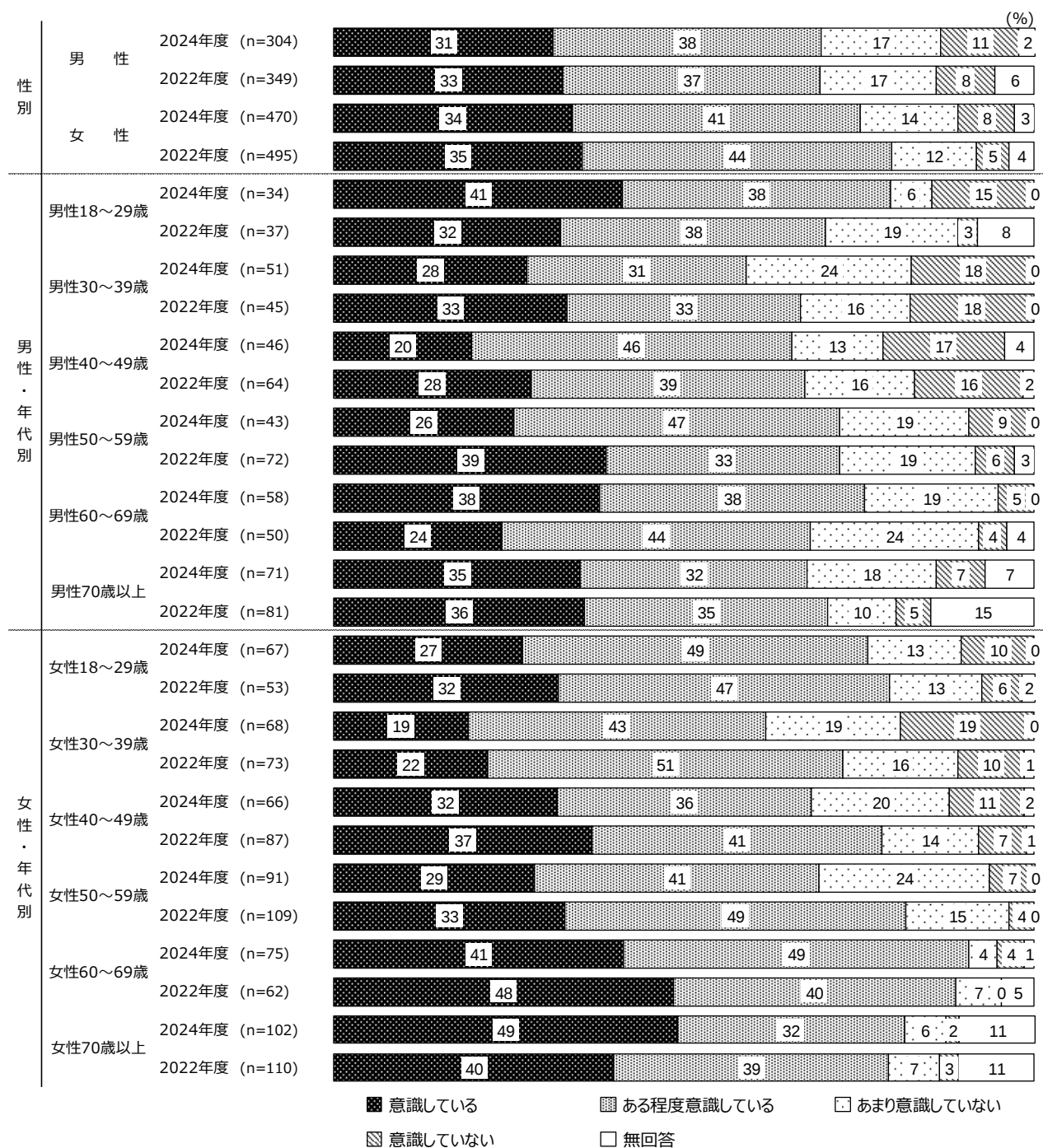
問 15. (イ) 週に2回程度、1回30分以上の運動をする



性年代別で見ると、「週に2回程度、1回30分以上の運動をする」では、「意識している」と「ある程度意識している」を合わせた『意識している計』は、女性70歳以上で70%と高い結果となった。

図表 23-4 日々の健康づくりとして意識していること(性別・性年代別)

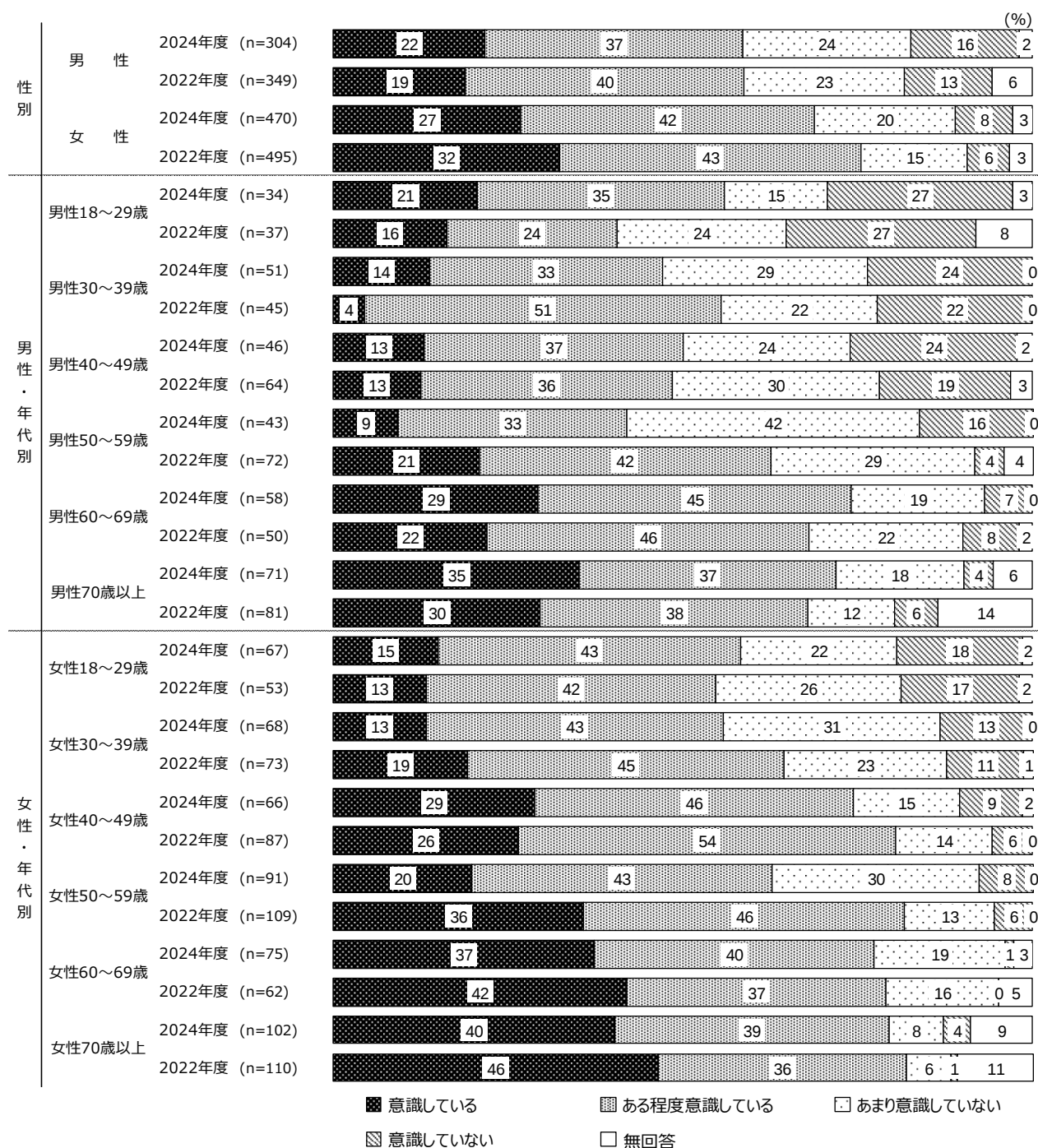
問 15. (ウ) 日常生活でこまめに身体を動かす



性年代別で見ると、「日常生活でこまめに身体を動かす」では、「意識している」と「ある程度意識している」を合わせた『意識している計』は、女性 60~69 歳(90%)、女性 70 歳以上(81%)で 80%を超える高い結果となった。

図表 2 3 - 5 日々の健康づくりとして意識していること（性別・性年代別）

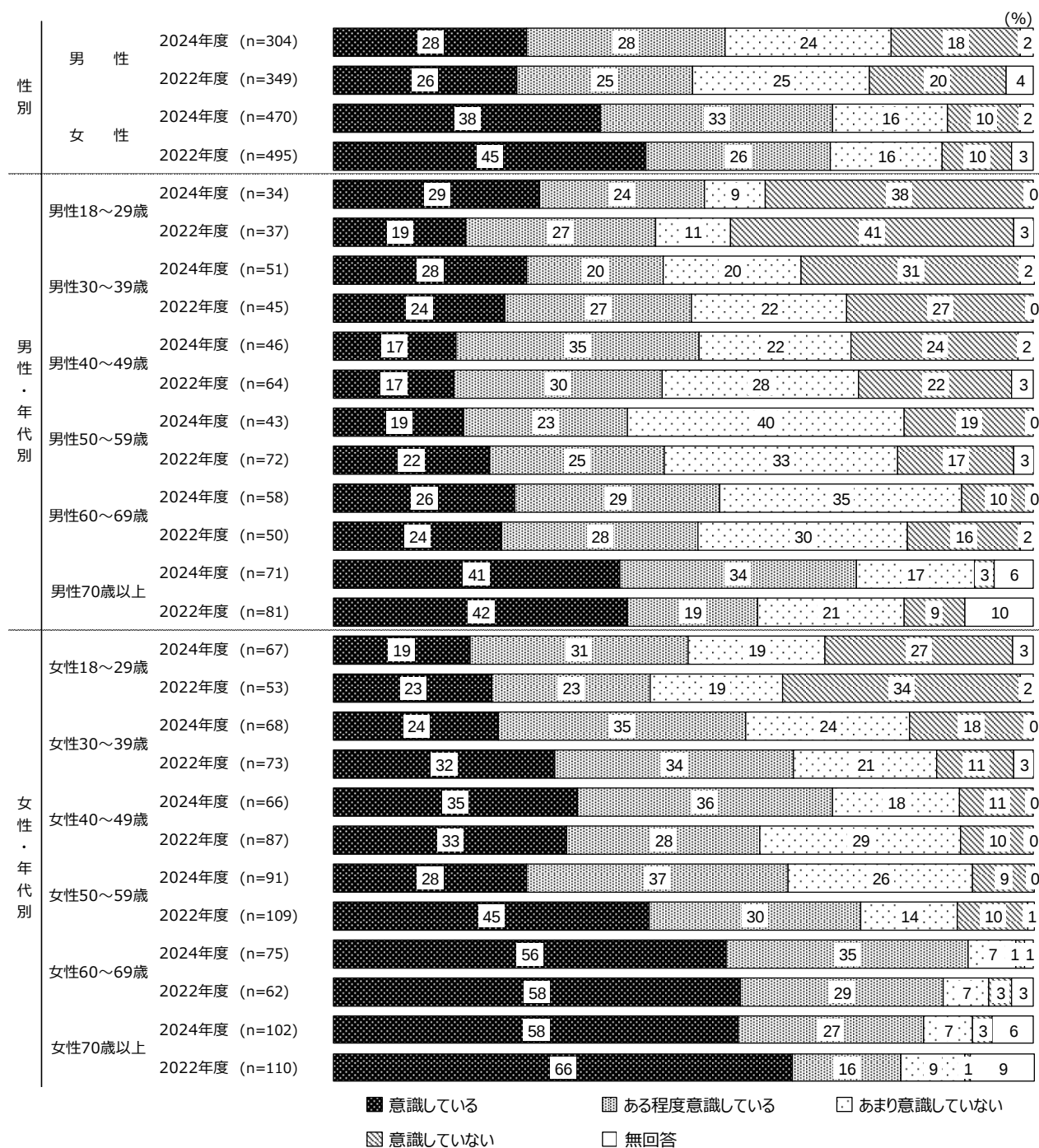
問 1 5. （エ）塩分を取りすぎない



性年代別で見ると、「塩分を取りすぎない」では、「意識している」と「ある程度意識している」を合わせた『意識している計』は、女性 70 歳以上が 79%と最も高い結果となった。

図表 23-6 日々の健康づくりとして意識していること（性別・性年代別）

問 15. （オ）夕食は就寝 2 時間前までに済ませる

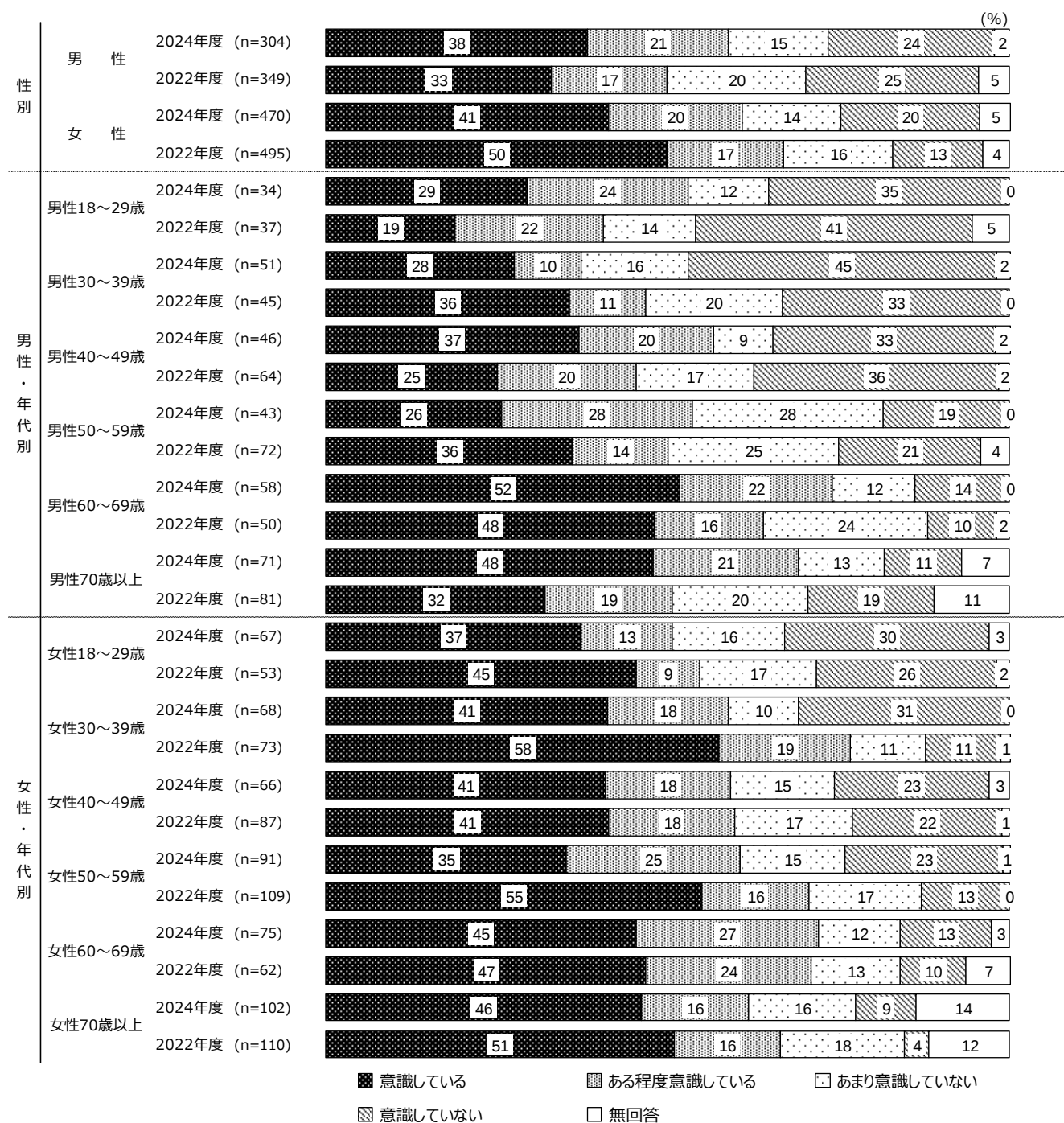


性別で見ると、「夕食は就寝 2 時間前までに済ませる」では、「意識している」と「ある程度意識している」を合わせた『意識している計』は、女性は男性より 15 ポイント高い結果となった。

性年代別で見ると、女性 60～69 歳で 91%、女性 70 歳以上で 85%と高い結果となった。

図表 23-7 日々の健康づくりとして意識していること（性別・性年代別）

問 15. （カ）月に 1 回程度、体重を測定する

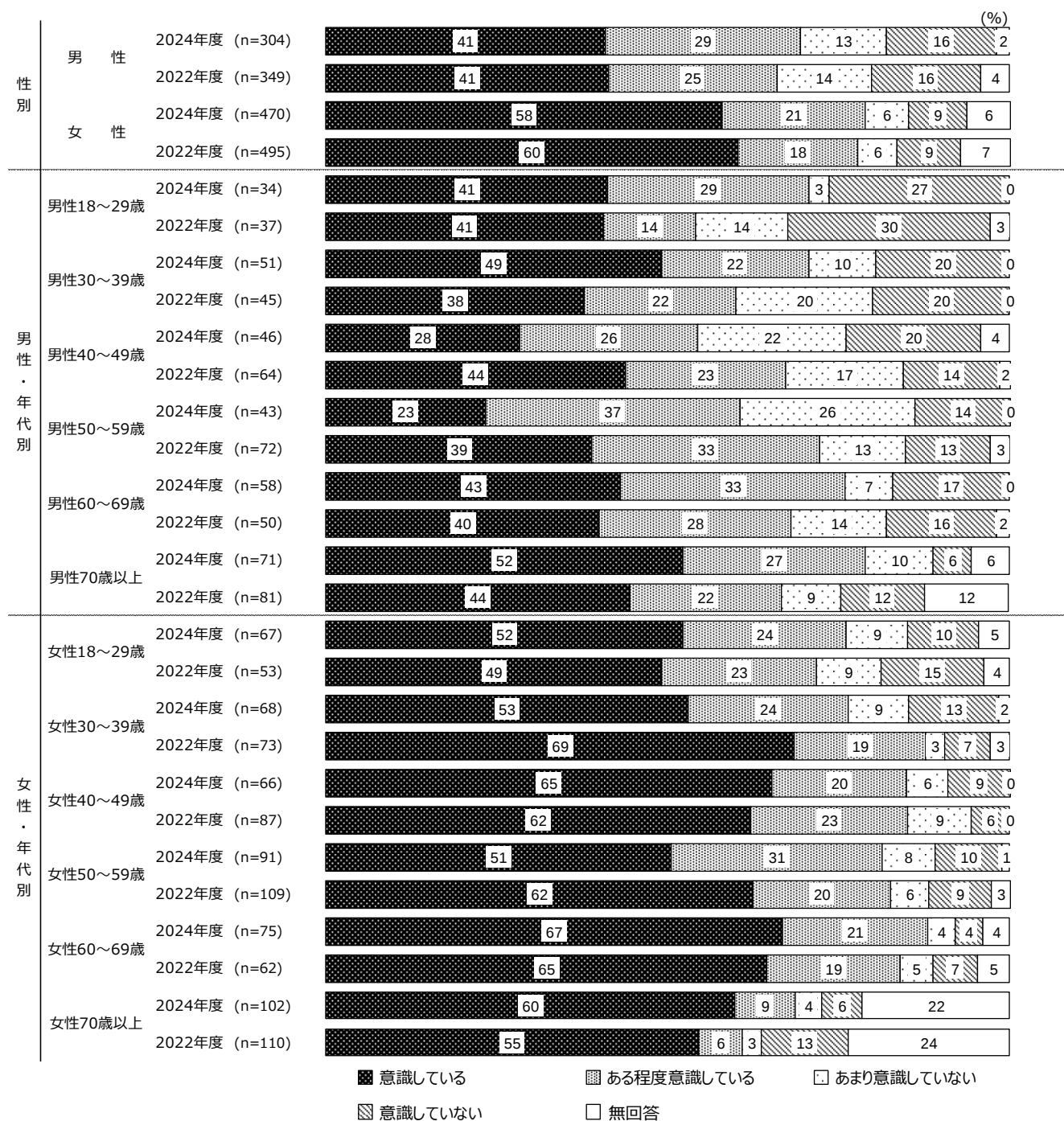


性年代別で見ると、「月に 1 回程度、体重を測定する」では、「意識している」と「ある程度意識している」を合わせた『意識している計』は、男女ともに 60～69 歳で 70%を超える高い結果となった。

2022 年度と比較して見ると、「意識している」は男性 70 歳以上で 16 ポイント上昇する結果となった。

図表 2 3 - 8 日々の健康づくりとして意識していること（性別・性年代別）

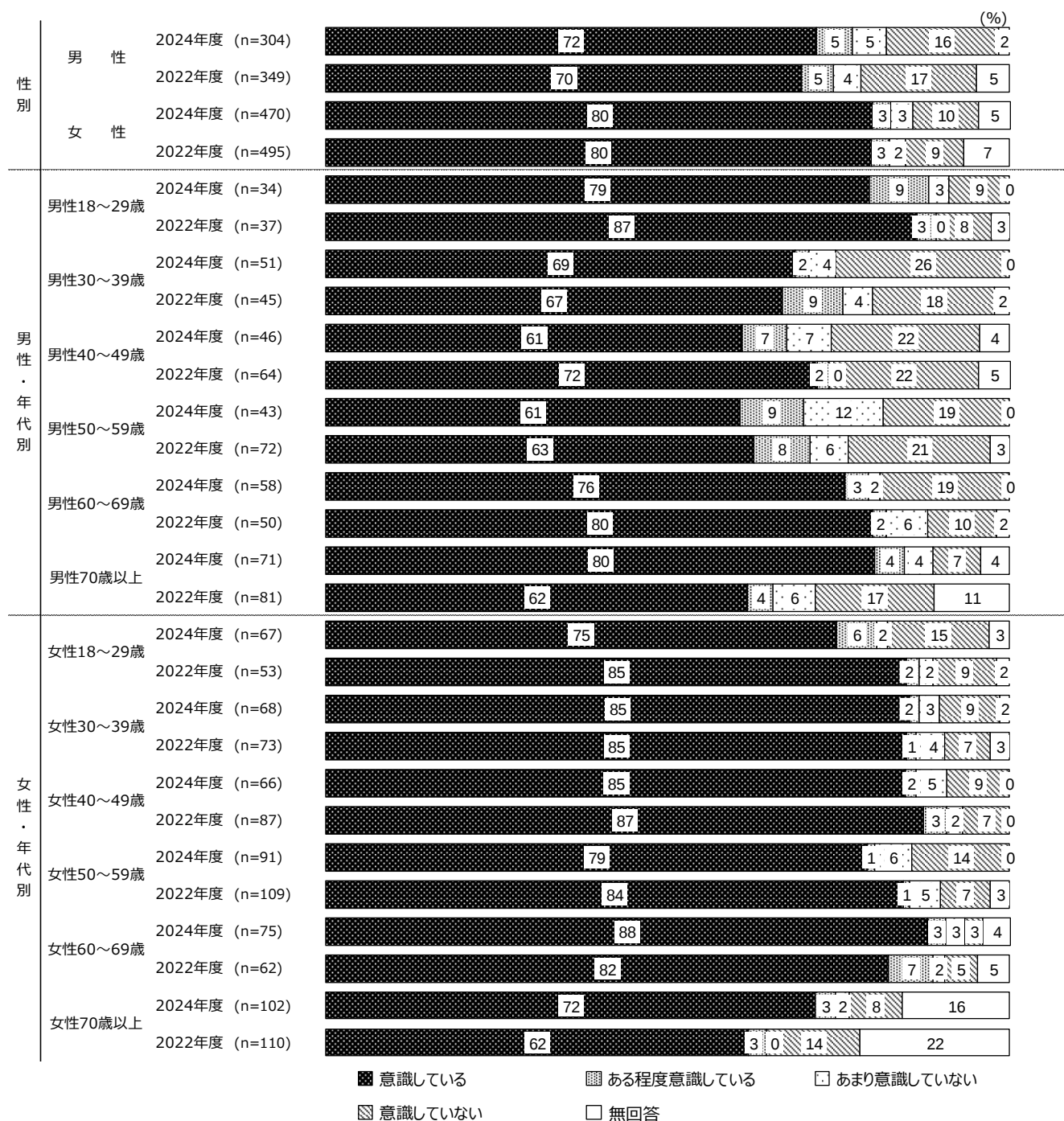
問 1 5. （キ） 飲酒は適量を心掛ける



性年代別で見ると、「飲酒は適量を心掛ける」では、「意識している」と「ある程度意識している」を合わせた『意識している計』は、男性 40～49 歳、男性 50～59 歳を除いて、どの年代でも 60%を超える高い結果となった。

図表 2 3 - 9 日々の健康づくりとして意識していること（性別・性年代別）

問 1 5 . （ク）たばこを吸わない



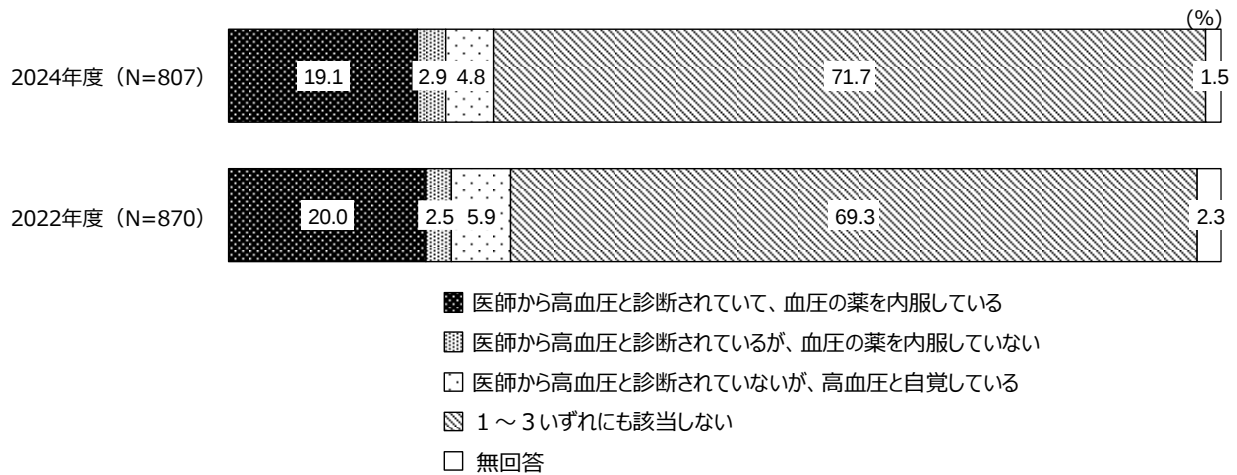
性年代別で見ると、「たばこを吸わない」では、「意識している」は、いずれの性年代でも 60%を超える高い結果となった。

2022 年度と比較して見ると、「意識している」は男性 70 歳以上で 18 ポイント上昇する結果となった。

(24) 高血圧に関する健康状態

問16 多摩区では、健康の維持増進のため、高血圧予防の取組を推進しています。あなたの現在の健康状態について教えてください。(○は1つだけ)

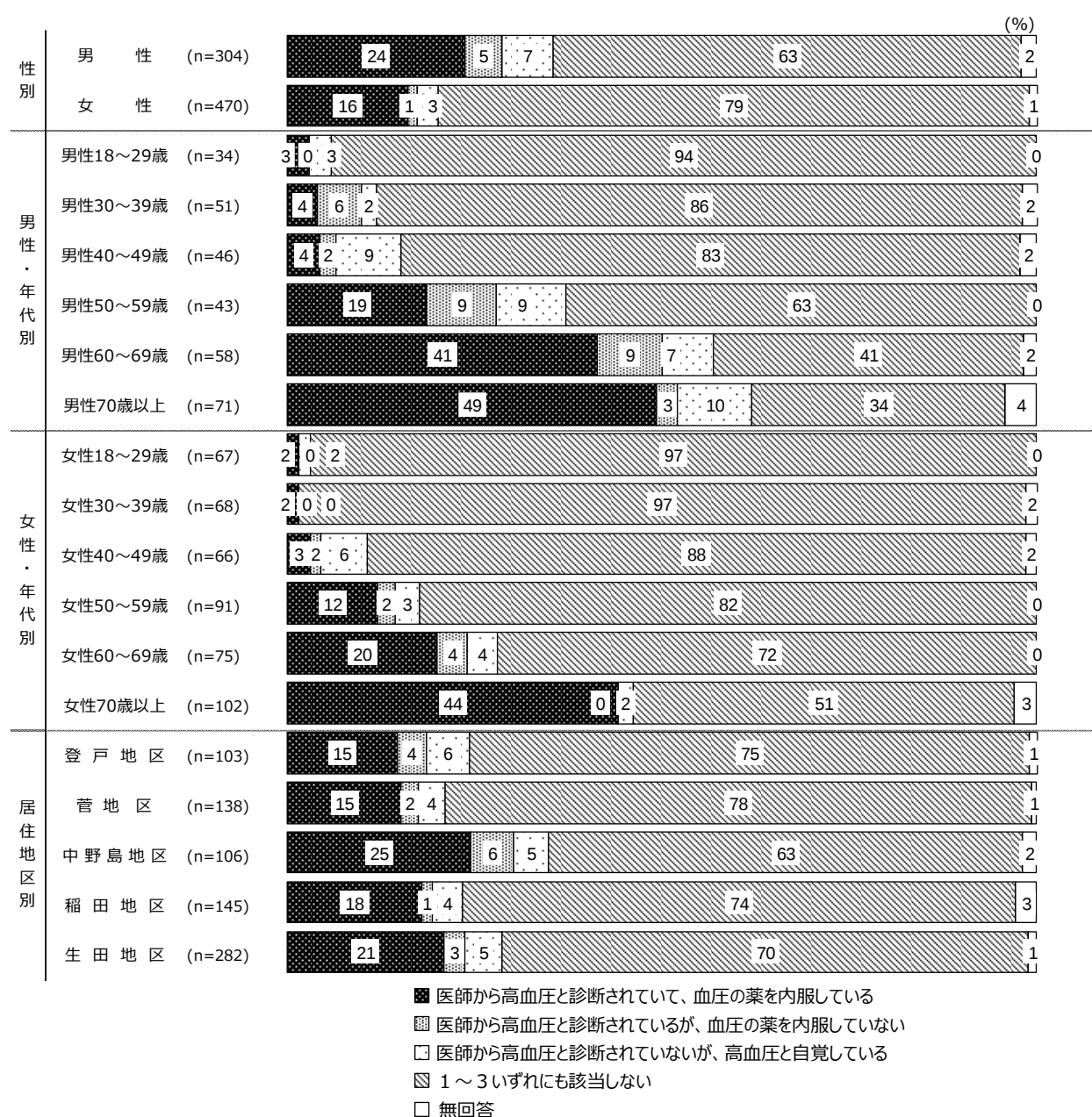
図表 24-1 高血圧に関する健康状態



「高血圧に関する健康状態」について聞いたところ、「いずれにも該当しない」(71.7%)が最も高く、次いで「医師から高血圧と診断されていて、血圧の薬を内服している」(19.1%)、「医師から高血圧と診断されていないが、高血圧と自覚している」(4.8%)、「医師から高血圧と診断されているが、血圧の薬を内服していない」(2.9%)の順となった。

2022年度と比較して見ても大きな差は見られない。

図表 2 4 - 2 高血圧に関する健康状態(性別・性年代別)



性別で見ると、「医師から高血圧と診断されていて、血圧の薬を内服している」は男性が女性より 8 ポイント高い結果となった。

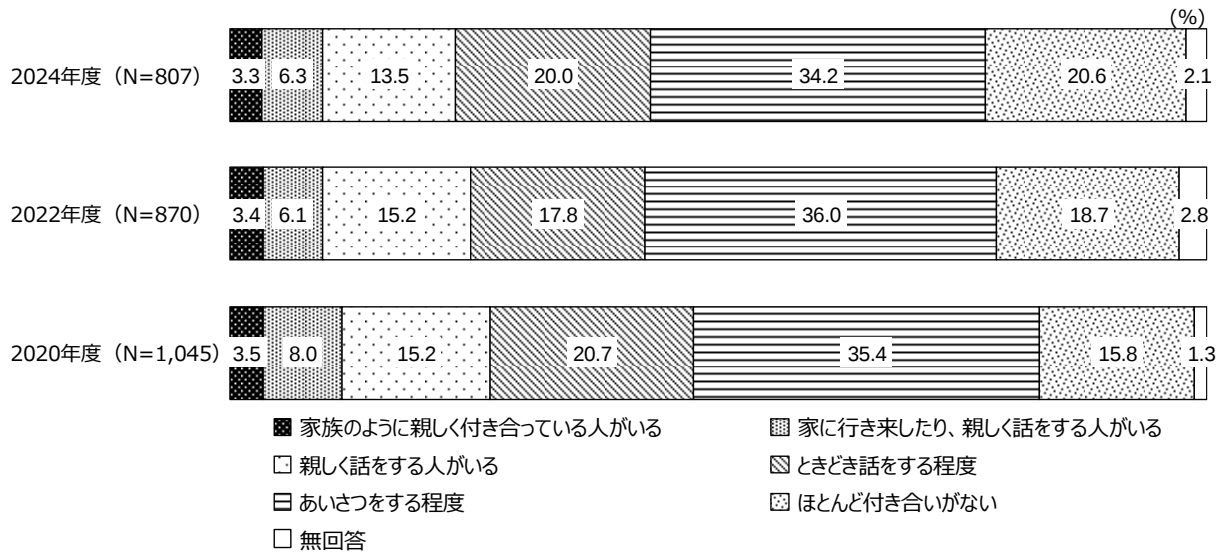
性年代別で見ると、「医師から高血圧と診断されていて、血圧の薬を内服している」は男性 60～69 歳 (41%)、男性 70 歳以上 (49%)、女性 70 歳以上 (44%) で 40% を超える高い結果となった。

居住地区別で見ると、「医師から高血圧と診断されていて、血圧の薬を内服している」は中野島地区 (25%) で他の地区より高い結果となった。

(2 5) 近所付き合いの程度

問17 互助（地域の交流・支え合いなど）の取組についてお伺いします。あなたの近所付き合いは以下のどれにあてはまりますか。（○は1つだけ）

図表 2 5 - 1 近所付き合いの程度

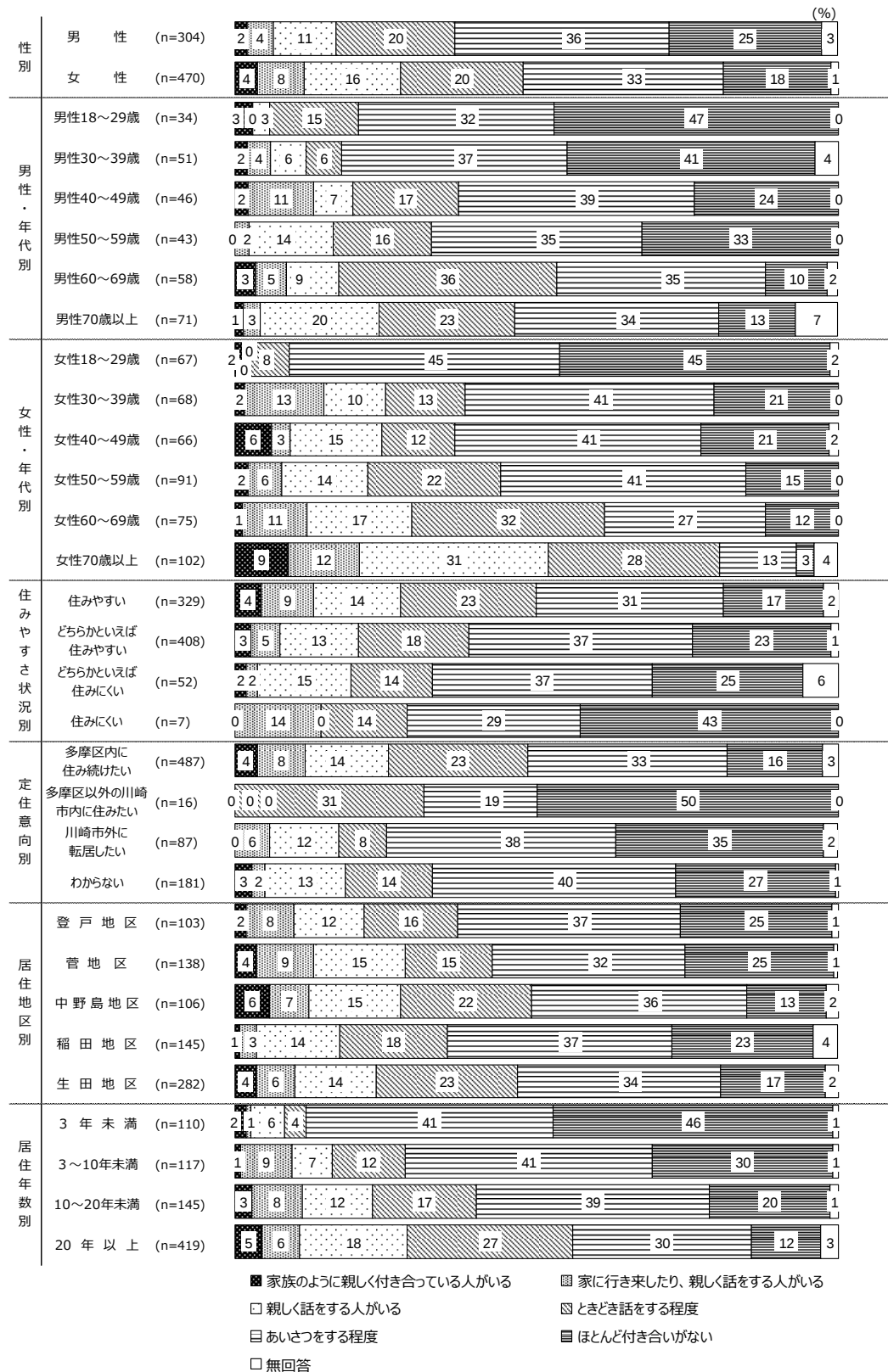


「近所付き合いの程度」について聞いたところ、「あいさつをする程度」(34.2%)が最も高く、次いで「ほとんど付き合いがない」(20.6%)、「ときどき話をする程度」(20.0%)の順となった。

2022年度と比較しても大きな差は見られない。

図表 25-2 近所付き合いの程度

(性別・性年代別・住みやすさ状況別・定住意向別・居住地区別・居住年数別)

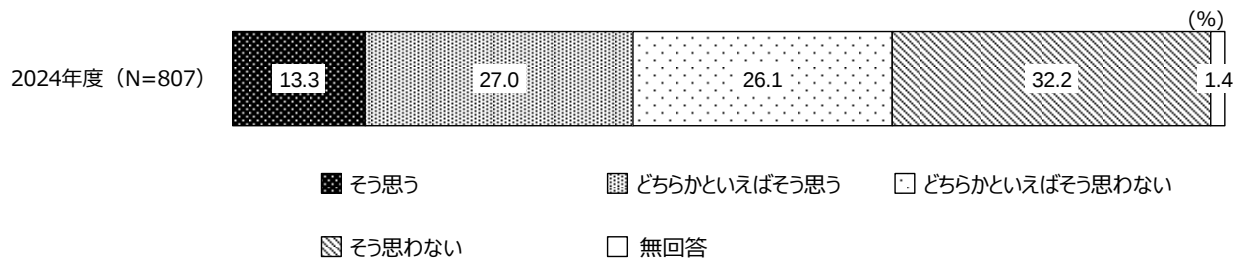


性年代別で見ると、「ほとんど付き合いがない」は男女ともに18～29歳が最も高く、40%を超える結果となった。また、居住年数が短いほど割合が高い傾向となった。

(26) 自分と世代が異なる人との付き合いの状況

問18 日頃の生活で自分と世代が異なる人との付き合いが多いですか。(○は1つだけ)

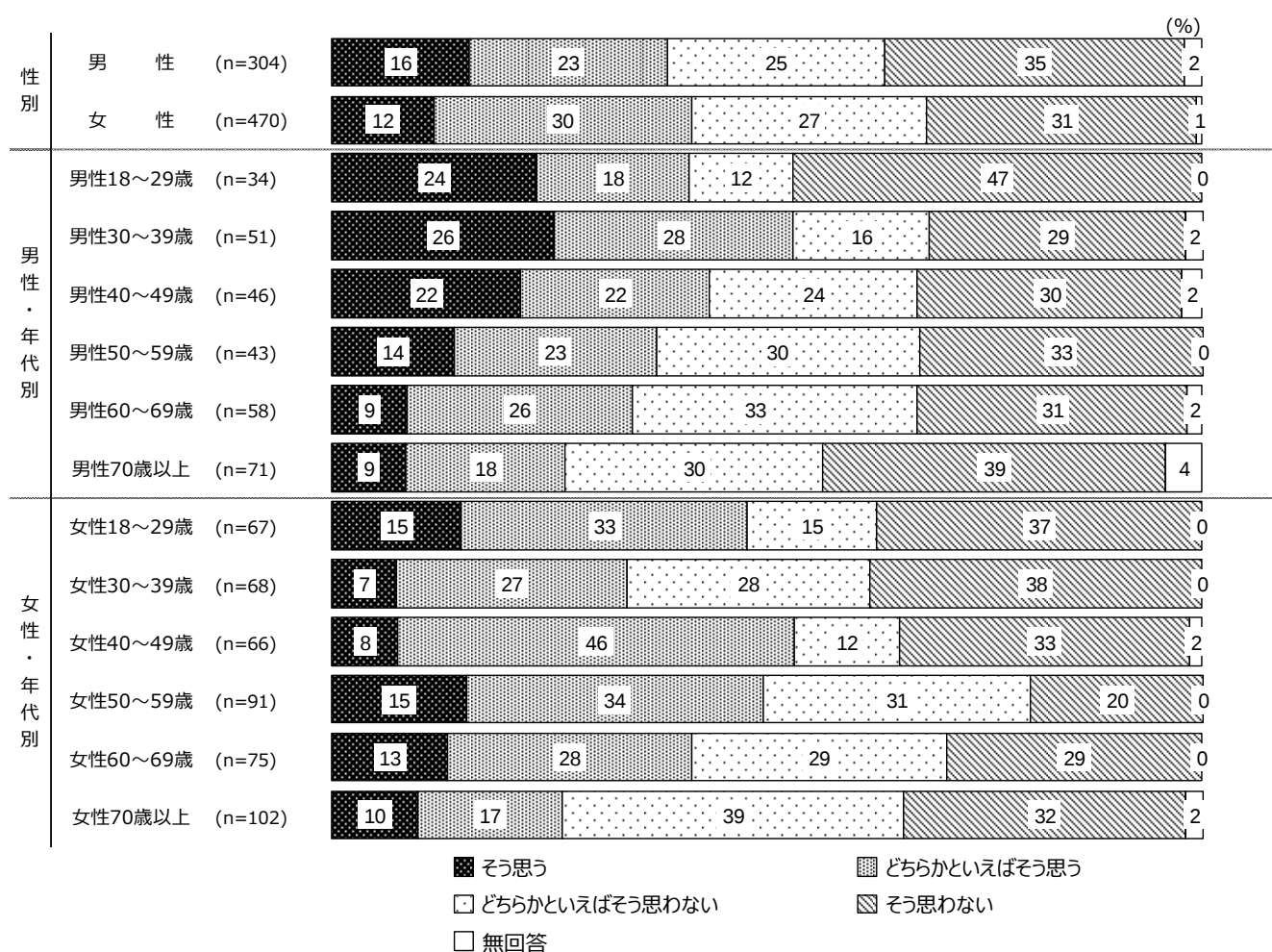
図表26-1 自分と世代が異なる人との付き合いの状況



「自分と世代が異なる人との付き合いの状況」について聞いたところ、「そう思わない」(32.2%)が最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」(27.0%)、「どちらかといえばそう思わない」(26.1%)、「そう思う」(13.3%)の順となった。

「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『そう思わない計』(58.3%)のほうが「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う計』(40.3%)より、18ポイント高い結果となった。

図表 2 6 - 2 自分と世代が異なる人との付き合いの状況(性別・性年代別)

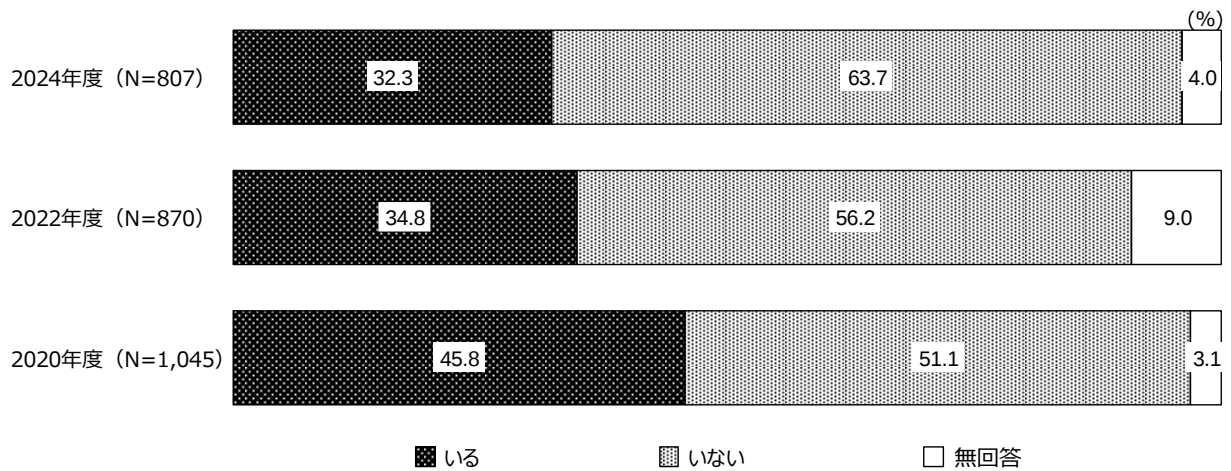


性年代別で見ると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う計』は男性 30～39 歳 (54%)、女性 40～49 歳 (54%) で 50% を超える高い結果となった。

(2 7) 近所に手助けを頼める人の有無

問19 困ったとき、近所にちょっとした手助けを頼める人はいますか。(○は1つだけ)

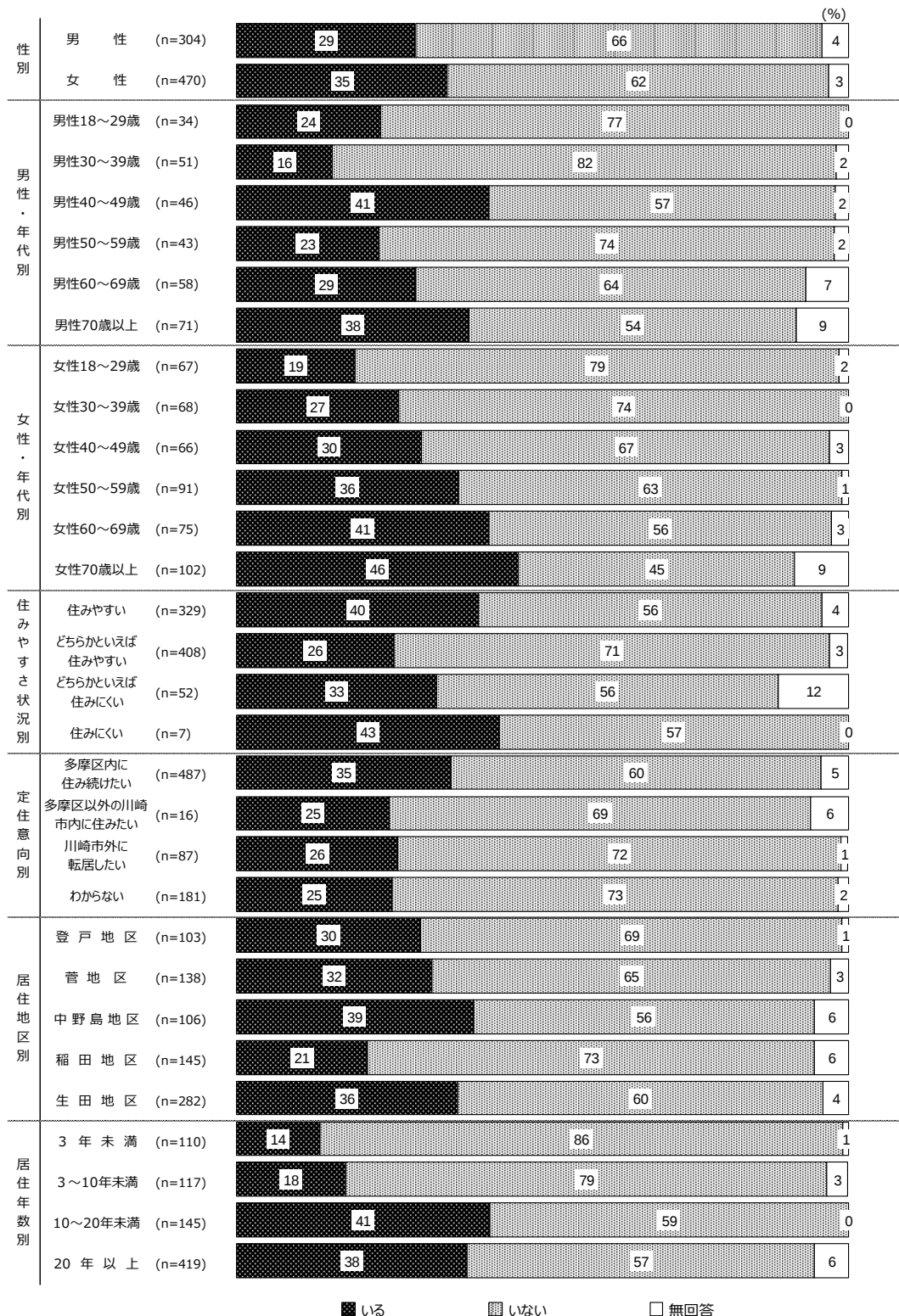
図表 2 7 - 1 近所に手助けを頼める人の有無



「近所に手助けを頼める人の有無」について聞いたところ、「いる」が 32.3%、「いない」が 63.7%となった。

2022 年度と比較すると「いる」は 2.5 ポイント減少し、年々減少する結果となった。

図表 27-2 近所に手助けを頼める人の有無
(性別・性年代別・住みやすさ状況別・定住意向別・居住地区別・居住年数別)



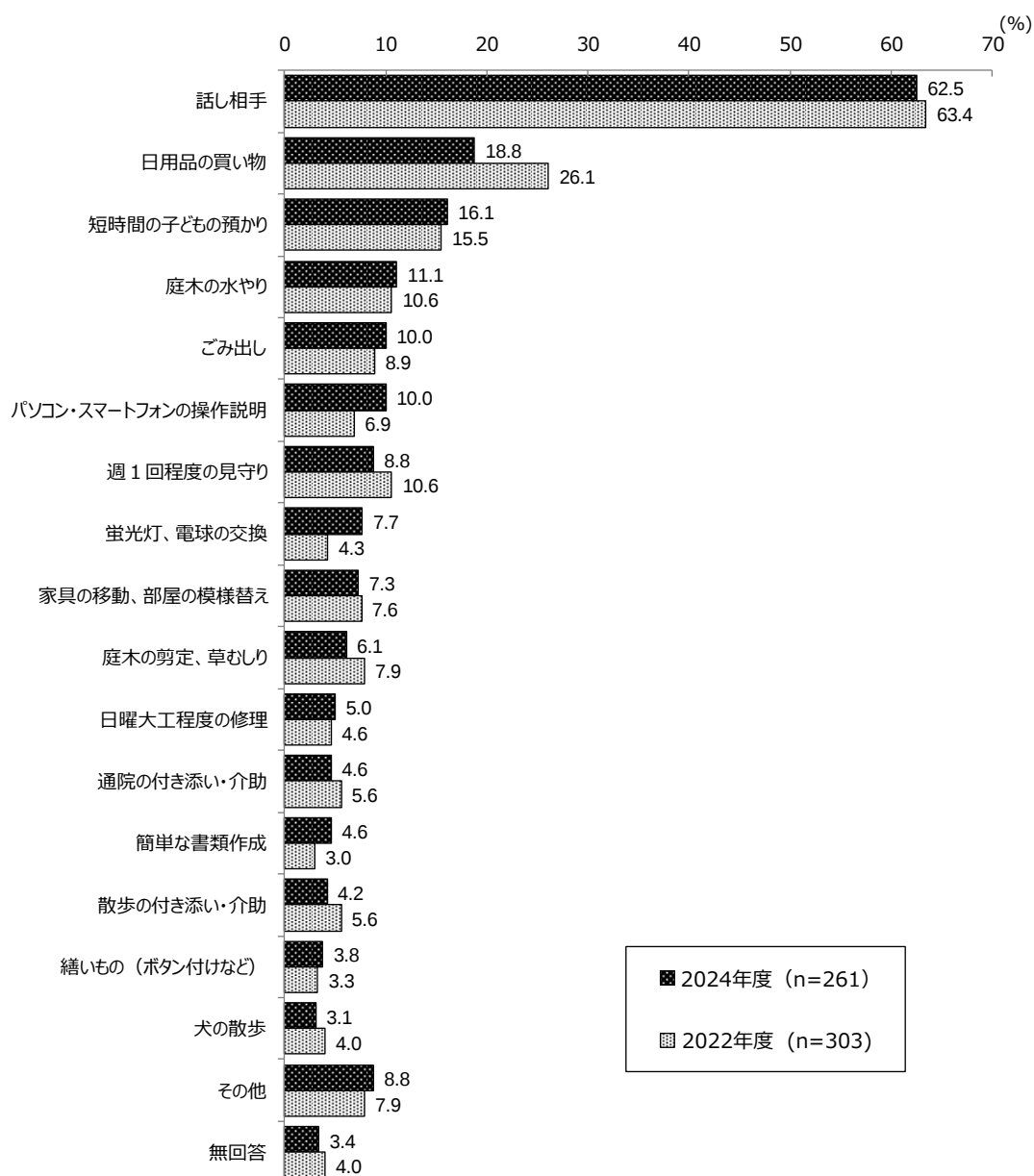
性別で見ると、「いる」は男性より女性のほうが6ポイント高い結果となった。

性年代別で女性は年齢が上がるほど「いる」の割合が高くなっており、60歳以上では40%を超える高い結果となった。また、男性40～49歳も40%を超えており他の年代に比べて高くなっている。

(28) 近所に手助けを頼めると思うこと

問20 近所の人にちょっとした手助けとして、どのようなことを頼むことができますか。
(あてはまるものすべてに○)

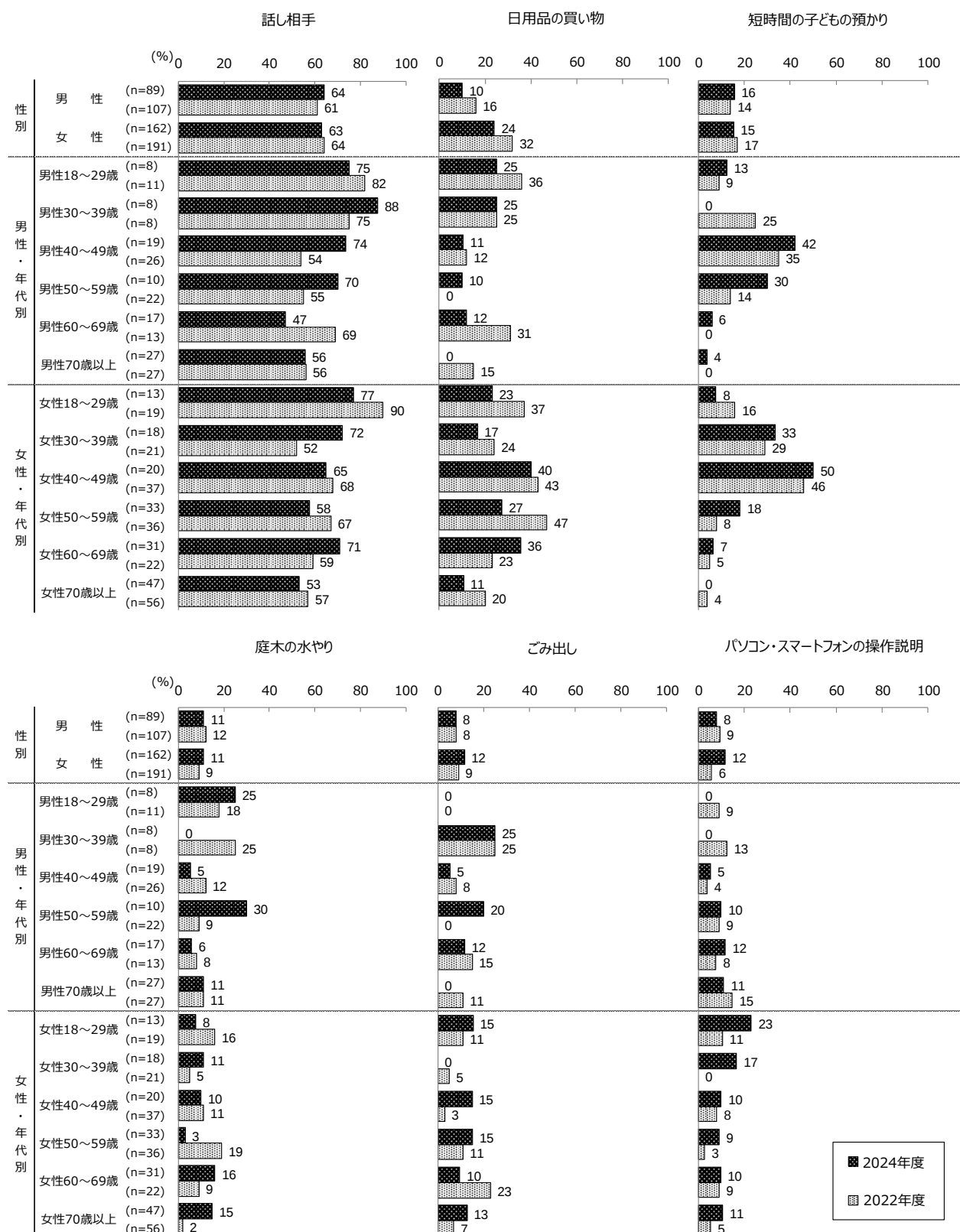
図表28-1 近所に手助けを頼めると思うこと



「近所に手助けを頼めると思うこと」について聞いたところ、「話し相手」(62.5%)が最も高く、次いで「日用品の買い物」(18.8%)、「短時間の子どもの預かり」(16.1%)、「庭木の水やり」(11.1%)の順となった。

2022年度と比較すると、上位3項目は同じ結果となった。

図表 28-2 近所に手助けを頼めると思うこと(性別・性年代別) <上位6項目>



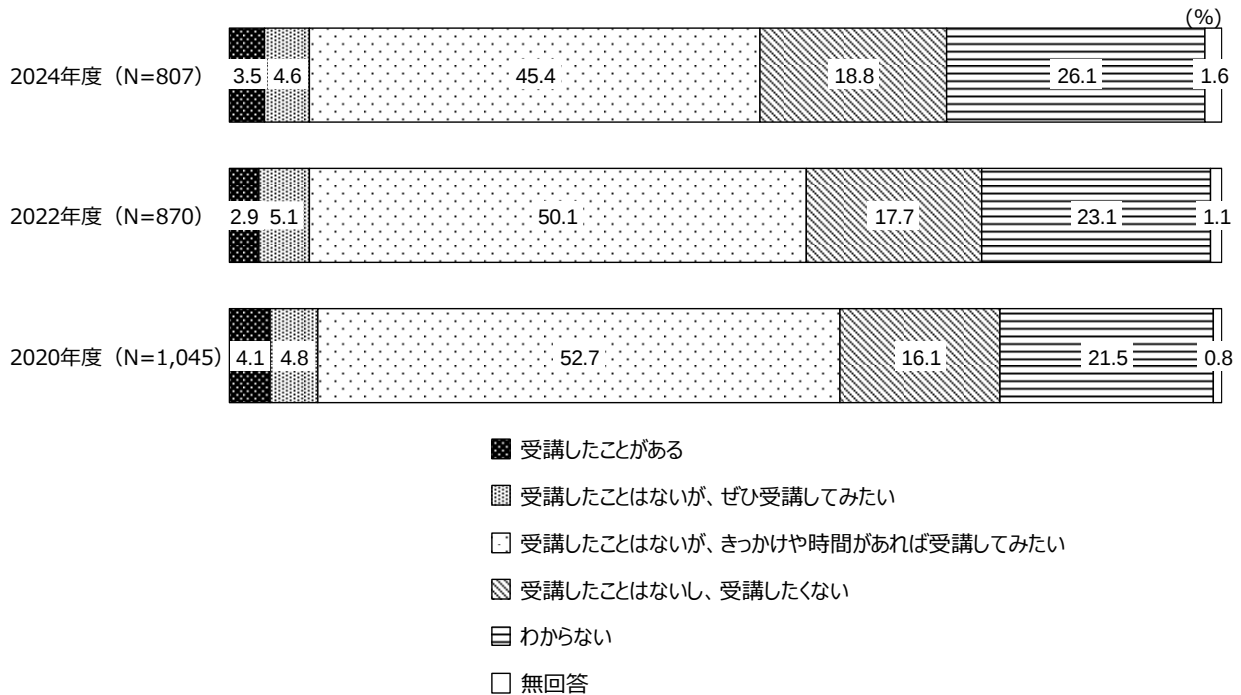
性別で見ると、「日用品の買い物」は男性より女性が14ポイント高い結果となった。

性年代別で見ると、「話し相手」は男性30~39歳が88%と最も高くなっている。「短時間の子どもの預かり」は女性40~49歳(50%)が他の性年代に比べて高い結果となった。

(29)「認知症サポーター養成講座」の受講経験と受講意向

問21 多摩区役所では、認知症を正しく理解し、認知症の方やその家族を見守るために、認知症サポーター養成講座を行っています。この講座を受講したことがありますか。また、受講したいと思いますか。(○は1つだけ)

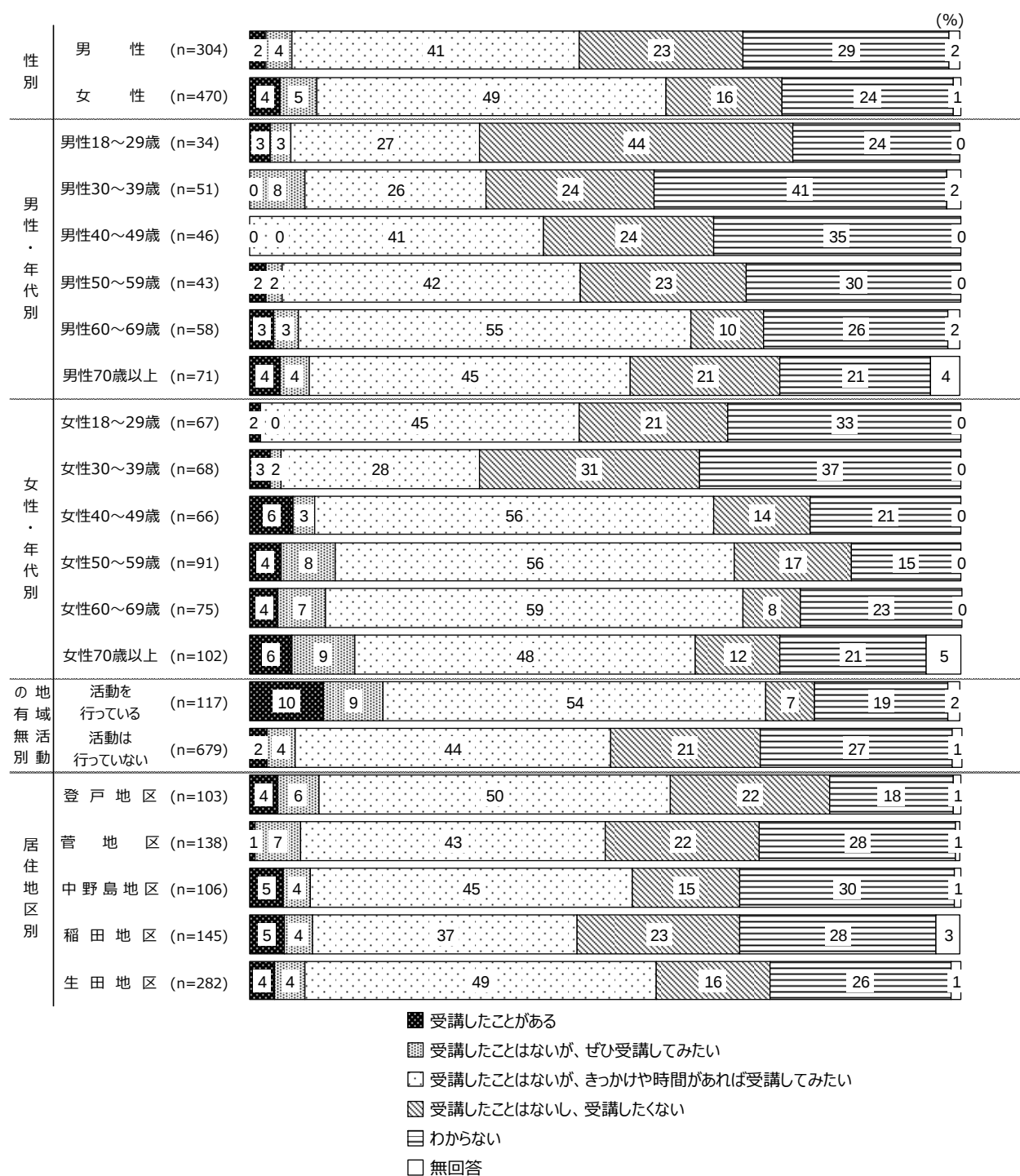
図表 29-1 「認知症サポーター養成講座」の受講経験と受講意向



「『認知症サポーター養成講座』の受講経験と受講意向」について聞いたところ、「受講したことはないが、きっかけや時間があれば受講してみたい」(45.4%)が最も高く、次いで「わからない」(26.1%)、「受講したことはないし、受講したくない」(18.8%)の順となった。

2022年度と比較すると、「受講したことはないが、きっかけや時間があれば受講してみたい」は4.7ポイント減少し、年々減少する結果となった。

図表 29-2 「認知症サポーター養成講座」の受講経験と受講意向
(性別・性年代別・地域活動の有無別・居住地区別)



性別で見ると、「受講したことがある」「受講したことはないが、ぜひ受講してみたい」「受講したことはないが、きっかけや時間があれば受講してみたい」を合わせた『受講したい計』は女性が男性より 11 ポイント高い結果となった。

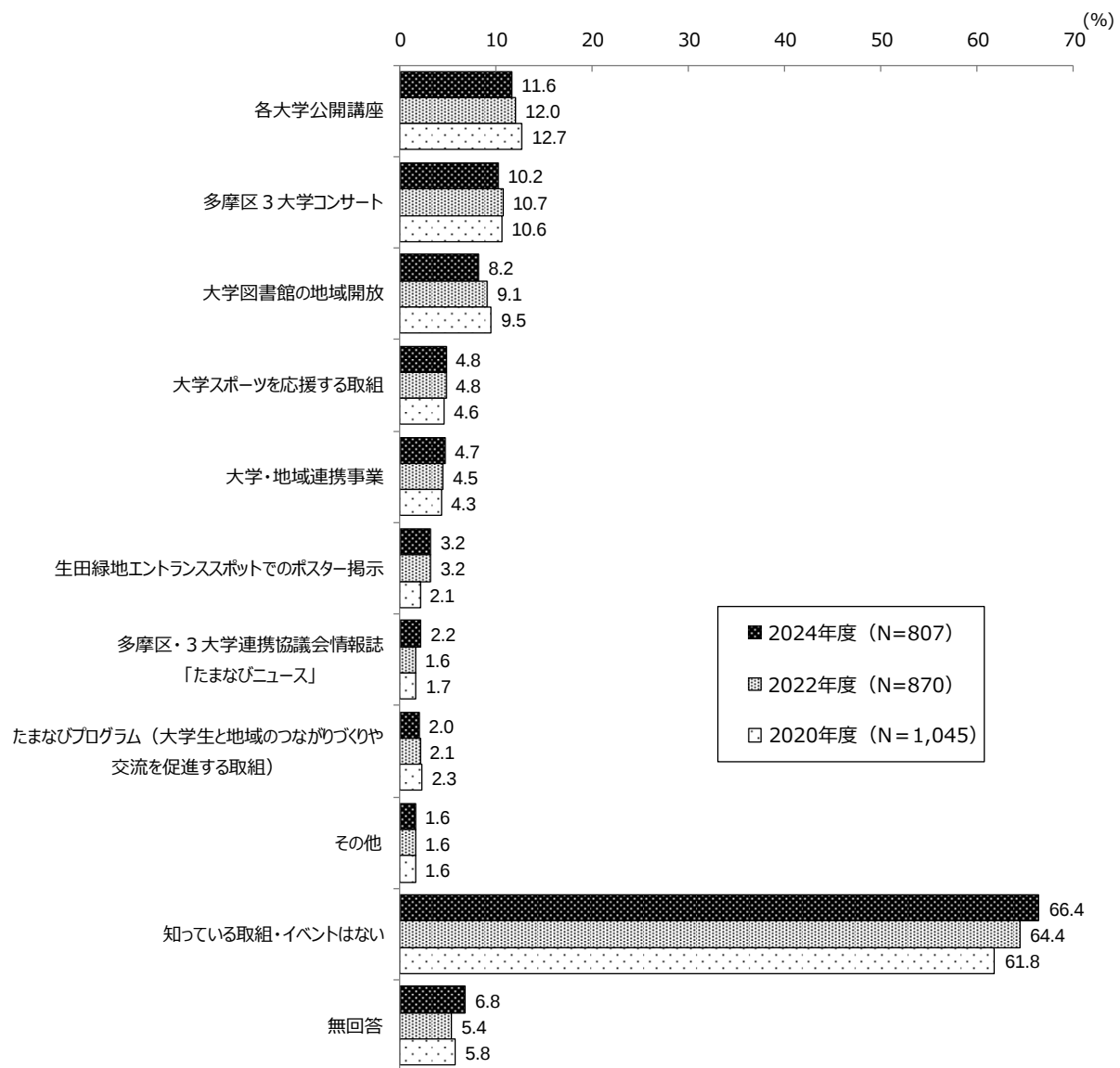
性年代別で見ると、『受講したい計』は、女性 60～69 歳が 70%で、他の性年代よりも高い結果となった。

(30) 知っている3大学関連イベント

問22 多摩区は多摩区とゆかりのある専修、明治、日本女子の3つの大学の持つ知的資源や多彩な人材を活用したさまざまな取組を通して、大学と地域社会との交流連携を深めてきました。あなたが知っている大学・大学生が関連したイベントや取組などがありますか。

(あてはまるものすべてに○)

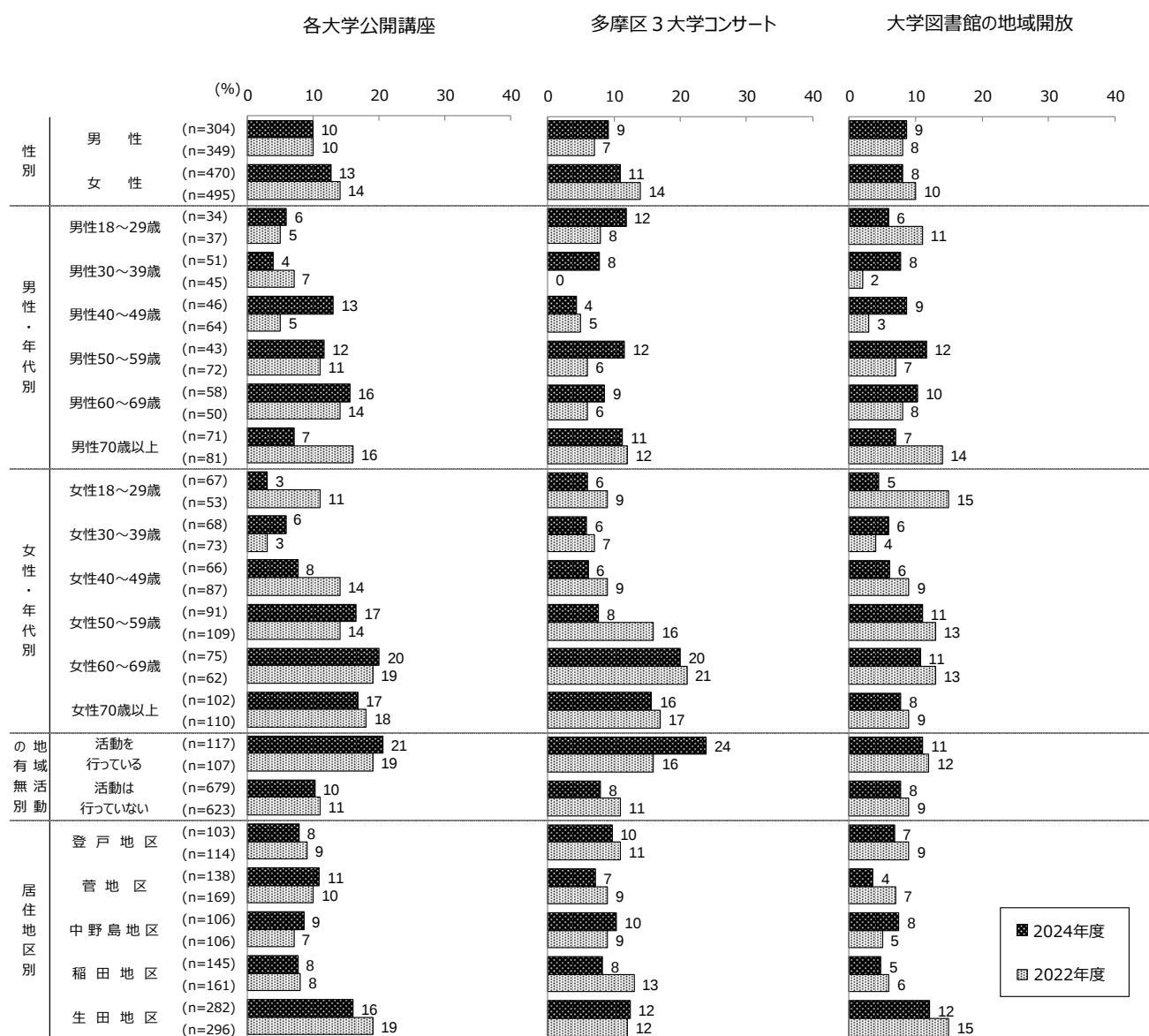
図表30-1 知っている3大学関連イベント



「知っている3大学関連イベント」について聞いたところ、「知っている取組・イベントはない」が66.4%と最も高い結果となった。

知っているイベントで見ると、「各大学公開講座」(11.6%)、「多摩区3大学コンサート」(10.2%)、「大学図書館の地域開放」(8.2%)の順となり、上位3項目は過去2回の調査と同じ結果になった。

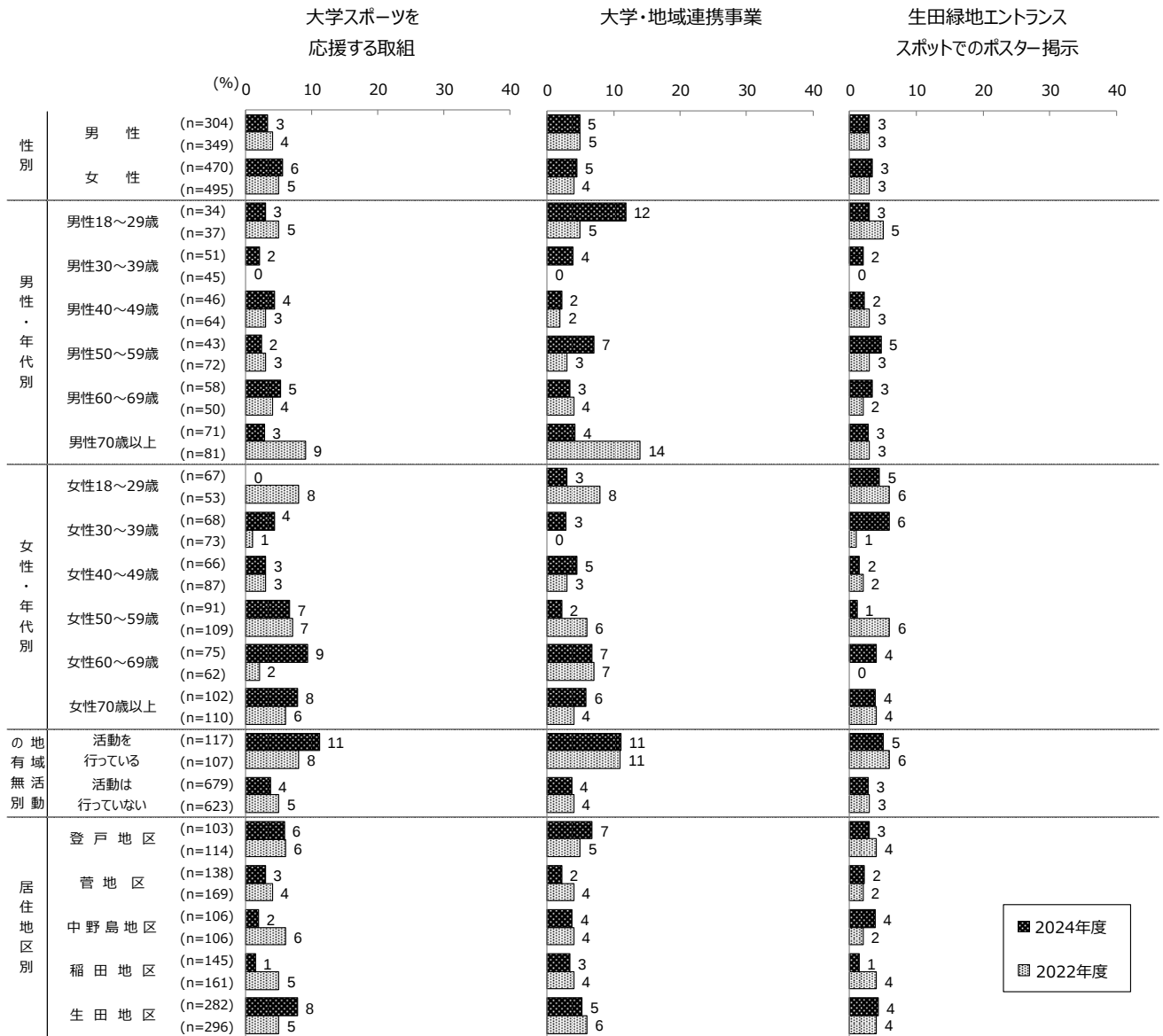
図表 30-2 知っている3大学関連イベント①
(性別・性年代別・地域活動の有無別・居住地区別) <上位6項目>



性年代別で見ると、「各大学公開講座」「多摩区3大学コンサート」はともに女性60~69歳で20%を超え、他の性年代より高い結果となった。また、地域活動の有無別で見ると、「多摩区3大学コンサート」は「活動を行っている」が「活動を行っていない」より16ポイント高い結果となった。

図表 30-3 知っている3大学関連イベント②

(性別・性年代別・地域活動の有無別・居住地区別) <上位6項目>



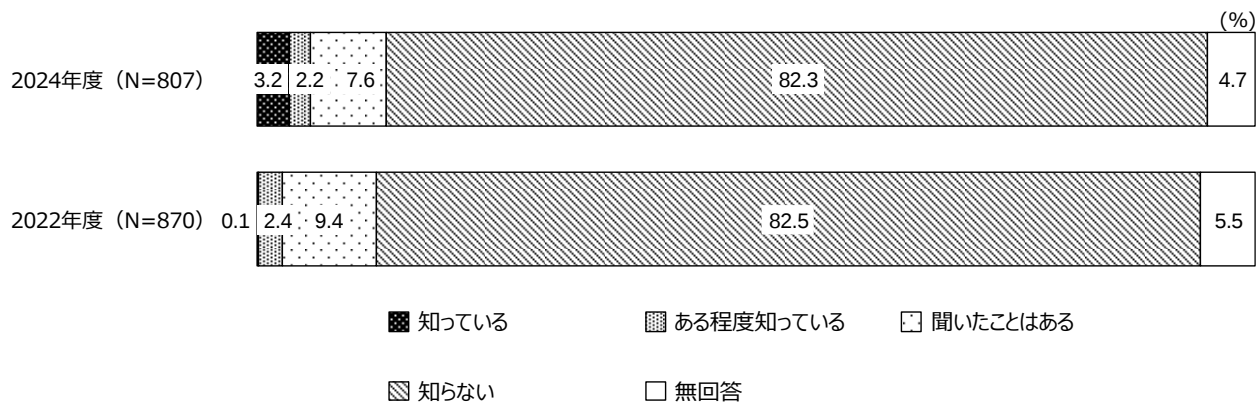
性年代別で見ると、「大学・地域連携事業」は男性 18~29 歳以上(12%)が、他の性年代より高い結果となった。

(31)「多摩区ソーシャルデザインセンター」の認知度

問23 市が策定した「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」における区域レベルの取組として、地域の活動などの下支えや補完をしながら、区の特性に応じた支援策を実施するために、多摩区役所1階に区民主体で開設された「多摩区ソーシャルデザインセンター」を知っていますか。(〇は1つだけ)

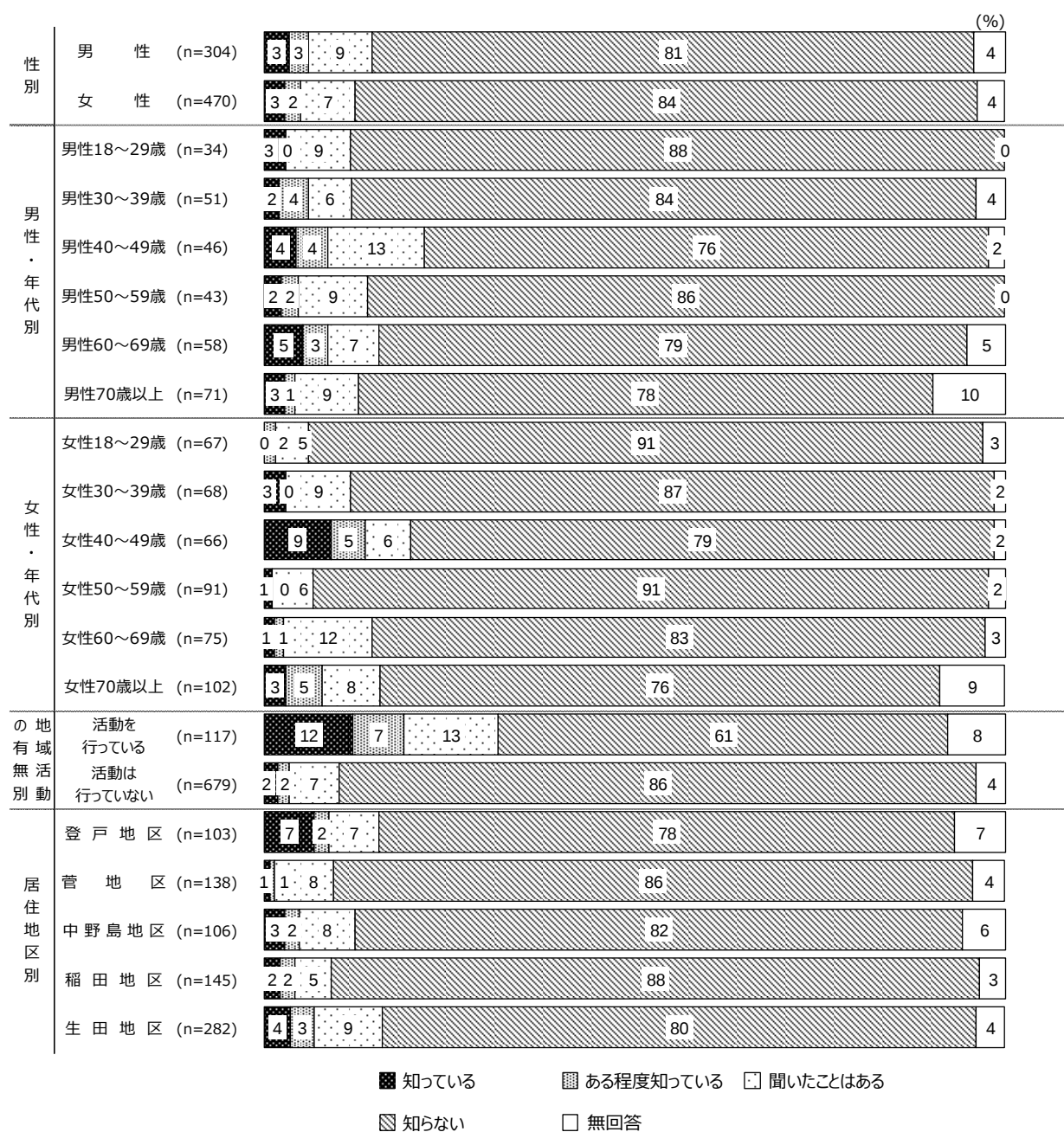
※ 2022年度は「よく知っている」「ある程度知っている」「聞いたことはある」「知らない」の選択肢で聴取

図表31-1 「多摩区ソーシャルデザインセンター」の認知度



「『多摩区ソーシャルデザインセンター』の認知度」について聞いたところ、「知らない」が82.3%と最も高い結果となった。また、「知っている」「ある程度知っている」「聞いたことはある」を合わせた『聞いたことがある計』は13.0%となった。

図表 3 1 - 2 「多摩区ソーシャルデザインセンター」の認知度(性別・性年代別)

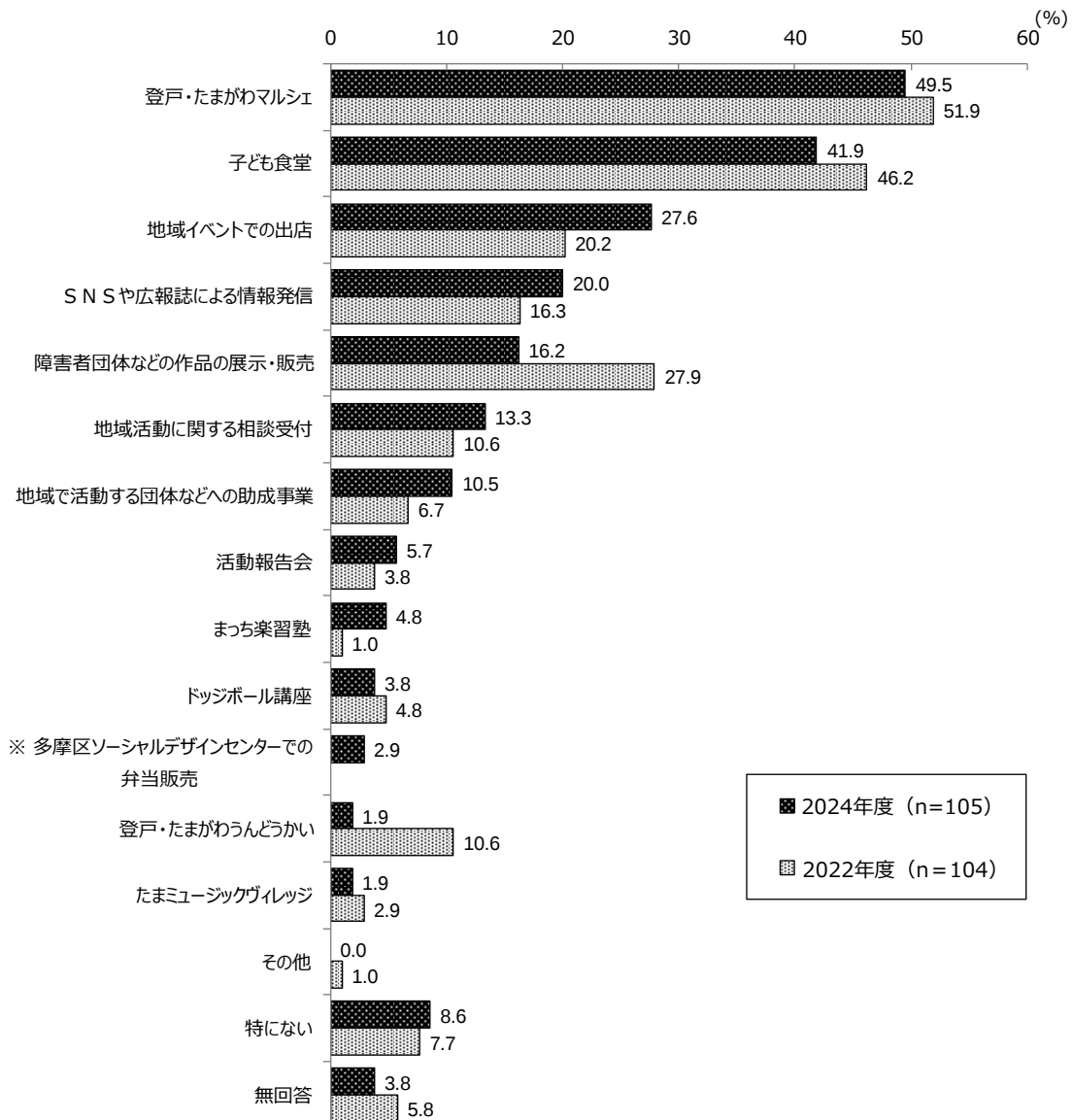


性年代別で見ると、「よく知っている」「ある程度知っている」「聞いたことはある」を合わせた『聞いたことがある計』は男性 40～49 歳 (21%)、女性 40～49 歳 (20%) が他の年代に比べ高い結果となった。

(32)「多摩区ソーシャルデザインセンター」の取組の認知度

問24 多摩区ソーシャルデザインセンターの取組で知っているものはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

図表32-1 「多摩区ソーシャルデザインセンター」の取組の認知度

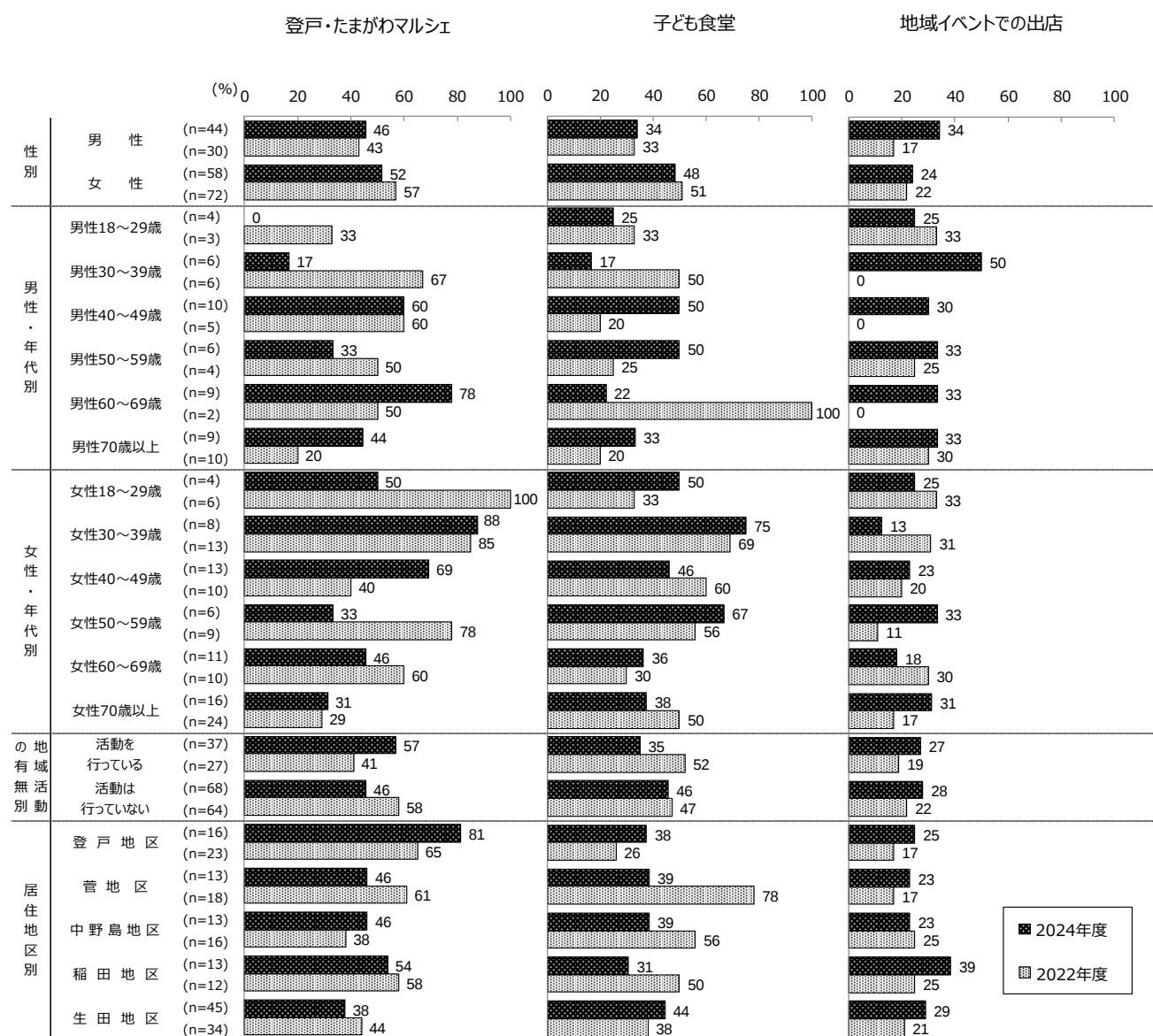


※ 2024年度からの新規項目。2022年度では「多摩区ソーシャルデザインセンターでのパン販売」として聴取

「『多摩区ソーシャルデザインセンター』の取組の認知度」について聞いたところ、「登戸・たまがわマルシェ」(49.5%)が最も高く、次いで「子ども食堂」(41.9%)、「地域イベントでの出店」(27.6%)、「SNSや広報誌による情報発信」(20.0%)の順となった。

図表 3 2 - 2 「多摩区ソーシャルデザインセンター」の取組の認知度①

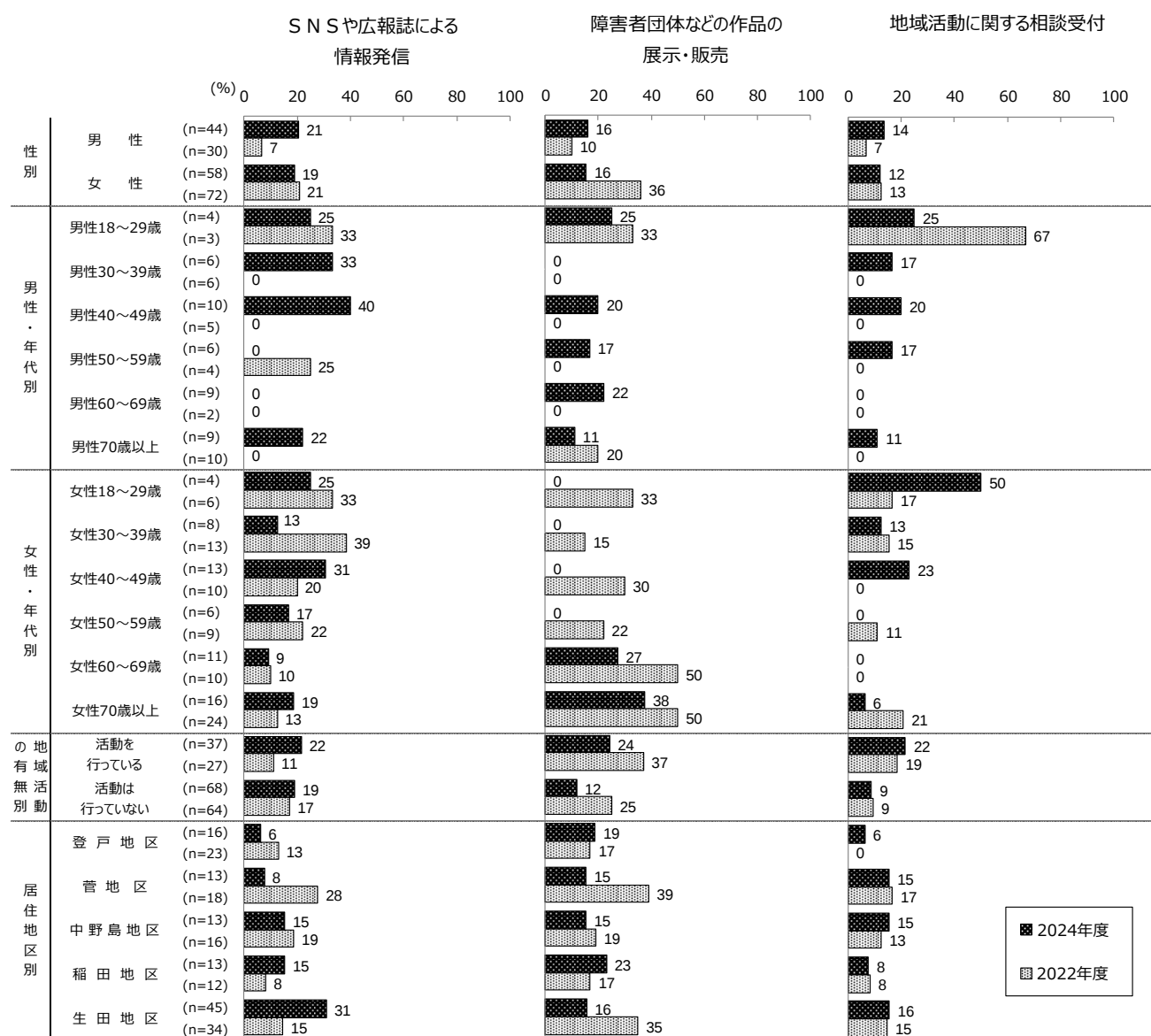
(性別・性年代別)＜上位 6 項目＞



性別で見ると、「子ども食堂」は男性より女性が 14 ポイント高く、「地域イベントでの出店」は女性より男性が 10 ポイント高い結果となった。

図表 3 2 - 3 「多摩区ソーシャルデザインセンター」の取組の認知度②

(性別・性年代別)＜上位 6 項目＞

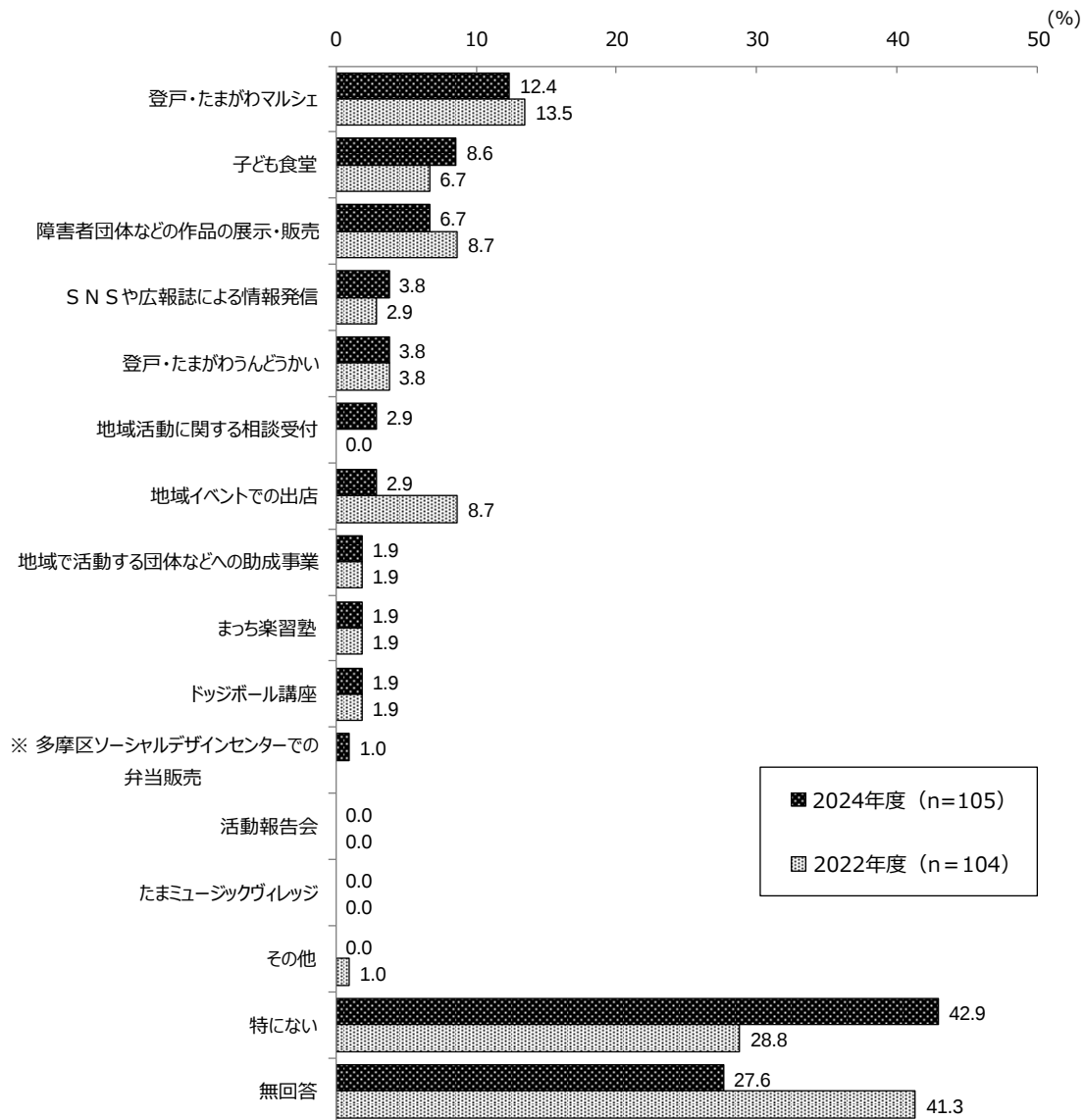


性別で見ても、大きな差は見られない。

(33)「多摩区ソーシャルデザインセンター」の取組の利用・参加経験

問25 利用、参加したことがある取組はありますか。(あてはまるものすべてに○)

図表 33-1 「多摩区ソーシャルデザインセンター」の取組の利用・参加経験

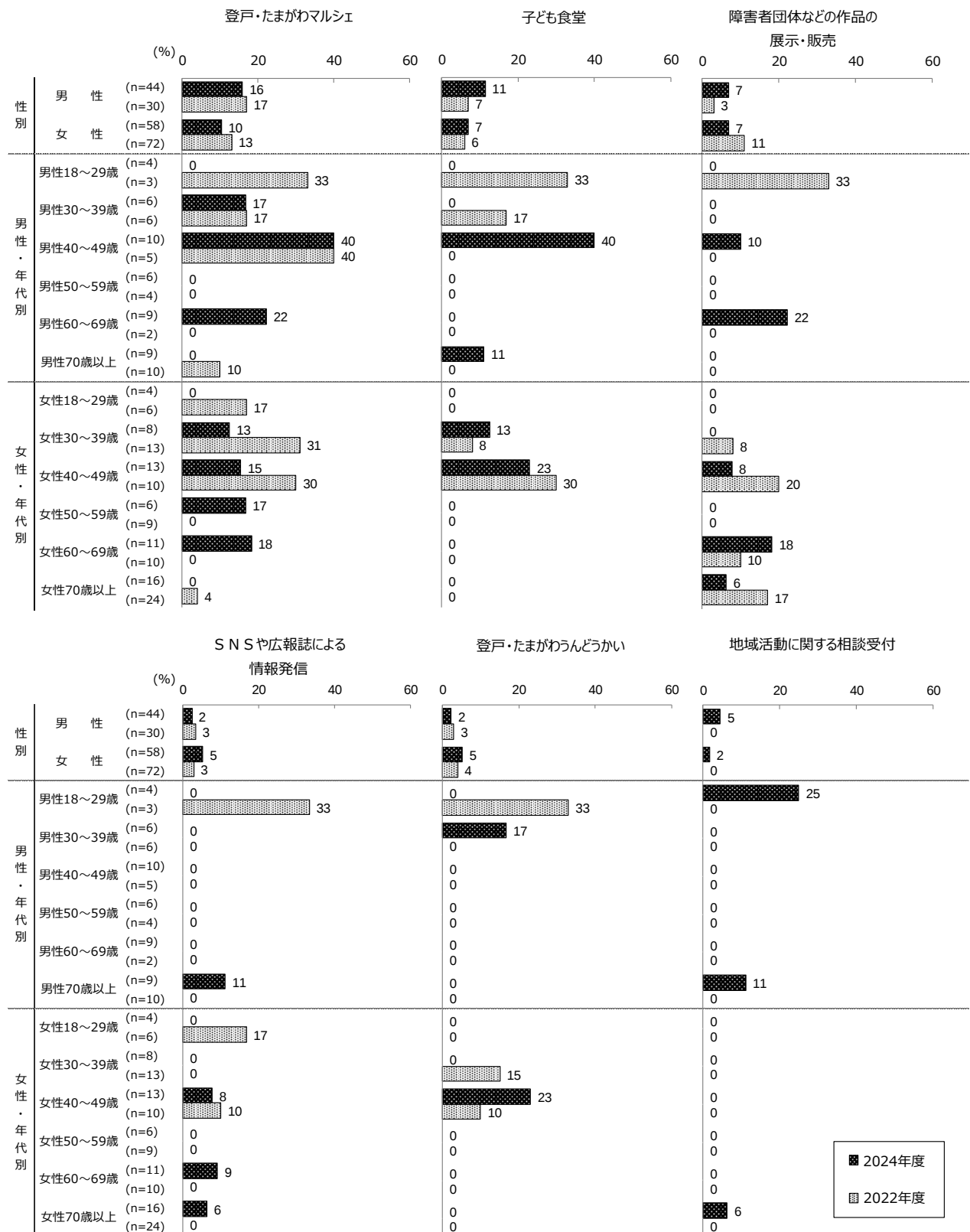


※ 2024年度からの新規項目。2022年度では「多摩区ソーシャルデザインセンターでのパン販売」として聴取

「『多摩区ソーシャルデザインセンター』の取組の利用・参加経験」について聞いたところ、「特にない」が42.9%と最も高い結果となった。

利用、参加したことがある取組で見ると、「登戸・たまがわマルシェ」(12.4%)が最も高く、次いで「子ども食堂」(8.6%)、「障害者団体などの作品の展示・販売」(6.7%)の順となった。

図表 3 3 - 2 「多摩区ソーシャルデザインセンター」の取組の利用・参加経験
(性別・性年代別) <上位 6 項目>

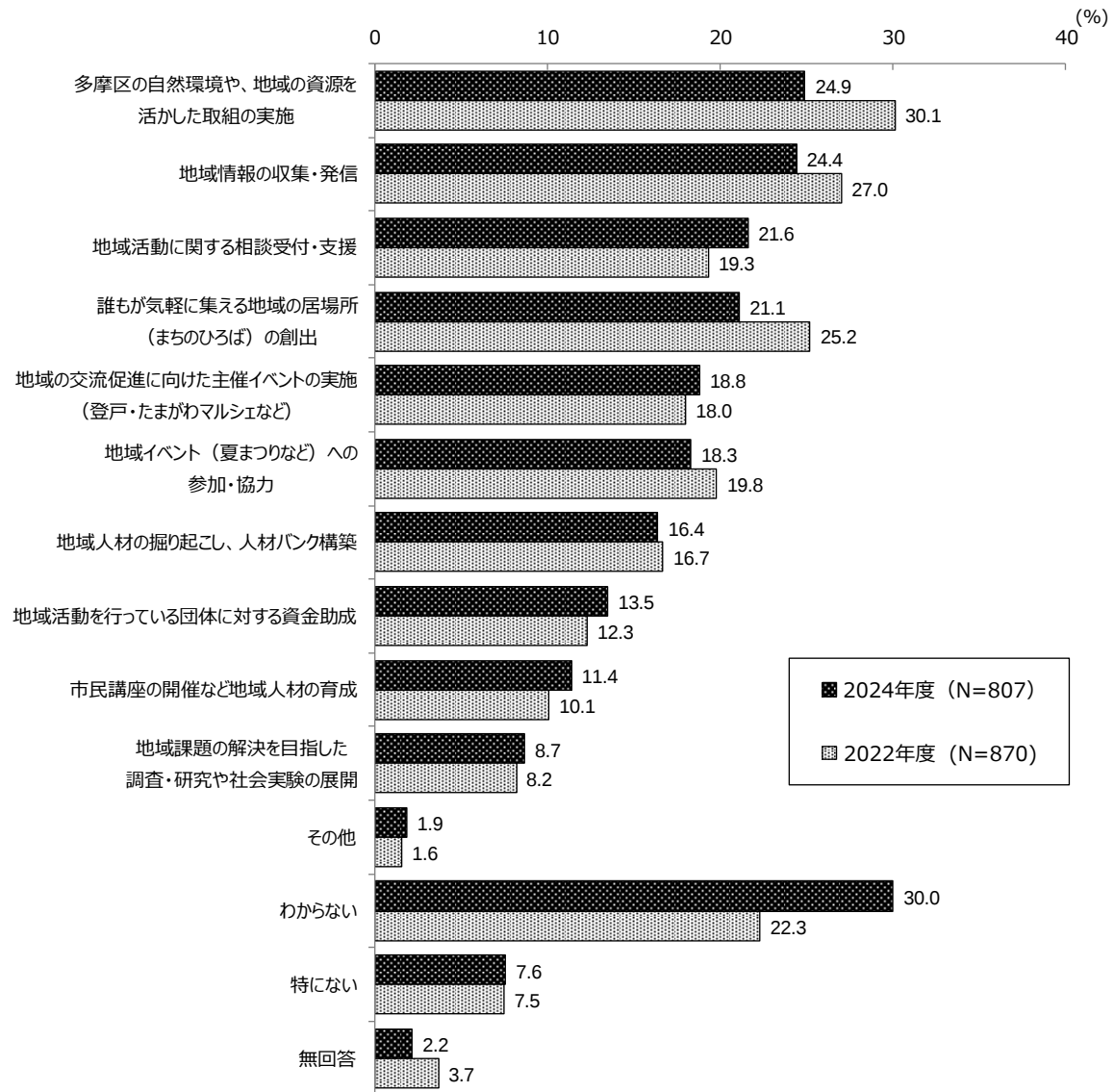


性別で見ると、「登戸・たまがわマルシェ」は女性より男性が 6 ポイント高い結果となった。

(34) 多摩区におけるソーシャルデザインセンターが力を入れて取り組むべきこと

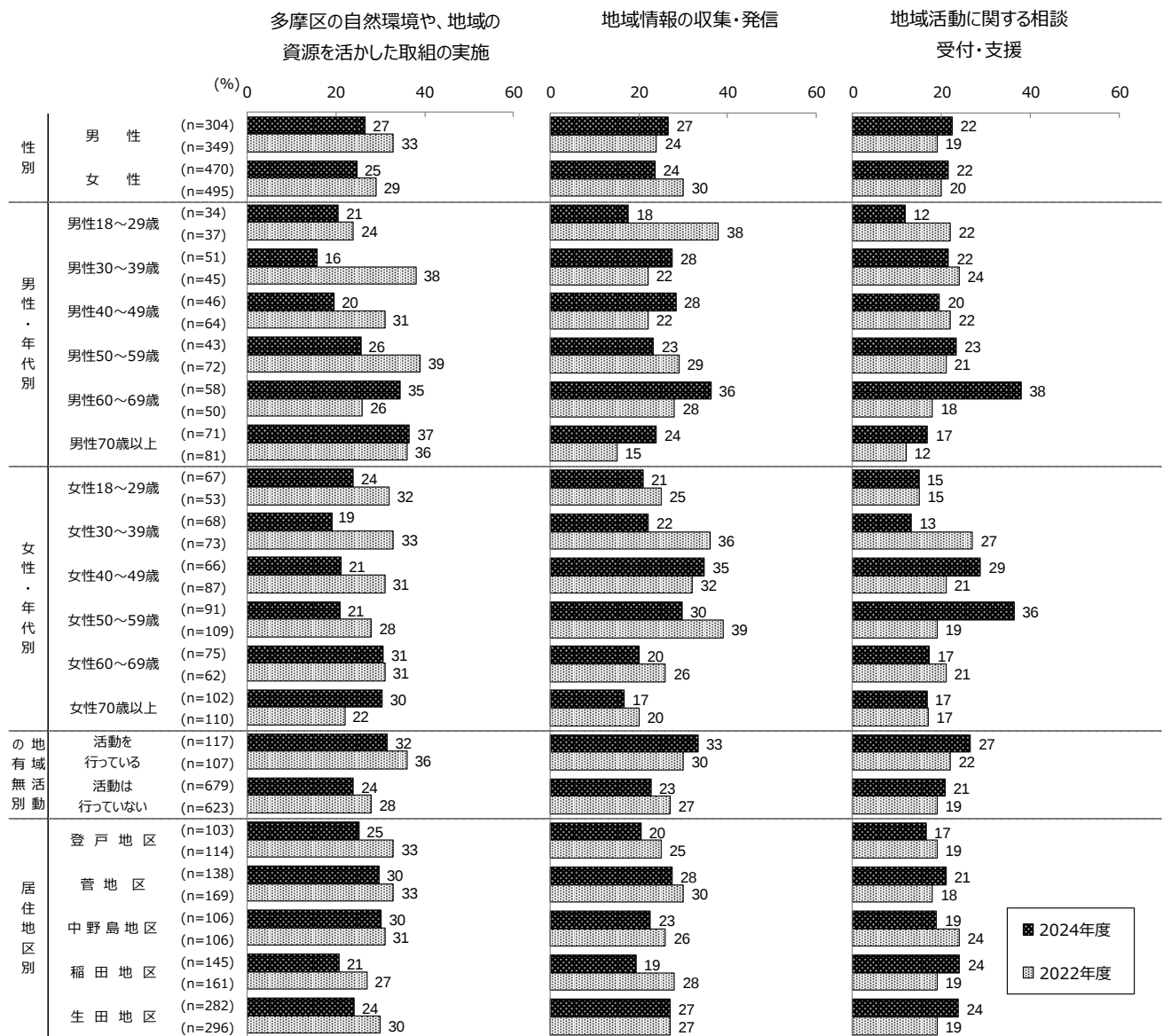
問26 多摩区におけるソーシャルデザインセンターが力を入れて取り組むべきと思うものをお選びください。（あてはまるものすべてに○）

図表34-1 多摩区におけるソーシャルデザインセンターが力を入れて取り組むべきこと



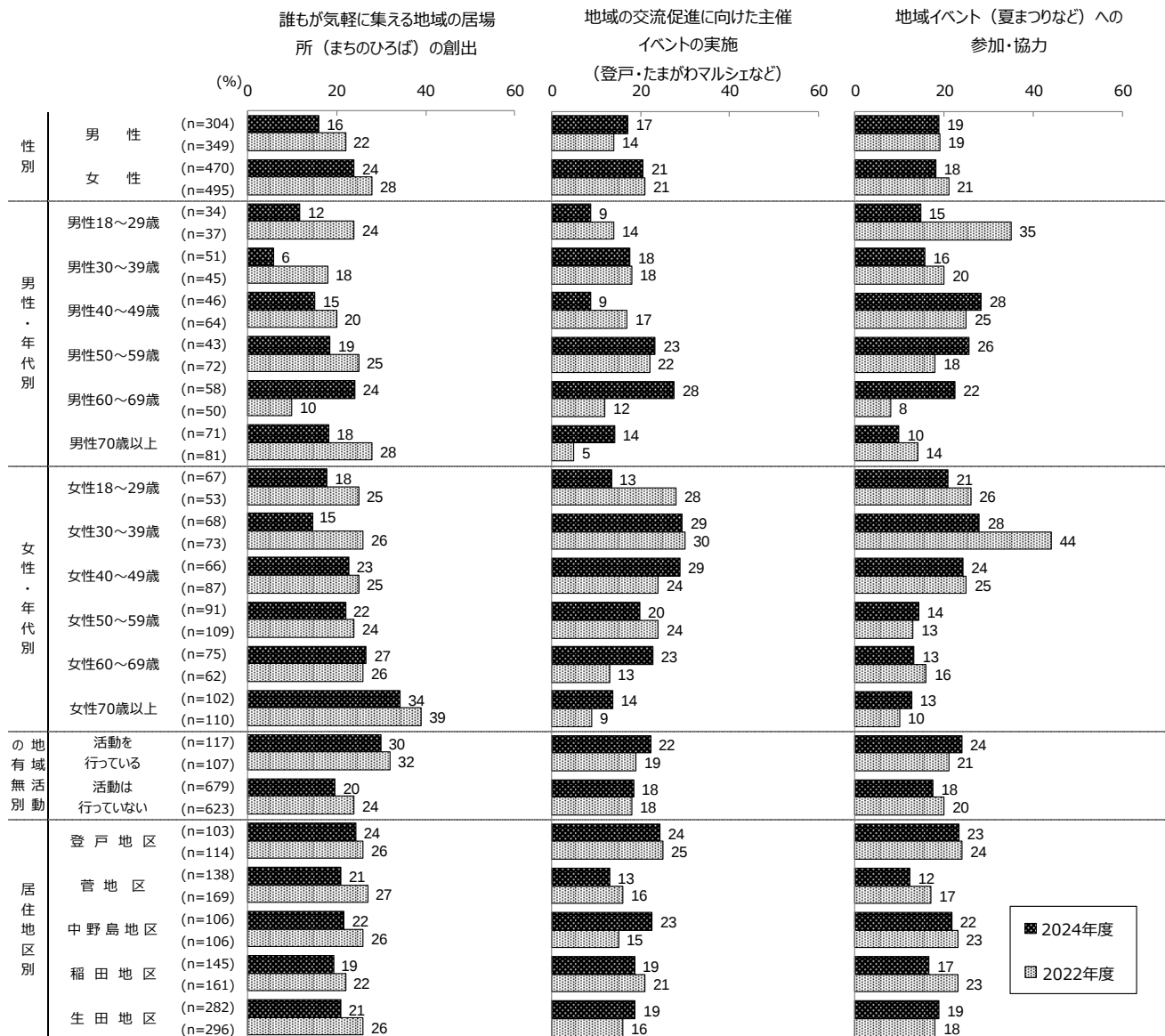
「多摩区におけるソーシャルデザインセンターが力を入れて取り組むべきこと」について聞いたところ、「多摩区の自然環境や、地域の資源を活かした取組の実施」(24.9%)が最も高く、次いで「地域情報の収集・発信」(24.4%)、「地域活動に関する相談受付・支援」(21.6%)、「誰もが気軽に集える地域の居場所（まちのひろば）の創出」(21.1%)の順となった。

図表 3 4 - 2 多摩区におけるソーシャルデザインセンターが力を入れて取り組むべきこと①
(性別・性年代別)＜上位 6 項目＞



性年代別で見ると、「地域情報の収集・発信」は男性 60～69 歳(36%)、女性 40～49 歳(35%)が、他の年代より高い結果となった。また、「地域活動に関する相談受付・支援」は男性 60～69 歳、女性 50～59 歳が 35%を超え、他の年代より高い結果となった。

図表 3 4 - 3 多摩区におけるソーシャルデザインセンターが力を入れて取り組むべきこと②
(性別・性年代別)＜上位 6 項目＞



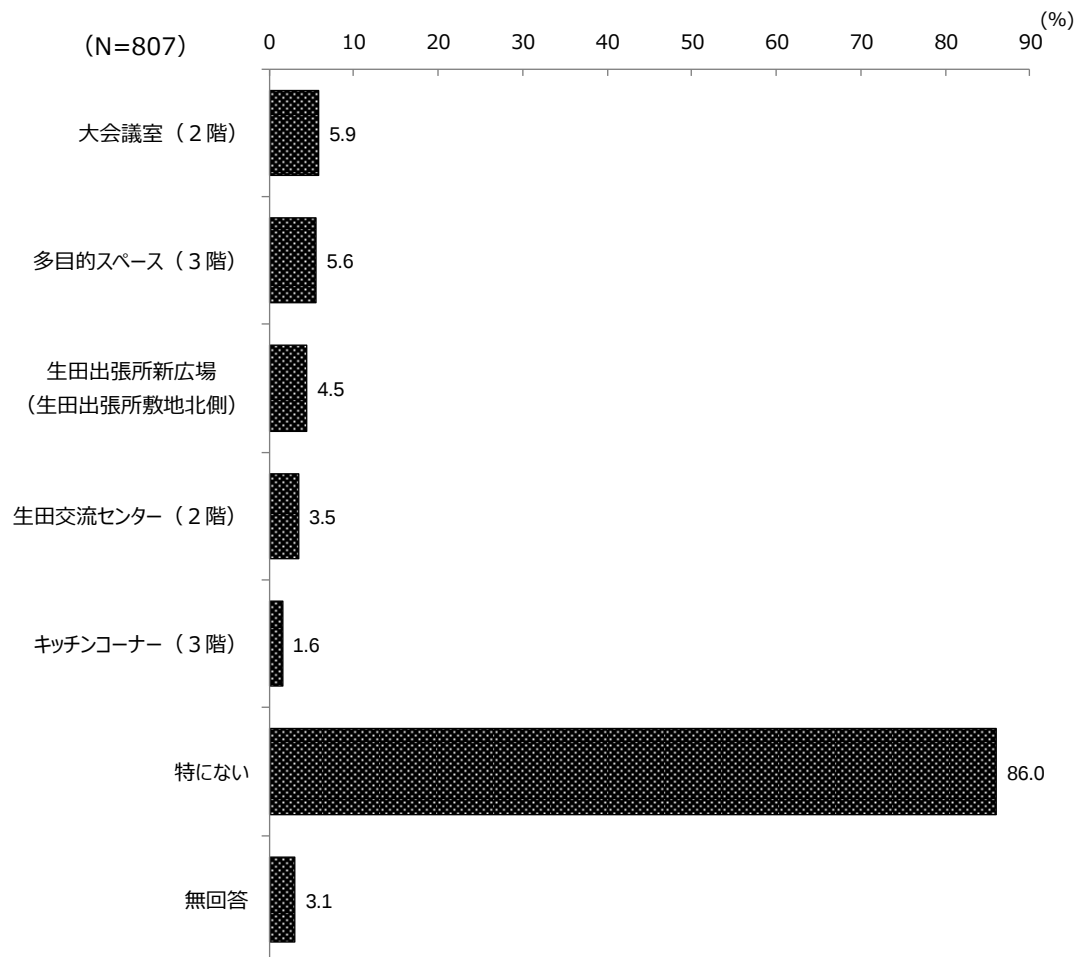
性別で見ると、「誰もが気軽に集える地域の居場所（まちひろば）の創出」は男性より女性が 8 ポイント高い結果となった。

性年代別で見ると、「誰もが気軽に集える地域の居場所（まちひろば）の創出」は女性 70 歳以上が 34% で他の性年代に比べて高くなっている。

(35) 生田出張所の市民利用スペースの認知度

問27 生田出張所は「共に支え合う地域づくりを推進する身近な地域のコミュニティ拠点」として利用されています。次のうち、地域団体や市民の方が利用できる生田出張所の市民利用スペースについて、あなたが知っているものはありますか。（あてはまるものすべてに○）

図表 35-1 生田出張所の市民利用スペースの認知度

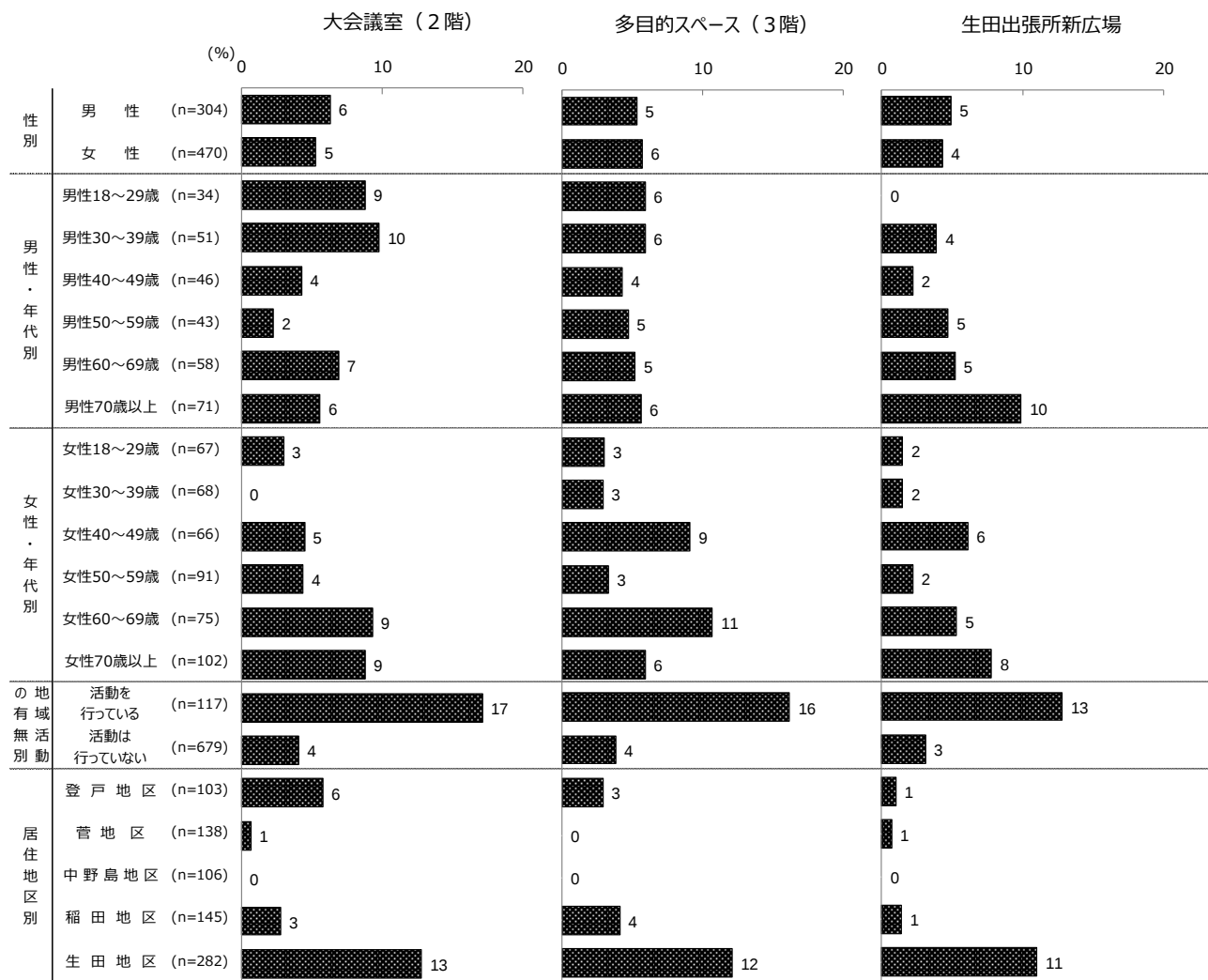


「生田出張所の市民利用スペースの認知度」について聞いたところ、「特にない」(86.0%)が最も高い結果となった。

知っている市民利用スペースで見ると、「大会議室 (2階)」(5.9%)、「多目的スペース (3階)」(5.6%)、「生田出張所新広場 (生田出張所敷地北側)」(4.5%)の順となった。

図表 3 5 - 2 生田出張所の市民利用スペースの認知度①

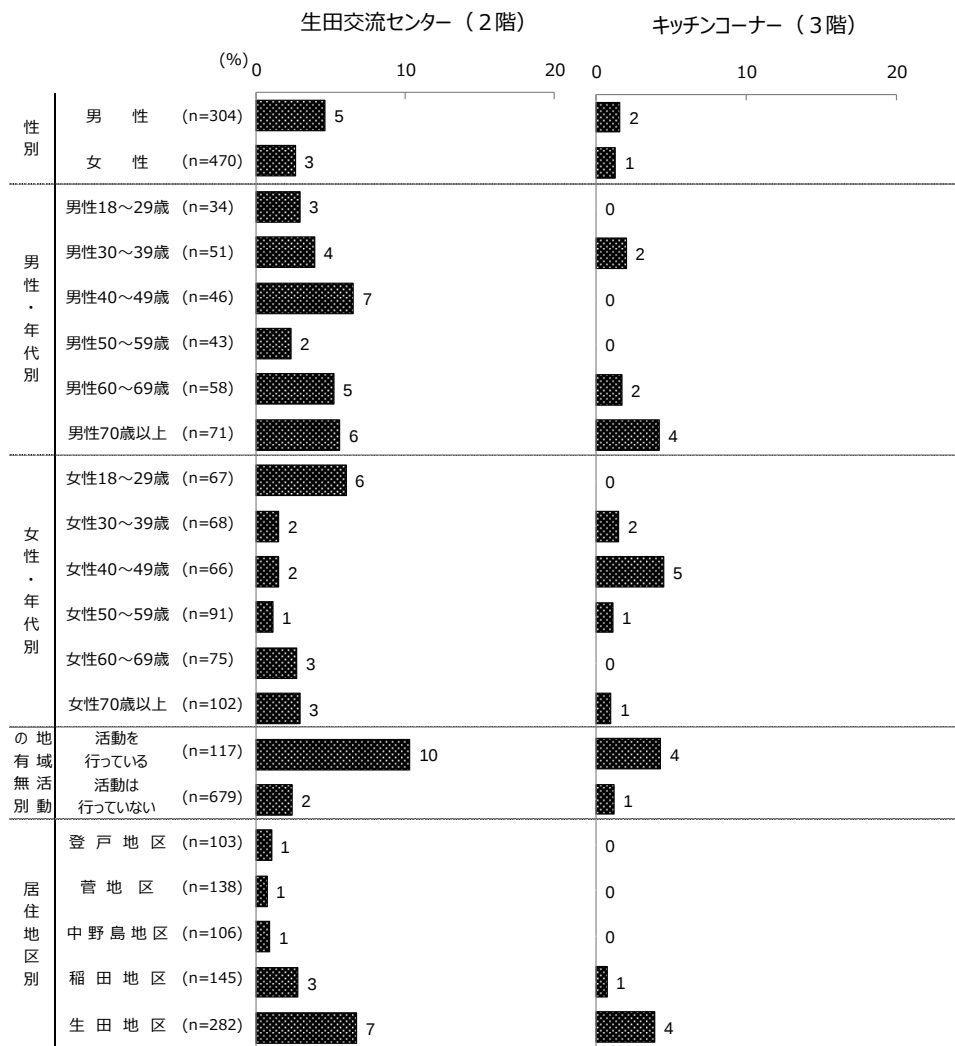
(性別・性年代別) <上位 5 項目>



性年代別で見ると、「多目的スペース (3 階)」は女性 60~69 歳が 11%で、最も高い結果となった。

地区別で見ると、生田地区は「大会議室 (2 階)」「多目的スペース (3 階)」「生田出張所新広場」のいずれも 10%を超え、他の居住地区に比べて高くなっている。

図表 3 5 - 3 生田出張所の市民利用スペースの認知度②
(性別・性年代別) <上位 5 項目>

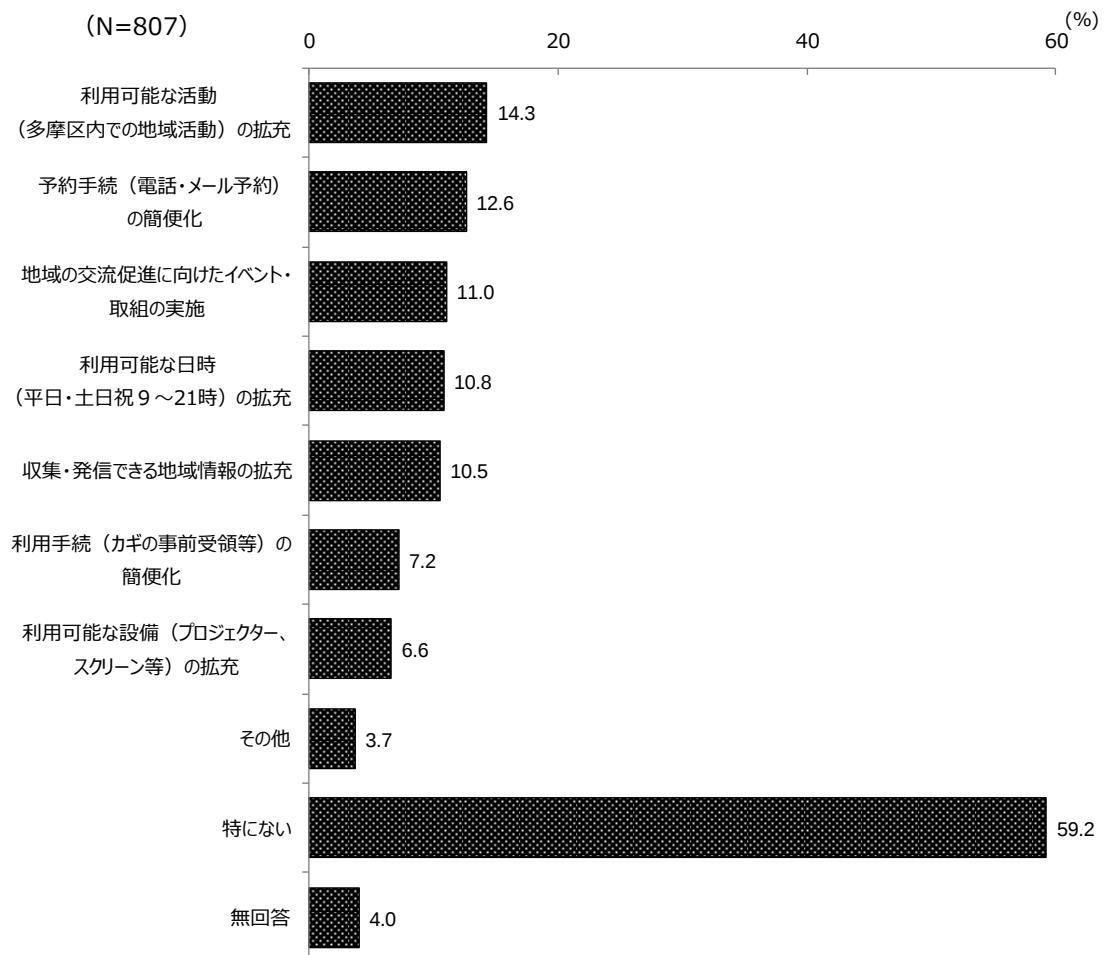


地区別に見ると、「生田交流センター (2 階)」「キッチンコーナー (3 階)」は生田地区が他の居住地区に比べて高い結果となった。

(36) 生田出張所がコミュニティ拠点として活用されるために、力を入れてほしい取組

問28 生田出張所がコミュニティ拠点として活用されるために、力を入れてほしい取組はどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

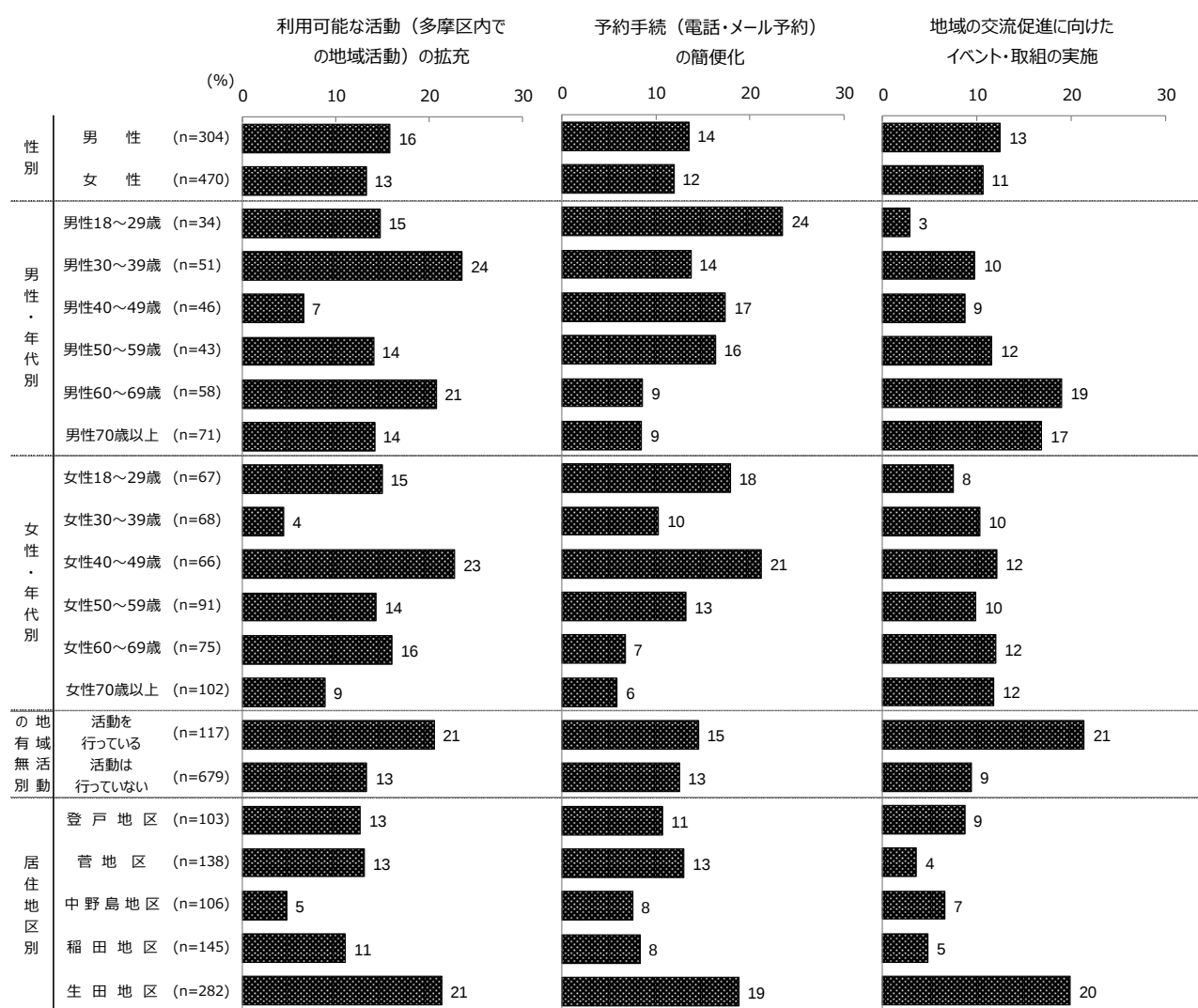
図表36-1 生田出張所がコミュニティ拠点として活用されるために、力を入れてほしい取組



「生田出張所がコミュニティ拠点として活用されるために力を入れてほしい取組」について聞いたところ、「利用可能な活動（多摩区内での地域活動）の拡充」（14.3%）が最も高く、次いで「予約手続（電話・メール予約）の簡便化」（12.6%）、「地域の交流促進に向けたイベント・取組の実施」（11.0%）、「利用可能な日時（平日・土日祝 9～21 時）の拡充」（10.8%）、「収集・発信できる地域情報の拡充」（10.5%）の順となった。

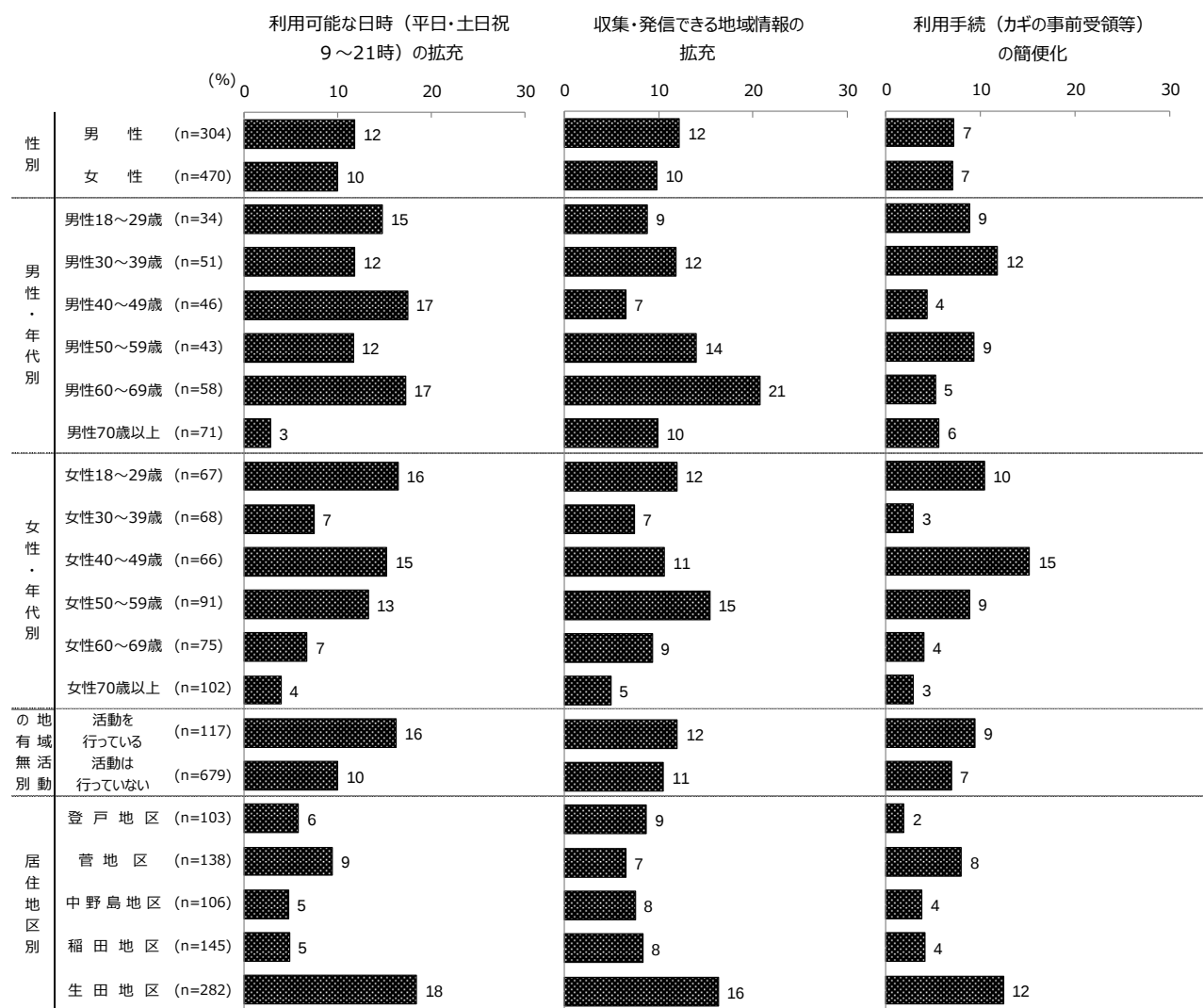
図表 3 6 - 2 生田出張所がコミュニティ拠点として活用されるために、力を入れてほしい取組①

(性別・性年代別) <上位 6 項目>



性年代別で見ると、「利用可能な活動（多摩区内での地域活動）の拡充」は男性 30～39 歳、男性 60～69 歳、女性 40～49 歳が 20%を超え、他の性年代より高くなっている。「予約手続（電話・メール予約）の簡便化」は男性 18～29 歳、女性 40～49 歳が 20%を超え、他の性年代より高い結果となった。

図表 3 6 - 3 生田出張所がコミュニティ拠点として活用されるために、力を入れてほしい取組②
(性別・性年代別)＜上位 6 項目＞



性年代別で見ると、「収集・発信できる地域情報の拡充」は男性 60～69 歳 (21%) が最も高くなっている。

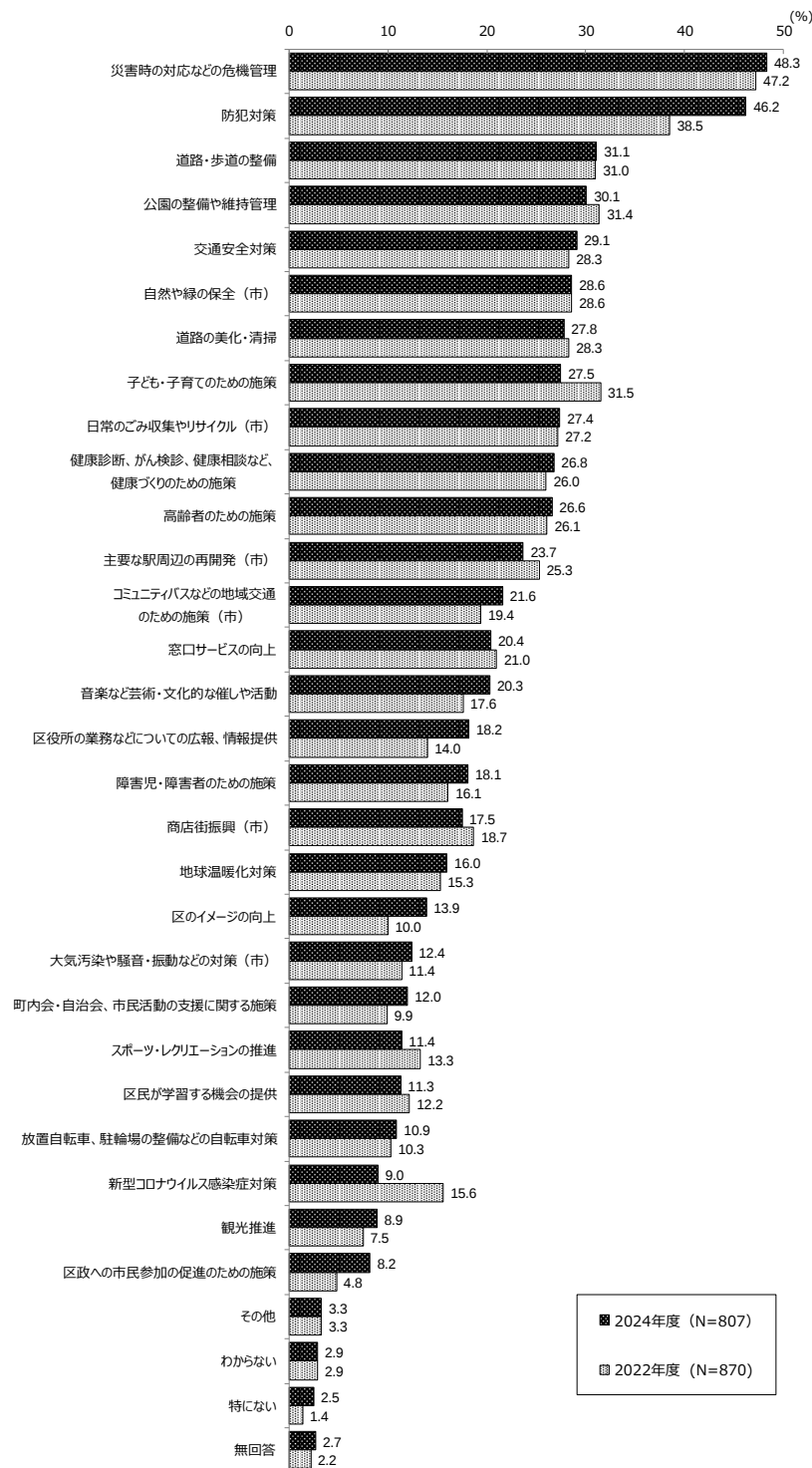
(37) 区役所が力を入れて取り組むべき施策

問29 区民に身近な区役所が特に力を入れてほしい区の事業はどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

※項目の後ろに(市)とあるのは、現時点で主に市役所を中心として進めているもの

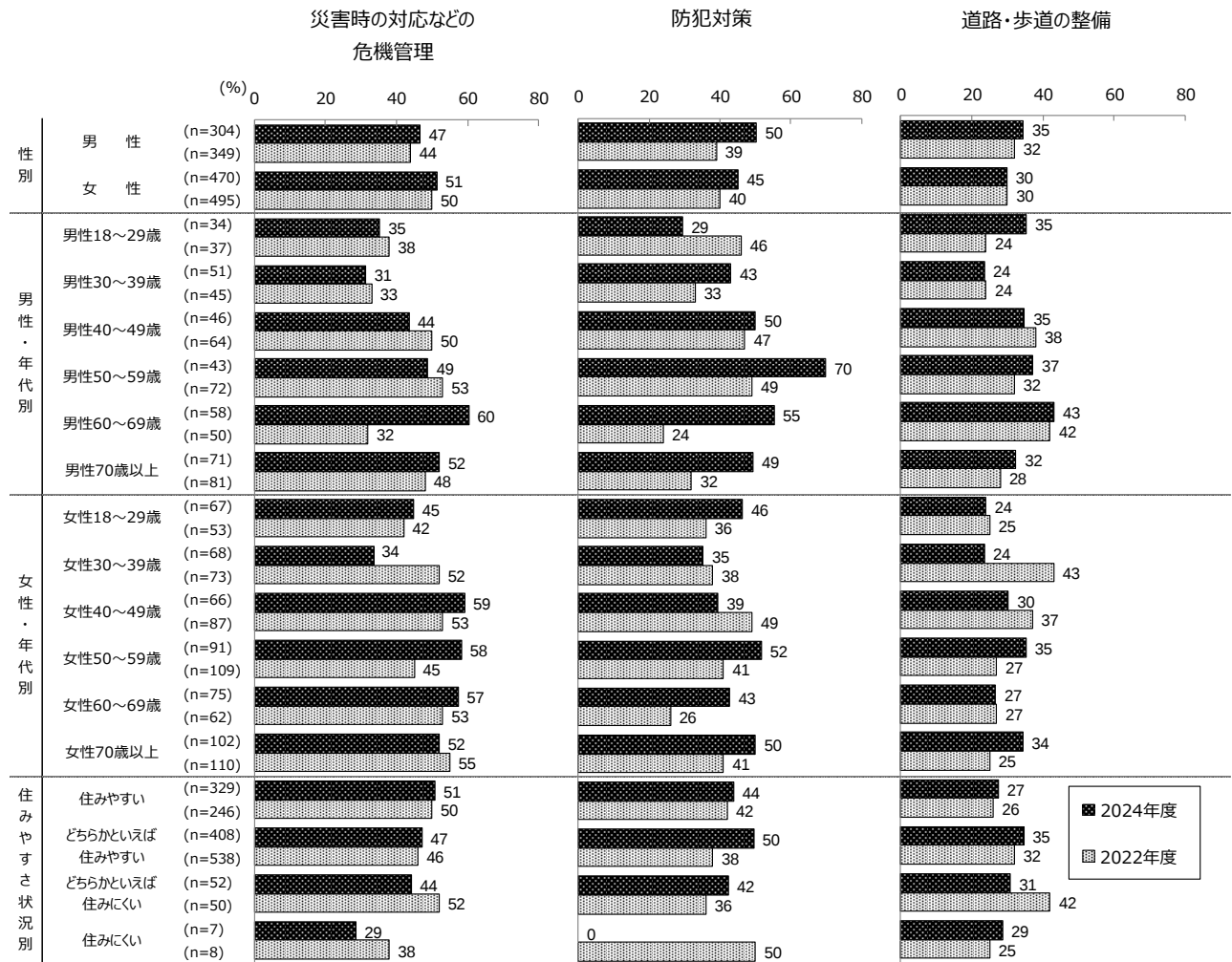
図表37-1 区役所が力を入れて取り組むべき施策



「区役所が力を入れて取り組むべき施策」について聞いたところ、「災害時の対応などの危機管理」(48.3%)が最も高く、次いで「防犯対策」(46.2%)、「道路・歩道の整備」(31.1%)の順となった。

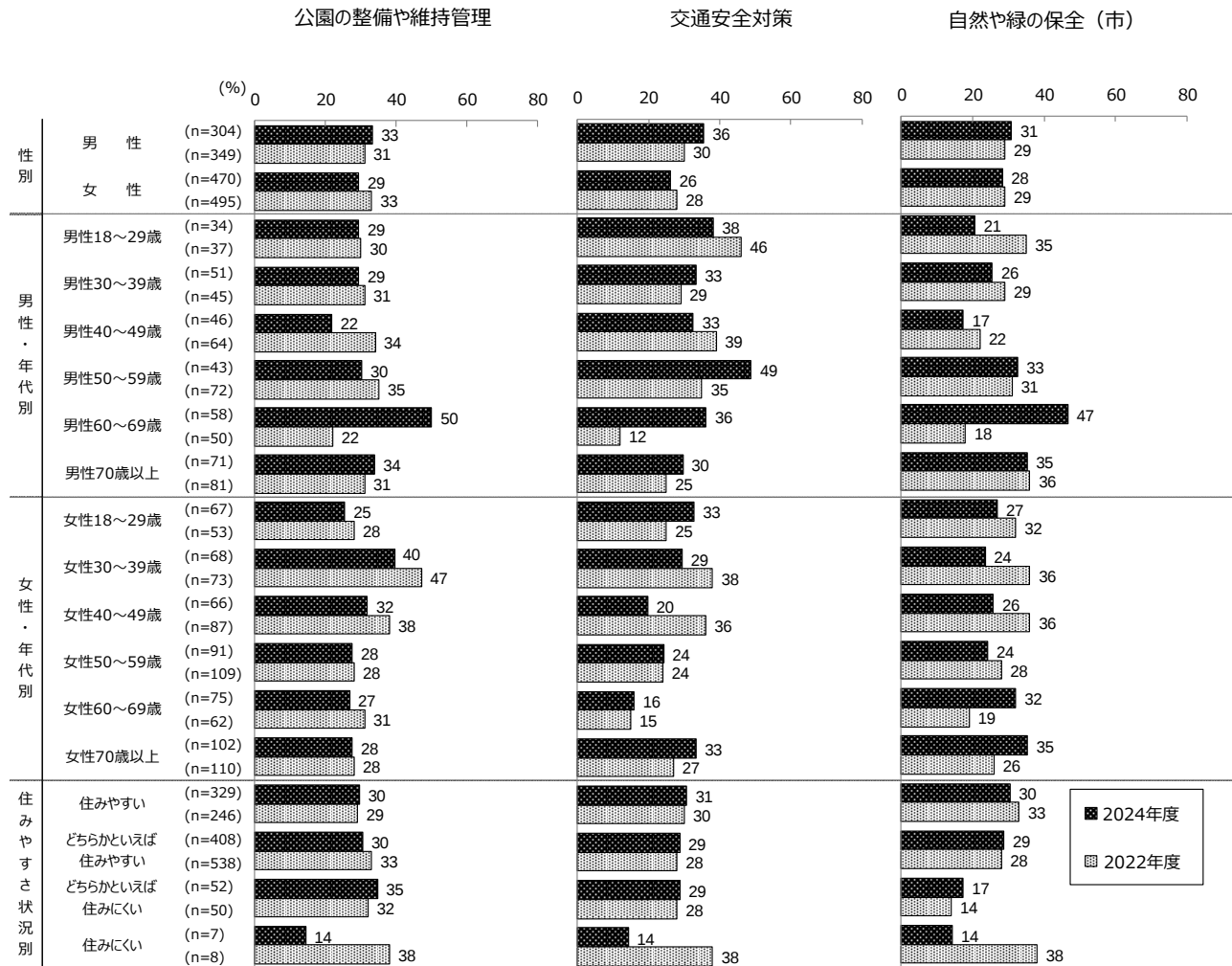
2022年度と比較すると「防犯対策」は7.7ポイント上昇する結果となった。

図表 3 7 - 2 区役所が力を入れて取り組むべき施策①
(性別・性年代別・住みやすさ状況別)＜上位 9 項目＞



性年代別で見ると、「防犯対策」は男性 50～59 歳が 70%で、他の性年代より高い結果となった。また、住みやすさ状況別で見ると、「災害時の対応などの危機管理」は住みやすいと思っているほど、高い傾向になっている。

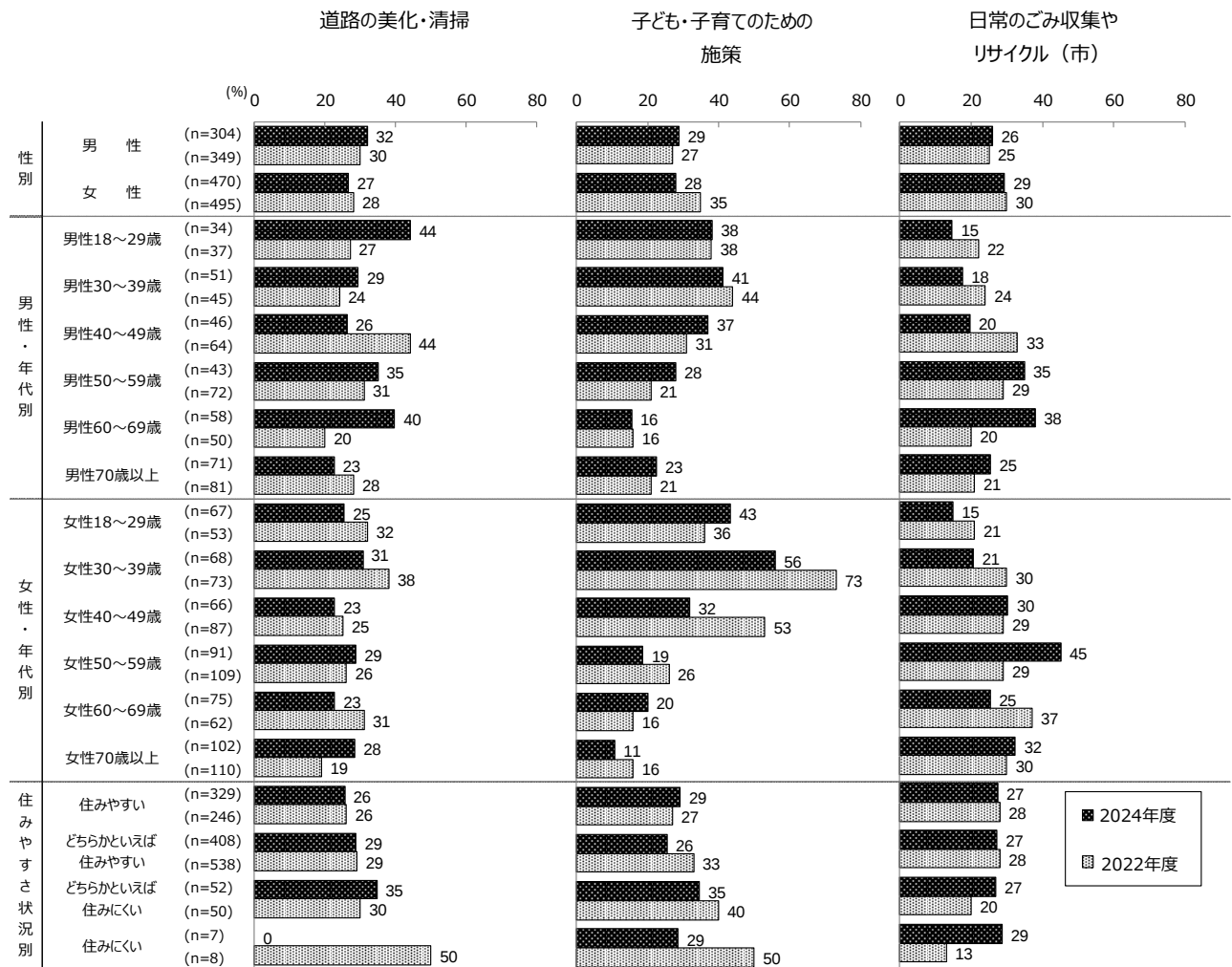
図表 3 7 - 3 区役所が力を入れて取り組むべき施策②
(性別・性年代別・住みやすさ状況別) <上位 9 項目>



性別で見ると、「交通安全対策」は女性より男性が 10 ポイント高い結果となった。

性年代別で見ると、「公園の整備や維持管理」の男性 60~69 歳(50%)、「自然や緑の保全 (市)」の男性 60~69 歳(47%)及び「交通安全対策」の男性 50~59 歳(49%)が他の性年代より高い結果となった。

図表 37-4 区役所が力を入れて取り組むべき施策③
(性別・性年代別・住みやすさ状況別) <上位9項目>



性年代別で見ると、「子ども・子育てのための施策」は女性 30~39 歳が 56%で、他の性年代より高い結果となった。「日常のごみ収集やリサイクル (市)」は女性 50~59 歳が 45%で最も高い結果となった。

IV. 調查票

多摩区区民意識アンケート調査への御協力について(お願い)

日頃から、多摩区の行政に御理解、御協力をいただき誠にありがとうございます。

多摩区役所では、区民の皆様が日頃多摩区について感じていらっしゃることや、地域でのボランティア活動に関する意識などについてお聞きする区民意識アンケートを2年に一度実施しております。

今回の調査にあたり、調査対象者として、多摩区内にお住まいの2,000人の皆様を、満16歳以上の方から無作為抽出で選ばせていただきました。突然のお願いで大変恐れ入りますが、本調査の趣旨を御理解いただき、調査に御協力くださいますようお願い申し上げます。

多摩区長 佐藤 直樹

- ◆ この調査は、行政上の基礎資料として活用します。他の目的に使用することは決してありません。
 - ◆ この調査は無記名調査です。あなたのお名前や住所を書いていただく必要はありません。
 - ◆ この調査の結果は、すべてコンピュータで一括処理を行い、統計的な集計・分析だけに用いられま
- すので、個々のお答えの調査内容や皆様の個人情報外部に漏れることは一切ありません。

■ 回答方法

郵送

○ 調査票への御記入が終了しましたら、調査票を同封の返信用封筒に入れて、お近くのポストへ投函してください。(切手不要)

インターネット

- お手持ちのPCもしくはスマートフォンで右のQRコードを読み取ると、専用フォームのページにどび、回答することができます。
- 専用フォームで、右の認証ID、パスコードを入力してください。
- ※ 認証IDとパスコードは、重複して回答することを選択するためのものであり、個人を特定するものではありません。
- 専用フォームURL : <https://logoform.jp/form/FUQZ/61522Z>

QRコード



■ 回答期限

令和6年10月31日(木)

郵送での回答の場合は、10月31日(木)までにお近くのポストへ投函してください。

本調査について、不明な点がありましたら、調査担当課までお問い合わせください。



調査担当課 多摩区役所まちづくり推進部企画課
〒214-8570 川崎市多摩区登戸1775番地1
電話 : 044-935-3147
FAX : 044-935-3391
メール : 71kikaku@city.kawasaki.jp

■ 生活環境の満足度について

あなたが住まいの多摩区について、日頃感じていることなどについてお伺いします。

問1 多摩区の最所・魅力とと思っているものは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 公共交通の利便性がよい
2. 買い物物の利便性がよい
3. 病院や医院の利便性がよい
4. 教育・文化環境がよい
5. 住環境がよい
6. 治安や風紀がよい
7. 自然環境がよい
8. その他 ()

問2 あなたにとって多摩区はどの程度住みやすいですか。(○は1つだけ)

1. 住みやすい
2. どちらかといえば住みやすい
3. どちらかといえば住みにくい
4. 住みにくい

問3 多摩区に住み続けたいと思いますか。(○は1つだけ)

1. 多摩区内に住み続けたい → 次ページ問4へ
2. 多摩区以外の川崎市内に住みたい → 問3-2へ
3. 川崎市外に転居したい → 問3-2へ
4. わからない → 次ページ問4へ

☆ 問3で「2. 多摩区以外の川崎市内に住みたい」「3. 川崎市外に転居したい」のいずれかに答えた方にお伺いします。

問3-2 その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 通勤・通学が不便だから
2. 買い物物が不便だから
3. 住宅事情がよくないから
(家賃が高い、家が狭いなど)
4. 住環境がよくないから
(日照、騒音、治安など)
5. 医療環境がよくないから
6. 保育環境がよくないから
7. 介護環境がよくないから
8. 子どもの教育のため
9. その他 ()

☆ 全員の方へお伺いします。

問 4 あなたにとって多摩区は、以下の項目に関してどの程度あてはまりますか。

(○は各項目で1つだけ)

	回答例	1	2	3	4	5
	⇒	1	2	3	4	5
	⇒	1	2	3	4	5
	⇒	1	2	3	4	5
	⇒	1	2	3	4	5
	⇒	1	2	3	4	5

■ 市政への参加、地域でのボランティア活動などについて

町内会・自治会や市民活動団体での取組など、あなたの地域でのボランティア活動などへの参加状況や考え方についてお伺いします。

問5 地域のボランティア活動、サークル活動などを行っていますか。
(〇は1つだけ)

1. 活動を行っている → 問5-2へ
2. 活動は行っていない → 次ページ問5-4へ

Q 問5で「1. 活動を行っている」と答えた方にお伺いします。

問5-2 地域で活動している団体（グループや個人の活動も含む）の活動分野をお選びください
（あてはまるものすべてに○）

1. 町内会・自治会に関係する活動
2. 乳幼児に関係する活動
3. 小中学生に関係する活動
4. 若年層に関係する活動
5. 外国籍市民に関係する活動
6. 知識・技能を地域に活かせる活動
7. 教育・生涯学習に関係する活動
8. 地域のまちづくりに関係する活動
9. 防犯・防火に関係する活動
10. 交通安全に関係する活動
11. 介護に関係する活動
12. 障害者に関係する活動
13. 地域での健康づくりに関係する活動
14. まちの美化や緑化、生活環境に関係する活動
15. 文化、観光、産業に関係する活動
16. スポーツに関係する活動
17. 趣味や余暇を活かした活動
18. 緑地や水辺など自然環境の保全に関係する活動
19. その他（ ）

⑤引き続き、問5で「1. 活動を行っている」と答えた方にお伺いします。

問5-3 地域で活動する上で支援を受けたいと思うものはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 一緒に活動する人材の紹介
2. 事務的なサポートをする人材の紹介
3. 活動の打合せができる場所
4. 活動資金
5. 活動の参考になる情報の収集
6. 活動の広報
7. 特にない
8. その他 ()

↑ 回答後、6ページの問5-7へ

☞ 4 ページ問5で「2. 活動は行っていない」と答えた方にお伺いします。

問5-4 地域でのボランティア活動などを行っていない理由をお選びください。
(あてはまるものすべてに○)

- | |
|--------------------------------|
| 1. 仕事や子育て、介護などで忙しく時間が無い・合わないため |
| 2. 地域で活動するきっかけがないため |
| 3. 地域での活動に関心がないため |
| 4. 地域での付き合いがわずらわしいため |
| 5. 健康や体力に自信がないため |
| 6. その他 () |

☞ 引き続き、4 ページ問5で「2. 活動は行っていない」と答えた方にお伺いします。

問5-5 地域でのボランティア活動などを行うとした場合、どのような分野に関心がありますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | |
|--------------------------|
| 1. 町内会・自治会に関する活動 |
| 2. 乳幼児に関する活動 |
| 3. 小中学生に関する活動 |
| 4. 若年層に関する活動 |
| 5. 外国籍市民に関する活動 |
| 6. 知識・技能を地域に活かせる活動 |
| 7. 教育・生涯学習に関する活動 |
| 8. 地域のまちづくりに関係する活動 |
| 9. 防犯・防火に関する活動 |
| 10. 交通安全に関する活動 |
| 11. 介護に関する活動 |
| 12. 障害者に関する活動 |
| 13. 地域での健康づくりに関係する活動 |
| 14. まちの美化や緑化、生活環境に関する活動 |
| 15. 文化、観光、産業に関する活動 |
| 16. スポーツに関する活動 |
| 17. 趣味や余暇を活かした活動 |
| 18. 緑地や水辺など自然環境の保全に関する活動 |
| 19. 特になし |
| 20. その他 () |

☞ 引き続き、4 ページ問5で「2. 活動は行っていない」と答えた方にお伺いします。

問5-6 地域でのボランティア活動などを行うとした場合、どのような活動に参加したいですか。
(あてはまるものすべてに○)

- | |
|----------------------------|
| 1. 自分の住んでいる地域で貢献できる活動 |
| 2. 市民館などの公共施設で生涯学習に関する活動 |
| 3. 区役所が市民と協働で取り組む事業 |
| 4. 自分の興味がある分野の自主活動 |
| 5. 区や市から紹介してもらう活動 |
| 6. 地域でのボランティア活動などには参加したくない |
| 7. その他 () |

☞ 全員の方へお伺いします。

問5-7 地域でのボランティア活動などを始めるきっかけとして、どのような機会や場があることが効果的だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|------------------------------------|
| 1. 新しく地域活動を始めようとなるような講座や活動体験会などの開催 |
| 2. 地域での活動を紹介するイベントの開催 |
| 3. 地域での活動を紹介する資料の閲覧や相談の場 |
| 4. インターネットなどによる地域活動の情報紹介 |
| 5. わからない |
| 6. 特になし |
| 7. その他 () |

問6 町内会・自治会に加入していますか。(○は1つだけ)

- | | |
|------------|-----------|
| 1. 加入している | → 次ページ問7へ |
| 2. 加入していない | → 問6-2へ |

☞ 問6で「2. 加入していない」と答えた方にお伺いします。

問6-2 町内会・自治会に加入していない理由をお選びください。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1. 加入するきっかけがない | 7. 町内会・自治会の地域活動に関心がない |
| 2. 加入しなくても日常生活に支障がない | 8. 隣近所との付き合いがわずらわしい |
| 3. 仕事や子育て、介護などで忙しく活動する時間がない | 9. 町内会・自治会以外で地域活動を行っている |
| 4. 加入の仕方がわからない | 10. 特になし |
| 5. 会費の支払いに負担を感じる | 11. その他 () |
| 6. いろいろな役を任されることに負担を感じる | |

☆ 全員の方へお伺いします。

問7 区民（NPOや市民活動団体などを含む）と行政が協働して取り組んだほうが効果的だと思うものは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 防犯対策
2. 交通安全対策
3. 防災・減災対策
4. 消防力の強化
5. 文化・芸術活動の振興
6. 商業の振興
7. 観光推進、区のイメージ向上（シティプロモーション）
8. 道路、公園、広場の美化・清掃
9. 公園の活用や維持管理
10. 自然や緑の保全
11. 温暖化防止に関する施策（緑のカーテンや節電など）
12. ごみの分別やリサイクル
13. 子どものための施策
14. 高齢者のための施策
15. 障害者のための施策
16. 健康づくりのための施策
17. 放置自転車対策
18. 市民が学習する機会の増加や内容の充実
19. スポーツ・レクリエーションの促進
20. シニア世代の積極的な社会活動の促進
21. 若者の積極的な社会活動の促進
22. 近隣住民同士のコミュニティ活性化
23. 市民活動団体の活動の促進
24. わからない
25. 特にない
26. その他（ ）

■ 区役所が推進する主な取組について

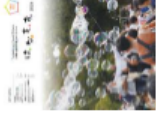
地域資源を活用した賑わいと魅力あるまちづくりについてお伺いします。

問8 多摩区内のどの見所を他人に薦めたいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 生田緑地
2. 生田緑地ばら苑
3. 稲田公園
4. 小沢城址
5. 川崎国際生田緑地ゴルフ場
6. 岡本太郎美術館
7. 多摩スポーツセンター
8. 伝統工芸館
9. 日本民家園
10. 農業技術支援センター
11. 藤子・F・不二雄ミュージアム
12. 緑化センター
13. かわさき^まと緑の科学館
14. 廣福寺
15. 諏訪社
16. 多摩川
17. ニッテ領せせらぎ館
18. ニッテ領用水信河原線沿い
19. 登戸稲荷社
20. 柿形山広場（展望台）
21. 明治大学平和教育 登戸研究所資料館
22. 妙楽寺（あじさい寺）
23. 薬師堂（昔の獅子舞）
24. よみうりランド
25. HANA・BIYORI（植物園）
26. Anker フロンタウン生田
27. 特にない
28. その他（ ）

問9 多摩区では、豊かな自然環境や魅力的な地域資源を活用し、区の観光振興やイメージ、地域ブランド力の向上を目指す取組を行っています。次の中であなたが知っているもの、見たことのあるものはありますか。（あてはまるものすべてに○）

1. ピクニックタウン多摩区の取組（イベント）
2. ピクニックタウン多摩区のロゴマーク（※イラスト①）
3. ピクニックタウン多摩区のSNS（エックス【旧ツイッター】、フェイスブック、インスタグラム）
4. 多摩区観光協会ホームページ「多摩区見どころガイド」
5. 多摩区観光ガイドブック「はなもす」（※イラスト②）
6. 多摩区観光ボランティアガイドの活動
7. ARを利用した「たまくdeAR！」（※1）
8. 特にない
9. その他（ ）



※1…登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区のまちと生田緑地や岡本太郎美術館、日本民家園、かわさきと緑の科学館などのアクセスルートにARスポットを設置し、スマートフォンで二次元コードを読み込むことで、施設のキャラクターと一緒に写真が撮れるなど、利用者に楽しみながら、まちや施設を周遊してもらう取組

災害に強く安全で安心できるまちづくりについてお伺いします。

問10 地震・風水害などの災害に備えるため、家庭内で現在行っている取組は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 3日分以上の食料の用意 (備蓄)

2. 3日分以上の飲料水 (1人1日3リットル) の用意 (備蓄)

3. 指定避難所 (※1) の場所や経路の確認

4. 指定緊急避難場所 (※2) の場所や経路の確認

5. 複数の避難先 (分散避難) の検討と確認

6. 家具の適切な配置や転倒防止対策

7. 窓ガラスの飛散防止対策

8. 懐中電灯など、停電に対する備え

9. 3日分以上の携帯トイレ (1人1日5回) の用意 (備蓄)

10. 衛生用品 (マスク、消毒液、体温計など) の用意 (備蓄)

11. 地震ブレーカーの設置 (地震の揺れを感じし自動的にブレーカーを遮断する機器)

12. 家族と緊急時における連絡方法の確認

13. ハザードマップや防災マップの確認

14. 避難行動計画 (マイタイムライン) の作成

15. 地域の防災訓練への参加

16. 特にない

17. その他 ()

※1…災害の影響により自宅に住めなくなった場合などに、避難生活を送る場所

※2…切迫した災害の危険から一時的に逃れるための場所

すこやかに安心して暮らせる地域福祉・健康のまちづくりについてお伺いします。

問11 誰もが住み慣れた地域や場所で安心して暮らし続けるため、医療、看護、介護、福祉・生活支援が切れ目なく一体的に提供される仕組みと地域づくりの取組である「地域包括ケアシステム」を知っていますか。(○は1つだけ)

1. 知っている

2. ある程度知っている

3. 聞いたことはある

4. 知らない

問12 地域包括ケアシステムにおいて一人ひとりに期待される行動として、自助（生きがいづくり・健康づくりなど）、互助（地域の交流・支え合いなど）がありますが、あなたは次のような行動をしていますか。（あてはまるものすべてに○）

問13 また、してみたいことはありますか。（あてはまるものすべてに○）

回答例	問12 している	問13 してみたい
1. 趣味など生きがいづくり	1	1
2. 食生活改善や運動・体操などの健康づくり	2	2
3. 育児・介護・健康・医療・福祉などの情報収集	3	3
4. 地域のお祭りや防災訓練などの地域の催しへの参加	4	4
5. 近隣住民とのあいさつ、交流	5	5
6. 近隣住民の見守り、声かけ、支え合い	6	6
7. 地域活動、ボランティア活動に参加（例：町内会・自治会、まちなみ活動、PTA、趣味や特技を活かした活動など）	7	7
8. 興味・関心事や状況、世代が自分と近い人との交流（例：子育てサークル、高齢者サロン、趣味のサークルなど）	8	8
9. 興味・関心事や状況、世代が自分と異なる人との交流（例：高齢者と子どもの昔遊び教室、外国にルーツを持つ住民との交流など）	9	9
10. 特にない	10	10
11. その他 ()	11	11

問16 多摩区では、健康の維持増進のため、高血圧予防の取組を推進しています。あなたの現在の健康状態について教えてください。(○は1つだけ)

1. 医師から高血圧と診断されていて、血圧の薬を内服している
2. 医師から高血圧と診断されているが、血圧の薬を内服していない
3. 医師から高血圧と診断されていないが、高血圧と自覚している
4. 1～3いずれにも該当しない

問17 互助（地域の交流・支え合いなど）の取組についてお伺いします。
あなたの近所付き合いは以下のどれにあてはまりますか。（○は1つだけ）

1. 家族のように親しく付き合っている人がいる
2. 家に行き来したり、親しく話をする人がいる
3. 親しく話をする人がいる
4. ときどき話をする程度
5. あいさつをする程度
6. ほとんど付き合いがない

問18 日頃の生活で自分と世代が異なる人との付き合いが多いですか。(○は1つだけ)

1. そう思う
2. どちらかといえそう思う
3. どちらかといえそう思わない
4. そう思わない

問19 困ったとき、近所にちよっとした手助けを頼める人はいいますか。(〇は1つだけ)

1. いる→問20へ

☞ 問19で「1. いる」と答えた方にお伺いします。

問20 近所の人にちょっとした手助けとして、どのようなことを頼むことができますか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 話し相手
2. 週1回程度の見守り
3. 散歩の付き添い・介助
4. 通院の付き添い・介助
5. 日用品の買い物
6. 庭木の水やり
7. 庭木の剪定、草むしり
8. 日曜大工程度の修理
9. 家具の移動、部屋の模様替え
10. 蛍光灯、電球の交換
11. 縫いもの（ボタン付けなど）
12. 犬の散歩
13. ごみ出し
14. パソコン・スマートフォンの操作説明
15. 簡単な書類作成
16. 短時間の子どもの預かり
17. その他（ ）

問14 自助（生きがいづくり・健康づくりなど）の取組について伺います。
 区民の健康づくりを推進するために、どのような取組が重要だと思いますか。
 （あてはまるものすべてに○）

1. 健康づくりができる場所の整備や提供
2. 健康づくりに必要な知識の普及・啓発
3. 各種健康診断の充実
4. SNSを活用した情報発信
5. 相談体制の充実
6. 健康づくりを指導できる人材の育成・確保
7. 健康づくりグループの紹介
8. 健康づくりを指導できる人の派遣
9. 健康づくりに関連したイベントの開催
10. 健康づくりに関連した講座の開催
11. わからない
12. 特になし
13. その他（

問15 あなたは日々の健康づくりとして、次にあげる項目についての程度意識していますか。
(○はそれぞれ1つずつ)

	意識している	ある程度意識している	あまり意識していない	意識していない
回 答 例	1	2	3	4
(ア) 毎日、血圧を測定する	1	2	3	4
(イ) 週に2回程度、1回30分以上の運動をする	1	2	3	4
(ウ) 日常生活でこまめに身体を動かす	1	2	3	4
(エ) 塩分を取りすぎない	1	2	3	4
(オ) 夕食は就寝2時間前までに済ませる	1	2	3	4
(カ) 月に1回程度、体重を測定する	1	2	3	4
(キ) 飲酒は適量を心掛ける	1	2	3	4
(ク) たばこを吸わない	1	2	3	4

☆ 全員の方へお伺いします。

問21 多摩区役所では、認知症を正しく理解し、認知症の方やその家族を見守るために、認知症サポーター養成講座を行っています。この講座を受講したことがありますか。また、受講したいと思いますか。(○は1つだけ)

1. 受講したことがある
2. 受講したことはないが、ぜひ受講してみたい
3. 受講したことはないが、きっかけや時間があれば受講してみたい
4. 受講したことはないし、受講したくない
5. わからない

市民自治を一層進める地域人材によるまちづくりについてお伺いします。

問22 多摩区は多摩区とゆかりのある専修、明治、日本女子の3つの大学の持つ知的資源や多彩な人材を活用したさまざまな取組を通して、大学と地域社会との交流連携を深めてきました。あなたが知っている大学・大学生が関連したイベントや取組などがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 多摩区3大学コンサート
2. 大学図書館の地域開放
3. 大学・地域連携事業
4. 生田緑地イベントランス
5. スポットでのポスター掲示
6. 大学公開講座
7. 多摩区・3大学連携協議会情報誌「たまなびニュース」
8. たまなびプログラム(大学生と地域のつながりづくりや交流を促進する取組)
9. 知っている取組・イベントはない
10. その他()

(例: 箱根駅伝出場校への応援メッセージ募集など)

問23 市が策定した「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」における区域レベルの取組として、地域の活動などの下支えや補完をしながら、区の特性に依じた支援策を実施するために、多摩区役所1階に区民主体で開設された「多摩区ソーシャルデザインセンター」(※1)を知っていますか。(○は1つだけ)

1. 知っている → 次ページ問24へ
2. ある程度知っている → 次ページ問24へ
3. 聞いたことはある → 次ページ問24へ
4. 知らない → 次ページ問26へ

※1…多摩区ソーシャルデザインセンター

区民中心の運営主体のもと、地域の人やモノをつなげ、新たな価値を生み出す中間支援の活動のほか、地域活動に関する情報発信や、「登戸・たまがわマルシェ」、「子ども食堂」などの多世代が交流する場の創出、地域団体からの相談受付や運営支援などを行っています。

☆ 問23で「1. 知っている」「2. ある程度知っている」「3. 聞いたことはある」のいずれかに答えられた方にお伺いします。

問24 多摩区ソーシャルデザインセンターの取組で知っているものがありますか。(あてはまるものすべてに○)

問25 利用、参加したことのある取組はありますか。(あてはまるものすべてに○)

回答例	問24 知っている取組	問25 利用、参加したことがある取組
1. 地域活動に関する相談受付	1	1
2. SNSや広報誌による情報発信	2	2
3. 地域で活動する団体などへの助成事業	3	3
4. 登戸・たまがわマルシェ	4	4
5. 活動報告会	5	5
6. 地域イベントでの出店	6	6
7. 子ども食堂	7	7
8. まっちゃん習塾	8	8
9. 多摩区ソーシャルデザインセンターでの弁当販売	9	9
10. 登戸・たまがわうんどうかい	10	10
11. 障害者団体などの作品の展示・販売	11	11
12. たまミュージックヴィレッジ	12	12
13. ドッジボール講座	13	13
14. 特になし	14	14
15. その他()	15	15

☆ 全員の方へお伺いします。

問26 多摩区におけるソーシャルデザインセンターが力を入れて取り組むべきと思うものをお選びください。(あてはまるものすべてに○)

1. 地域活動に関する相談受付・支援
2. 地域活動を行っている団体に対する資金助成
3. 地域人材の掘り起こし、人材バンク構築
4. 地域情報の収集・発信
5. 地域の交流促進に向けた主催イベントの実施(登戸・たまがわマルシェなど)
6. 地域イベント(夏まつりなど)への参加・協力
7. 市民講座の開催など地域人材の育成
8. 誰もが気軽に集える地域の居場所(まちなひろば)の創出
9. 地域課題の解決を目指す調査・研究や社会実験の展開
10. 多摩区の自然環境や、地域の資源を活かした取組の実施
11. わからない
12. 特になし
13. その他()

問27 生田出張所は「共に支え合う地域づくりを推進する身近な地域のコミュニティ拠点」として利用されています。次のうち、地域団体や市民の方が利用できる生田出張所の市民利用スペースについて、あなたが知っているものはありますか。（あてはまるものすべてに○）

- | |
|------------------------|
| 1. 大会議室（2階） |
| 2. 生田交流センター（2階） |
| 3. 多目的スペース（3階） |
| 4. キッチンコーナー（3階） |
| 5. 生田出張所新広場（生田出張所敷地北側） |
| 6. 特になし |

問28 生田出張所がコミュニティ拠点として活用されるために、力を入れてほしい取組はどれですか。（あてはまるものすべてに○）

- | |
|-------------------------------|
| 1. 利用可能な活動（多摩区内での地域活動）の拡充 |
| 2. 利用可能な設備（プロジェクター、スクリーン等）の拡充 |
| 3. 利用可能な日時（平日・土日祝9～21時）の拡充 |
| 4. 収集・発信できる地域情報の拡充 |
| 5. 地域の交流促進に向けたイベント・取組の実施 |
| 6. 予約手続（電話・メール予約）の簡便化 |
| 7. 利用手続（カギの事前受領等）の簡便化 |
| 8. 特になし |
| 9. その他（ ） |

区役所が力を入れて取り組むべき施策についてお伺いします。

問29 区民に身近な区役所が特に力を入れてほしい区の事業はどれですか。
（あてはまるものすべてに○）

※項目の後ろに（市）とあるものは、現時点で主に市役所を中心として進めているもの

- | |
|----------------------------------|
| 1. 区役所の業務などについての広報、情報提供 |
| 2. 区政への市民参加の促進のための施策 |
| 3. 町内会・自治会、市民活動の支援に関する施策 |
| 4. 災害時の対応などの危機管理 |
| 5. 防犯対策 |
| 6. 交通安全対策 |
| 7. 音楽など芸術・文化的な催しや活動 |
| 8. 商店街振興（市） |
| 9. 観光推進 |
| 10. 区のイメージの向上 |
| 11. 窓口サービスの向上 |
| 12. 道路の美化・清掃 |
| 13. 公園の整備や維持管理 |
| 14. 自然や緑の保全（市） |
| 15. 地球温暖化対策 |
| 16. 大気汚染や騒音・振動などの対策（市） |
| 17. 日常のごみ収集やリサイクル（市） |
| 18. 子ども・子育てのための施策 |
| 19. 高齢者のための施策 |
| 20. 障害児・障害者のための施策 |
| 21. 健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策 |
| 22. 新型コロナウイルス感染症対策 |
| 23. 主要な駅周辺の再開発（市） |
| 24. 道路・歩道の整備 |
| 25. 放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策 |
| 26. コミュニティバスなどの地域交通のための施策（市） |
| 27. 区民が学習する機会の提供 |
| 28. スポーツ・レクリエーションの推進 |
| 29. わからない |
| 30. 特になし |
| 31. その他（ ） |

■ あなた自身のことについて

このアンケートの統計分析に必要なため、次の項目についてお伺いします。

問30 あなたの性別をお聞かせください。(○は1つだけ)

1. 男性 2. 女性 3. 選べない・答えたくない

問31 あなたの年齢をお聞かせください。(○は1つだけ)

1. 18～19歳 6. 40～44歳 11. 65～69歳
2. 20～24歳 7. 45～49歳 12. 70～74歳
3. 25～29歳 8. 50～54歳 13. 75歳以上
4. 30～34歳 9. 55～59歳
5. 35～39歳 10. 60～64歳

問32 あなた現在の職業をお聞かせください。(○は1つだけ)

1. 自営業 5. 内職
2. 家族従業(家業手伝い) 6. 主婦・主夫(家事専業)
3. 勤め(全日) 7. 学生
4. 勤め(パートタイム) 8. 無職(収入が年金のみの方を含む)
9. その他()
- 問32-2へ → 次ページ問33へ

☞ 問32で「1. 自営業」「2. 家族従業(家業手伝い)」「3. 勤め(全日)」「4. 勤め(パートタイム)」のいずれかに答えられた方にお伺いします。

問32-2 お仕事の内容を具体的に聞かせください。(○は1つだけ)

- 自営業、家族従業の方
(1～3の中から選びください)
1. 農林漁業 4. 経営・管理職
2. 商工サービス業 5. 専門・技術職
3. 自由業 6. 事務職
7. 技能・労務職
8. 販売・サービス職
- 勤め(全日/パートタイム)の方
(4～8の中から選びください)

☞ 全員の方へお伺いします。

問33 お勤め先または通学先はどちらですか。(○は1つだけ)

1. 川崎市内(多摩区) 5. 東京都(23区内)
2. 川崎市内(多摩区以外) 6. 東京都(23区以外)
3. 横浜市 7. 通勤・通学していない
4. 神奈川県内(川崎市・横浜以外) 8. その他()

問34 あなたのお住まいをお聞かせください。(○は1つだけ)

1. 生田1～3丁目 10. 菅1～6丁目 19. 東三田2丁目
2. 生田4～8丁目 11. 堀1～3丁目 20. 布田
3. 宿河原1～7丁目 12. 中野島 21. 梶形1～7丁目
4. 菅稲田堤1～3丁目 13. 中野島1～6丁目 22. 栗谷1～4丁目
5. 菅北浦1～5丁目 14. 長尾1～7丁目 23. 寺尾台1～2丁目
6. 菅城下 15. 登戸 24. 長沢1～4丁目
7. 菅仙谷1～4丁目 16. 登戸新町 25. 西生田1～5丁目
8. 菅野戸呂 17. 東生田1～4丁目 26. 三田1～5丁目
9. 菅馬場1～4丁目 18. 東三田1、3丁目 27. 南生田1～8丁目

問35 あなたのお住まい(住居)は次のどれに当たりますか。(○は1つだけ)

1. 持ち家(一戸建て) 5. 借家(アパート・間借・下宿)
2. 持ち家(マンション・団地) 6. 社宅・寮・公務員社宅
3. 借家(一戸建て) 7. その他()
4. 借家(マンション・団地・公営住宅)

問36 現在、同居している方は何人ですか。御自分を含めた人数を()内に御記入ください。
また、ひとり暮らし以外の方は、同居している方すべてに○をつけてください。
あなたからみた続柄でお答えください。

同居している方の人数(御自分を含む)・・・()人

- 同居している方 1. 夫 7. 兄弟、姉妹
(ひとり暮らし以外の方) 2. 妻 8. 孫
3. 父 9. 父母の親(祖父母)
4. 母 10. 配偶者の兄弟、姉妹
5. 子ども 11. 配偶者の父母の親
6. 配偶者の父母 12. その他()

令和 6 年度
多摩区区民意識アンケート調査
報 告 書

発 行 令和 7（2025）年 2 月

調査主体 川崎市多摩区役所

まちづくり推進部 企画課

〒214-8570 神奈川県川崎市多摩区登戸 1775-1
044-935-3140

調査実施 株式会社 綜研情報工芸

〒105-0014 東京都港区芝 2-3-3
JRE 芝二丁目大門ビル 7 階



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市